

279.5-91



279.5  
11



始





8.4.22



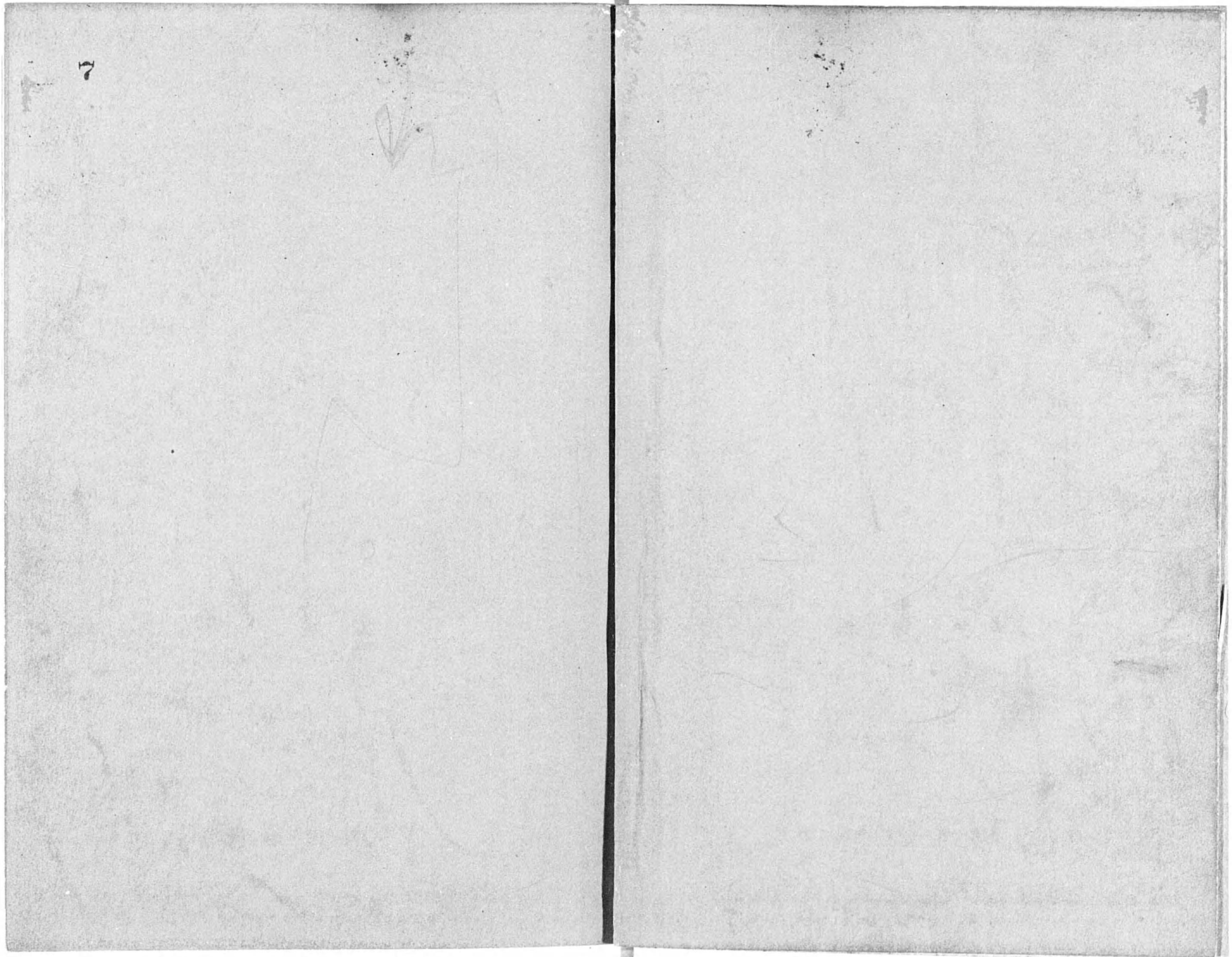


非常時之日青年教育方針



國民教育會發行







非常時日本青年教育方針

國民教育會發行





279.5-91

### 發刊の言葉

昭和八年それは日本帝國に取まして大いに覺悟と決心とを以て望まねばならぬ重大時期であります。内に思想問題、經濟問題あり、外に日支問題を主題としたる國際聯盟の紛争あり名實共に非常時に盡されます。舉國一致以て此の難局を打開せざれば帝國の前途誠に憂慮に堪ません。

此の非常時に際し國民の覺悟は如何に、曰く國難打開、自力更生されど物質文化に陶醉せる我が多くの國民は本來の東洋精神文化を忘却なし一に物質、二に黄金崇拜の迷夢より覺めず爲に一攫千金を夢見て勤勞を厭やうになつた。

このよつて來る深淵は多々あるにせよ教育上に一大過誤があつた物ではないであらうか？

此の非常時を打開して祖國日本を背負立つは誰あらう今の青年男女に外ならぬ。青年男女の教育指導の任にある教育者の責任こそ重且大と言はねばならぬ。



本書は全國の實際教育家より非常時日本の教育方針及青年指導方に付て御執筆を願ひ四十人の御意見を發表する事を得たは本會の光榮とする所であります。幸ひ本書によつて一人の國民でも多く邦家の爲貢獻せられん事を待望してやみません。併て御執筆下さいました諸先生に對して衷心より感謝致します。

昭和八年一月

發行者識

非常時日本青年の教育方針目次

現代病所感	福岡縣立嘉穂中學校長	有吉半祐	一
全日本青年に告ぐ	埼玉縣立本庄中學校長	金子道啓	五
農村青年に就いての感想	兵庫縣立淡路高等女學校長	瀨口眞喜郎	一二
現代の實相に立脚せる教育を振興すべし	長崎縣立壹岐中學校長	西田徳峻	一五
國を救ふ教育	大分縣立臼杵商業學校長	高橋良一	二〇
武道精神涵養の必要	山形縣立米澤興讓館中學校長	大野芳磨	三〇
御聖慮に感激せる我等農民の覺悟	山形縣立庄内農學校長	石田恭吾	三五
時局に鑑み教育者の特に努力すべき重點並に之れが實行方案	兵庫縣立山崎高等女學校教務主任	宮崎傳治	四五
思想觀念の向上について	山梨縣立都留中學校長	山中恵教	五二
女子青年に望む	茨城縣立水海道高等女學校長	袖山千尋	五七
時局に鑑み教育上改善すべき要項	石川縣立金澤第三中學校長	大河内秀夫	六一
國難打開と教育の革新	群馬縣立太田中學校長	湯澤徳治	六四
時局に鑑みたる我校生徒指導の實際	三重縣大湊町立工業學校主事	大野和平	七三
農業教育の根本指導精神	山口縣立日置農林學校長	櫻田潮生	七六
時局に鑑みて	和歌山縣立紀北農業學校長	遠藤勘三郎	八〇
頭と心情と意志の調和的人間への教育	新潟縣立新津高等女學校長	川崎利太	八三
所感	鹿兒島縣立第一鹿兒島中學校長	野山忠幹	八八
國民更生運動に直面して吾人の反省	埼玉縣立山實科高等女學校長	荒井三治	八九



特に青年學徒諸君に與ふ…………… 德島縣立麻植中學校校長 三木政次……………九四  
時局に鑑み青年諸君に告ぐ…………… 千葉縣立成東中學校校長 中山音彌……………九九  
現代の世相國情と我が國民教育…………… 鹿兒島縣立奄美高等女學校校長 大井徹翁……………一〇三  
經濟觀念と自覺…………… 富山縣立伏木商業學校校長 青木與吉……………一〇九  
現世相に鑑み滿天下の青年男女に對して特に勤勞主義を提唱す…………… 香川縣立丸龜中學校教諭 秋山秀治……………一一四  
農村更生策…………… 三重縣立名賀農學校校長 谷本龜次郎……………一二一  
思想經濟難打開の基礎的要件…………… 東京府立高等家政女學校校長 清水福市……………一三一  
如何にして向上すべきか…………… 宮崎縣立小林中學校校長 石川重一郎……………一三六  
一教師の立場より…………… 盛岡高等農林學校教授兼生徒主事 安田貞雄……………一四一  
顧れ祖國日本を…………… 愛知縣岡崎市立商業學校教諭經濟學士 西澤喜洋……………一四六  
部隊直進の精神…………… 兵庫縣立伊丹中學校校長 森田勝平……………一四九  
思想問題所感…………… 和歌山縣古座高等女學校教諭 宮脇信教……………一五〇  
現代中學教育の努力方向…………… 熊本縣立御船中學校校長 古賀重利……………一五五  
教育の更生…………… 埼玉縣立川越高等女學校校長 逸見宮吉……………一六一  
自力更生策…………… 福島縣女子師範學校校長 前田恒治……………一六四  
青年男女指導の根本要諦…………… 千葉縣立安房高等女學校校長 梶矢忠部……………一六九  
青年男女の思想觀念經濟觀念の指導に就て…………… 兵庫縣立上郡高等女學校校長 三浦林平……………一七五  
大なる幻を凝視めよ…………… 熊本縣立商業學校教諭 手島郁郎……………一七七  
現代の世局に直面して…………… 大阪府天王寺師範學校校長 淺賀辰次郎……………一八二  
青年を如何に指導すべきか…………… 岩手縣立盛農學校校長 小山幸右衛門……………一八七  
生生活道…………… 廣島縣向原高等女學校校長 田中直一……………一九〇  
自力更生の要諦…………… 奈良縣女子師範學校校長 北村重敬……………二〇二

# 非常時日本青年の教育方針

## 現代病所感



福岡縣立嘉穂中學校校長 有吉半祐

現代の國民思想混亂の由つて來る淵源は大小輕重數限りなく擧げる事が出来る。今夫を一々列舉しやうとは思はない。又社會各層の混亂實情を暴露して徒に慷慨悲憤するも詮ない事。兎も角政治産業教育經濟一切が行き詰まりのどん底にある事は論證するまでもなく自力更生は獨り農漁山村や小商工業者に止まらず政治家も實業家も官吏も教員も老壯年も青少年も男も女も國民總動員で緊揮一番徹底的に自奮自勵生活態度を一新しなければ此現下の難局打開は勿論の事國運の將來は到底悲觀の外はあるまい。私は教育者の末席に居るから常に社會の實相を教育の立場から諦視して居るが多年考察の結果は現代社會各方面の社會病は不思議にも年來蘊釀し來つた學校病と符節を合する様に符合するもの



あるを感ずる。私の青年子弟に對する教育の根本方針も全部此着眼から割り出さるゝのであるが、私は簡略に所謂社會病學校病の正體を述べて其根治策の一端に觸れて見やうと思ふ。

随分我國にも勞働爭議があつた、今も到る處に其聲をきく。多くは賃銀の値上げ勞働時間の短縮待遇の改善設備内容の充實等々盛り澤山の要求をする資本家の之に對する對抗あり、之に類する階級闘争は何といつても現代に於ける特筆すべき一事象であらう。私は全然此事を惡事とは思はぬ。従つて否定もせぬ。只私の詰問したいのは勞働従事者に平素自分の本務を貫行しつゝありや否やの一點である。本務を十分盡して成績が向上すれば報酬の如きは自然に向上するのである。然るに大勢は左にあらす、日常の仕事はいゝ加減甚しきは遊び半分、少しも熱誠はこもらず、相成るべく勞力を省く様にして只賃金だけは出来る限り貪らんとするの傾向がある。一言にすれば仕事は目的でなく、只月末の賃金が目的、敵は脚下になくて本能寺にあるわけである、稱して之を敵本主義といふ。然らば資本家はと見るに事業そのものによつて社會の福利を増進し一般の公益を圖るのが主眼でなく、只期末の收益が目的である。従つて勞働者などは眼中になく全くの器械扱ひ物品扱ひである、之亦目的は期末の決算にあつて、事業そのものにない事は勞働者の場合と全然其揆を一にするのである。兩者交々利を征する外何物もなくそこに何等人格的態度の片影だに認むることが出来なかつた。我國の既往の歴史

は全然斯くの通りだと斷言を憚らぬ。斯かる弊風の根本革正は勞働者側に在つては至誠純潔其日の仕事に當り資本家亦至誠純潔其事業に努力する、でなければ眞の解決は六ヶしい。そこに眞の勞資協調は成立し事業は發展するわけである。過去の日本の議會の狀況を見るも全く此通りであつた。黨利黨益又は政權欲の爲めに議場の内外で明暗の内に活躍はするが、眞に國民民福の爲めに粉骨する政黨も議員も少なかつた、其結果は遂に國民の信頼を失墜し、果ては議會否認の聲さへ喧傳さるゝに至つたのである。立憲政治の本質に立脚して議會の眞使命に向つて代議士は勿論、國民全國民が邁進するより外に之が打開策はない筈である。其他の社會現象比々皆同様であるが、かゝる非人格的の社會現象を醸成したる根原に溯れば年來の學校教育の方法に一大過誤のあつた事を痛感するものである。敢て教育方針とは言はぬ。教育方針は柄として教育に關する勅語に明示されて居るが、其方法の上に大變な過誤があつた事を痛感する。色々文政當局の御盡力で改善はされつゝあるやうだが、夫でも其病根は根強く却々に取除かれそうに受取れぬ。夫は何かといふに、下は小學より中等學校高等專門大學に至るまで試験萬能の氛圍氣である生徒學生は日常の勉強が日常の研究が目的ではなく、學期末學年末の試験が目的である、試験の爲に不得已勉強するのであつて、試験がなければ出来る限り勉強せぬといふ氣風が醸成せられ、試験の爲に夜を日についで晝夜兼行で勉強する、其反動として平常の學習に



は力が入らぬ。即試験勉強であつて斷じて研究の爲めの研究學問の爲めの學問ではない、従つて平素の學問勉強には何等の興味も奮發もなく只覗ふ所は試験と點數である。之が爲にはある限りの浮身をやつし、あらゆる手段を弄して之を突破しやうとする。小學校に於ては夫程でもないが、かゝる氣分が皆無とはいへぬ中等學校より愈々甚しく試験萬能の氛圍氣が漲る現狀である。彼の勞働者が仕事は目的でなく期末の賃銀が唯一の目的たると何等の相異はないのである。今日の實社會はかゝる學校教育の出身であるとするれば、故に今日の斯の如き社會病の根原は實に學校教育に於て養成せられたりと斷言するも過言ではないと思ふ。先年文部省は茲に着眼せられ中等學校の入學試験を初め、學校に於ける試験制度全廢を實施せられた事を今尙痛快にも思ひ劃時代的の一大革新だと私は喜んで居る。然るに當局者の交迭と共に彼の試験廢止の制度は今日は昔の夢となり了した。併し此學校に於ける試験勉強の惡弊は獨り教育だけ學校だけの問題でなく、普く國民全體の思想上の大問題社會上の大問題と思ふのである。従つて會社も商店も資本家も勞働者も一切の社會が人格的に眼覺める様、一切の機構を改善することを當然必要と思ふけれども、何といつてもすべて社會文化の根本要素は教育であるから、教育の方法に於て一路邁進此根本惡除去に努力することが最も緊要と思ふのである。悲いかな我々は制度や習慣の捕虜になり勝ちである、併し卓見ある多くの教育者中多數の同志がこゝに着眼せられて折角努

力中の事と樂觀はして居るが、私の見聞の狭き範圍内では殆んど試験廢止前の舊態と何等相違はない様だ。強いて相違點を求むれば試験を考査と改變した位のものである。名目を取り代へても實質に變はりがなければ何にもならぬ事はいふまでもない。かゝる風潮の中に立つて私は孤軍奮闘自己の所信に向つて邁進して居る積りだが、國民更生を叫ぶる、政府就中文政當局は教育行政の立場から先年の田中内閣水野文相、山崎次官の轍を蹈んで大聲疾呼此教育上の根本革新に着手せらるゝ事を私は中心より待望するものである。勿論政府の鞭撻なくとも天降り式の制度はなくとも私共教育の重責を負ひ實務に當つて居る者は、自己の職責を遂行する上に何等躊躇するものではない事勿論である。以上は私の教育上の一面觀であつて而して社會匡救の根本意見である。

## 全日本青年に告ぐ

埼玉縣立本庄中學校校長

金子道啓

今や我が帝國は、種々重大問題に直面し、殊に思想問題、經濟問題、國際問題最も重大にして、現下の世界的經濟不況は、人心を極度に萎縮せしめ、性質殺伐粗暴に導き、社會を呪ひ人を怨み、青年



男女に激瀾たる元氣消失し、道德的觀念日に／＼薄れ行く今日吾等青年子弟の尊き教導に従事するもの、誰か黙視するに忍びんや。

それ興國の基は活教育である、健全なる中堅國民が大成せねば日本は興らない、日本が興らなければ吾等教員は生きんでよい。吾等教員が灰になるか中堅國民を大成するか。日本を旺んにするか、吾人教育者の肝に銘する大責務である。

願くば護國神靈の加護、大衆諸氏の協力によりこの難局を打開し興國日本の意氣を中外に發揚し、忠孝の本儀に透徹せんことを期す。

抑々現下農民の悲境を凝視するに、その原因大凡次の如く、一半の責任農民にあるを思ふ。

- 1、先祖代々引き次ぎの借財。
- 2、歐洲大戰に伴ふ好景氣浪費弊。
- 3、勤勞嫌忌と勤儉の減滅。
- 4、信用組合の寛大なる融通。
- 5、公課負擔の過重。
- 6、農産物價の世界的下落。

7、耕地面積に比し人口増殖過多。

以上1、2は既に過去の過失にして今更之を咎むるも詮なし。

猶ほ中小商工業者山漁村の疲弊は農民の困憊より、購買力激減となりたるによるならん。

更に現下思想の惡化と認めらるるものに、

- 1、政府を顛覆し朝憲を紊亂せんとするもの。
- 2、私有財産制度を否認し契約營業競争の自由を否認せんとする思想。
- 3、政治的經濟的乃至社會的に現状打破を策する左傾、右傾の思想。
- 4、極端なる自由平等の思想。
- 5、階級鬭争強調の思想。
- 6、不合理なる黨争強調の思想。
- 7、功利主義的思想等々。

以上思想及經濟觀念の兩方面に互る禍根の概略を明にせるを以て、吾人教育者の立場より、その指導原理につき愚見を開陳せん。

(1)、人格教育の徹底。現下學校教育の大半は上級學校進學のための偏知教育に流れ人格教育に重



點を置くもの寥々たるは誠に自責の念に堪へざるものあり。吾人は須らく知識偏重に陥ることなく特に國體觀念を明徴にし、我が國建國の大精神に徹し國民理想を明確にし進んでこれに對する確固不拔の信念の確立に力め、我が國體を中心とする國民文化建設に邁進せしめ、立憲自治の精神を涵養し國民及公民たる資質の向上を計り、更に遵法の精神共存共榮の本義を明にし、各々其の分に應じ國家公共のために奉仕するの氣風を養成し、以て時局匡救の原動力たらしめねばならぬ。換言すれば現下非常時の教育は將來國家を擔つて立つ人物、日本帝國の爲めにその一切を喜び勇んで犠牲とする國民を養成するのが主眼である。日本の教育は國家の爲めの教育である。吾人教育者は常に家庭及社會と協調を保ち自ら率先躬行、範を垂るるにつとめ全職員協力一致渾身の生徒愛の熱情を以て個人的薫化に努力せねばならぬ。

「健全なる國民の養成は一に師表たる者の徳化に竣つ」ものなれば、教師は常に道德上の信念を養ひ全我を以て、教育にあたるの情熱と、至誠とを以て、高遠なる理想を望み又現實の社會相を遠觀し、常に廣汎なる見地より、生徒を指導せねばならぬ。

(2)、勤勞教育の徹底。現下の世相を見るに一般に勞働の嫌忌と勤儉心の減滅とに加へ歐洲大戰後の浪費の習慣に馴れ今日に到れるを以てその弊風除去、改めて質素勤儉の氣風を振作し勤勞愛好の美

俗を涵養することが第一緊急のことと信ずる。この勤勞教育の徹底により、初めて教育の眞價を發揮することが出来るのである。口舌の教授は唯屁理屈を教ゆるに止まるものと知れ。凡そ有ゆる生物を見るに活動しないものはない。活動は生物の生命で怠惰は死である。人間は額に汗して、初めて人生の眞の眞價を知り、生活の意義を悟るのである。この勤勞教育から、物事を活かすといふ心情に進展するのである、即ち「大切にする」「可愛いがる」「勤儉をする」等の美德に至る、斯くて學校に於て或は社會に出て、各人夫々適所に活動することが、眞に生きる道である。心の美化、校風の振作、社會の淨化、自力更生の激瀾たる氣風がこゝから湧出するのである。斯くして海外移民を奨励し、人口過剰を調和し、兼ねて經濟的發展を策せねばならぬ。

(3)、都市中心主義都會偏重の教育を一日も早くやめて、青年男女が悦んで田園生活に安んずるやう、文化的設備をなし、總ての方面に亘り、地方遷元を一層濃厚ならしめるやう爲政者と計り、都會偏重の迷夢から醒めさせねばならぬ。特に中央に於て各方面に名をなし、功を遂げた人士は、よろしく田園に轉住し、その指導者となつて貰ひたい。

清潔なる空氣、豊かなる山水の美に恵まれたる農村は、人類の墓場といはるる都會に比し、誠に平和であると共に、農村は元氣な國民を産出する母胎である。



古來大都會に重要な地位を占めてゐる人士には、農村出身者が多いではないか醒めよ青年!!

(4)、消費經濟生活の改善。現代の最も困難な最も切迫してゐる問題は、日々生計に窮してゐる家族の多數あることである。如何にしてこれ等多數の家族の生計を安定せしむべきか、生計は先づ勤勞によつて創造せられる、斯くして收得せられた財は、家族によりて消費せらるるので、家庭に於ける主婦の自覺を促し、家庭教育の振興を計り、且つ家庭經濟の合理化、組織化、計畫化、衣食住の改善、消費の合理化を計り、經濟生活の更生、經濟力の伸張に努力することを教えねばならぬ。

今日の經濟學の目的は、生産よりも消費に意を用ひ、物を安價に、人を高價にすることを目的としてゐる。この目的を成就するために、先づ生活を合理化して、之を充實するやうに、消費に重きを置くのである。婦人はその消費の實際に、直接携はる任務が經濟上頗る重要なのみならず、その従事してゐる家庭管理の勞働も、立派な生産行爲であつて、決して消費行爲でないと思ふべきである。

(9)、體育運動の統制を計れ。現今社會がスポーツ、其の他各種運動に對する輿論の情勢を靜觀するに、甚だ遺憾とするところが多い。即ちスポーツ其の他の優勝者に對する賞讃優遇、歡待に厚くして、産業啓發、自治功勞者、發明發見者等に薄きにあらざるか、斯くして各新聞紙は常に運動の爲めに一頁を占有し、其の報道に全力を傾注するが如き状態である。

予は體育運動の賛成者であり、又實行者であり、これによりて青年の意氣を旺盛ならしめ、我が帝國を興さねばならぬと確信してゐるが、餘りにも偏頗なる世間の態度に憤慨する一人である。幸に野球については、今春文部省の統制なりたりと雖も、その他各種運動競技について果して充分にして、妥當なる統制行はれざるや否や、吾人は速に正しき統制ある體育運動により、益々國民體位の向上と運動精神の強調に力め、飽くまで、

- 1、選手の運動、選手の職業化に陥らず。
- 2、選手の野性化を防止し。
- 3、煽動者の運動たらしめず。
- 4、宣傳のための運動となるを防ぎ。

以て運動の普遍化、運動の一般化を計り、體育即生活、生活即體育の境地に進展せしめねばならぬ。以上五項目の教育を、青年男女に徹底せしめ、相携へて自を修め、家を齊へ、一面社會公私各團體の發展充實と相俟つて、舉國一致、渾然一體となつて現下の思想國難、經濟國難を打開し、新興日本の高遠なる理想に向つて、猛進躍進するところに教育者の眞使命、天職があると確信する醒めよ、國民!!



## 農村青年に就いての感想

兵庫縣立淡路高等女學校校長

瀬口眞喜郎

自分は現在の職務上からすれば、青年女子に對する感想でも述ぶべきであるが、本年は(昭和七年)七月下旬から八月下旬まで約五週間、村民が自ら承認してゐる貧弱な農村に生活し、其の男子と日夜交はる機会を得たから、其の間彼等の話もきき、氣風も知り、生活振りを實見——實驗ではない——した。で貧弱ながら一つの感想を生じ指導に關して一案を考へるに至つた。先づ概括して結論から之をいふなら彼等は國歩艱難を眞に認知してゐない。口では鸚鵡がへしに「國家多事」等といふが、所謂認識不十分である。該村は一戸當り田二反許りしかない貧弱さで、他に産業はなく、三百八十戸のものが唯年中其の日ぐらしの仕事に従事するのみで、仕事に對する誠實味がない。其の癖非常に利己的であるが勤勉といふものゝ價値を知らない。況んや「人生を如何に見るか」等は考へてもゐない。併し彼等に一點純真な所があるから指導者の如何によつては十分に教化し得るものと思ふ。

或る種の人々はいふ。現代は説教や訓戒に無力である。何等青少年を動かす力はない。故に進んで

社會の改造でも企つるか、然らざれば放任するの外ない」と。併し自分は決して然か思はない。多數群居によつて互に不徳を學びあひ、文明の名の下に動もすれば人を墮落せしめがちな都市の生活者と異なり、彼等は信頼すべき人の言には耳を傾くる純真さを失はないから、茲に十分の教化を施す餘地がある。けれども之れは現に各府縣で行つてゐる役人の巡回講演や又は一夜講習等の方法では甚だ微温的である。短期の講習や一場の講演も無効とはいはぬが、講演者が職業的であり、上司の命なるが故に出張し、其の講演が上手だ下手だと他人の批評を氣にするやうでは見たかやうな農村青年を教化することは難かしい。少くとも指導は相當長期でありたい。寧ろ不斷でありたい。そして指導者は朝夕青年と顔を合せ日常の生活を見せも見られもする人でありたい。よし多少の缺點を其の人がもつにしても同じ村内に住む人の方が年に兩三回巡つて來て表面を取りつくるふ職業講師より遙によいと思ふ。然らば其の人は現小學校教員か、神官か、將た僧侶か。之等もあながち悪くもなからうが、猶より以上の適任者を他に求めたい。

顧ふに維新以來六十餘年、如何なる寒村僻地にも其の郷土出身者にして嘗て公級官吏として、軍人として、又は教育者として、全國的に活動して相當な地位を占め、今や恩給に餘生を送るものが必ず兩手の指を屈する許りはあるだらう。之れ等の人々中には人物に於て、識見に於て、足嘗つて郷關を



出でない村人よりは勝ぐれた人があるに相違ない。之れ等は優に農村子弟を指導するに力あるものと信ずる。若しも何かの事情で故郷に歸らないならば村民は可成其の歸關を乞ひ一村の教化中心勢力としたい。即ち儀禮に所謂「致仕の士を以つて郷先生にする」の風を形成したいものである。斯くする事は農村の利福たると共に、其の先輩も徒に老いこまない良法である。

さて其の指導は年に一度や二度の講演でなく、教課目に拘泥せず、文明國人としての常識をすゝめ帝國臣民として根底ある信念を築き、公民としての品性を養ふことを中心に、「行ふて餘力あれば以つて文を學ぶ」、即ち實行本位の美風を醸成し、而して最も現代に薄れ行かんとする廉恥心を扶植したいのである。それには青年の朝夕面會する先輩中に然るべき人物がゐなければならぬ。

自分が今年夏期に感じた事からすれば、農村に最も不足するものは農産物でもなければ肥料代でもない。

品性高く且つ多少の識見ある青年指導者を缺くことである。従つて青年の多くは模すべからざることを模し、羨むべきでない事を羨望し、緊張した氣分で事をなさず、餘りに利己的で、惹いて廉恥の風を失はんとしてゐる。是れ實に彼等青年の爲めに惜しむのみならず國家の將來の爲め寒心する所である。然らば彼等青年は日常如何なる感化をうけつゝあるかといへば、多くは村内に於て自ら識者顔

する田舎政治家、一日遅れの新聞と路傍に傳へ聞いた世間譚を唯一の智識とする人を識者と思ひ、自ら家業にいそむでもなく朝に夕にノラクラと話しまはり、或は村政を名として屢々安料理屋に會合するものを見て當然の事と思ひ、不知不識の間に其の感化を受けつゝあることが多い。

而してそれ等田舎紳士の常として婦人の貞操は眼中になく、青年の前をも憚らず極端な猥談を交換し、甚だしきは眼に餘る行爲までやり兼ねない。斯くの如きは單に青年の智識向上に害あるのみでなく其の品性を損ひ、更に一村の風規を悪くする事が夥しい。之を思ふと見たが如き村の青年を到底現在のまゝにして置くべきではない。必ずや品位あり識見ある先輩を乞ひ——先輩と共に——青年指導の任に當つることは目下の急務である。

## 現代の實相に立脚せる教育を振興すべし

長崎縣立壹岐中學校校長 文學士 西 田 徳 峻

一

今や我が國は内外共に極度の危難に直面して居る。人口増加の問題、經濟の行詰り、國內政局の問題

現代の實相に立脚せる教育を振興すべし



等山積して、人に不安を懐かしむる事一通りではありませぬ。齋藤子を首班とする現内閣は、昨夏英國でマクドナルド氏が組閣されたクライシス・キャビネットと比較することが出来る程、現代我國の内政は困難であらうと思ひます。特に青年の思想問題は教育者及公私要路に立つもの、共に負ふべき責任であります。若し現代教育が之を根本的に批正善導せなければ教育の破綻と評價されても致し方なく、又行詰れる經濟の實狀を眼前に見ながら、之が救済の方途を講ずべく教育の改造を斷行せねば教育の無力と批難されても止むを得ざる事と存じます。

## 二

私は昨年(昭和六年)北米合衆國デンバー市に開催された世界教育會議に出席し、續いてアメリカ及歐洲各國を視察して來ましたが、學校設備の完備は羨望の至りであります。併し歐米の諸國と日本とは地理、風俗、人種を異にして居るから、必ずしも彼の國を模倣する必要はないと痛感致しました。勿論彼れの長を採り以て我が短を補ふは當然であるけれども、氣候を異にし經濟事情の異なる我國では全然の模倣は考へ物です。

## 三

古來我國の教育に於て經濟問題は如何に取扱はれたかと云ふと、中には個人經濟、國家經濟等の方

策を説かれた先覺の士もあり、又物品尊重の美德を高調された教育家もあります。併し大體に於て封建鎖國が續いた結果、金錢や物質の事を彼れ是れ云ふ事特に錢惜みをするを以て士の恥辱と教へられて來たのであります。出すべき金錢を出さぬと云ふことは元より不徳であります。併し經濟の事を眼中に置かぬと云ふ事も美德ではありません。金錢に就て學生は淡泊であると云ふ青年心理と武士は物質に頓着せぬと云ふ考とが結合して、教育上經濟教育が重きをなさなかつた事と思ひます。

## 四

時代は廻轉して今や經濟國難となり、國民生活は脅かされ、職を失ふて街路に彷徨するもの、職を得んとして悶ゆるもの續出するに至つて眞に痛心の極みであります。國家總動員して先づ此國難を切り抜けねばなりません。

現代教育に投げられる批難の第一聲はあまりに多額の學費を要すと云ふこととあります。政府又は公共團體學校設立者が教育費として支出する額は莫大なものであります。父兄保護者の負擔も實に過重であります。月々の授業料、教科書、ノート及學用品、校友會費、保護者會費、旅行積立金、材料費、被服費等を見積つたならば巨額に上り、子女の數人もある家庭では出費過半は子供の學費であります。親や兄弟は子供や弟妹の學資の爲に働いて居ると云ふも過言ではありませぬ。



故に學資輕減といふことを學校の方針とすると共に生徒も父兄も自覺して、體裁に因へられず、實質を主とした教育をせねばならぬ。元より都會と地方とにより父兄の經濟事情や環境も違つて居るから同一に律することは出来ませんが、學校をして單に知識の仕入場とせずして工場とし農園とし商館とせねばなりません。文部省に於ても中等學校に工作科園藝科實業科を設けて郷土教育の實際化を計り、一面には郷土教育を獎勵して居らるゝが、之をつき詰めると教育の經濟化と云ふことになります。アメリカでは家庭で必要なことを學校で習ふと云ふ主義であります。箒や塵取の製作や修繕を初めとし、自動車の操縦と修繕も可なり大切な事です。學校の工作室は一大工場の觀があります。其他必要なものを製作する設備は實にスバラシイものです。我國に於てもか様な實業教育の盛になることを念願して居りますが、殊に農村に於ては中學校生徒も農業に興味と知識とを持ち、農園を盛にせねばなりません。

國民生活の必需品として衣食住の三つが數へられますが、其内緊要中の緊要なものは食の問題であります。我國は國民の人口に比して土地狹小でありますから、米穀の増作が必要であります。進んで魚介、果物等の增收を計つて國民の生活を安定せねばなりません。我が壹岐の島は玄海の一孤島でありまして八平方里の所に四萬餘の人口があり、日本平均密度の二倍住んで居る譯であります。それ

でも、殆んど自給自足の生活をして居ります。今後人口更に増加するとも自給自足以て生活の安定を計らねばなりません。

## 五

教育に投げられる第二第三の批難は學校卒業生は筋肉労働を嫌ふとか危険思想を懐くとかの聲であります。之は前項に述べました實業教育を盛んにし、學資の負擔を輕減すると共に筋肉を使ふ作業を盛にすれば自ら解決する問題だらうと思ひます。我が學校に於て近頃軍隊式の作業をやつて居りますが、中々有効と思ひます。生徒の上衣を置く所は各自の四歩後ろにとか、十分間の労働をしては其場で五分間休むとか云ふことを一々號令の下に課して居りますが、其成績頗るよろしく且つ疲勞の程度も少く、他の學課に支障を來たさず、眞に有効だと思ひます。

働く習慣をつけて不正の事を考へる餘暇のない様にすることを學校で適當に指導し、社會も共に後進青年を導く事が肝要であります。

人間は夫れ／＼天賦の才能を有つて居ります。五十人のクラスの中には工作の得意なものがあります。其生徒たちは工作を大に習つて學校及生徒の机椅子其他の備品を製作して以て經濟の節約を計ることが有利であります。農業に興味を有てる生徒は大根其他の野菜を栽培し進んで牛馬を飼養し牛乳



を探り、之を寄宿舎に廻して食費の軽減を計れば更に結構であります。壹岐では中學校も女學校も寄宿舎の食費は月五圓乃至六圓で済して居ります。商業の得意なものは校内の共同購買の事務に當り、良品品物を安價で供給する様に努力すべきであります。

## 六

以上の所述は徹底を缺いて居りますが、要は學校をして孤立の城廓とせず、街頭の聲を聞き、民衆の叫びに應じて現代の實相に適當せる教育の實施を高調するに過ぎませぬ。民衆の聲は色々ある中に經濟國難、學資軽減の要望は最も切なるものであります。仍で我が學校で實施せる事實に基き聊か所見を述べたに過ぎませぬ。

## 國を救ふ教育

大分縣立白杵商業學校長 高橋良一

近年どうしたわけか犯罪者の多くなつた事と、その程度方法が益々酷くなつて來た事には誠に驚かざるを得ぬ。世間に知られた丈けでもかくの通りであるが、明るみに持出せば實際は罪になるのであ

るけれども、所謂惡運未だ盡きずに辛じてあぶない所でフラ／＼して居るのまで數へたならば、それはそれは夥しい事になりはせぬかと思ふ。殊に近年は下層の方ならばまだしも、高位高官の人で人々の師表たるべき立場に在る人々、又正しい道をふむ事にかけては第一人者といはるゝ人までが、どうした事が能く道を踏み違ひて、アタラ晩年を日蔭で送らねばならぬ破目に落ちこむだ人が何うも多くなつた様である。又一方には金のあるに任せて、又なくとも有るやうに見せかけて遣り繰り算段をして人を羨ましがらす様な生活振りをして居る人々も却々多い様である。

かういふ風ではいくら思想善導良化の道を上を下へと騒ぎ立て、莫大の金をその爲に費しても如何程の効果があるであらうか。その効果を最も大ならしめやうとするならば、先づ順序として先輩から慎むで呉れなければなるまい。然しよく考へて見ると、その罪は一般人にも無いとはいはれない。責任は双方にある様に考へられる。一體大きく考へると、「立派な人、えらい人」といふ事について世間の人々はチト感違ひをして居ると思ふ。財産の澤山ある人を世間は先づ尊敬して偉い人と思つてゐる。金のない人がつまらぬとするならば、釋迦、キリスト、ソクラテス杯は一番つまらぬ人である。西郷、乃木の先覺者もさうであらう。高い位に在る人を世間の人々はエライと尊敬して居る。權勢があつてハ、を利かす人を世間はエライと恐れ敬うて居る。高い位權勢のないのが馬鹿であるならば、釋



迦、孔子、キリスト、ソクラテスは最も馬鹿である。本當にエライものは金、位、権力の様に外から持つて来てクツ、ケたものではなく別にあるのである。金位權はその別のエライもの、附屬物である。それを頭から取り違ひて居るからこそ罪を犯す人もあれば犯させる人もあるのである。さういふもののトリコとなつて、無理算段遣り繰りの智力の廻る人を、世間の人々は頭のよい人といふて大に尊敬をする。

之が抑々の過ちをさせる本である。かういふ風に一般人の頭が凝り固まつて居ればこそ、思想も倍々悪化をする、又させるのである。私の考へでは此の類の人々の頭こそ本當に頭の悪いのではないかと思ふて居る。此の智力は決して明智ではない。大智でもなければ而して智慧でもない。之は邪智といふものである。小智、猿智慧で人を害し世を毒するものである。小智邪智が髮剃の様に鋭い人は、遂には自分の方がその爲に怪我をして、了へにはそれがウチミと病みつくのである。理論口上は巧みで、實行の方面が殆んど空虚なのが現代の世相であらうが、その本はその邪智小智に萌して居るのではなからうか。

經濟界の不調が加程までに永く深く廣く及んだ事は世界有史以來未だ嘗てない現象であらう。世界各國人智の能ふ限りの方策を施しても却々効果が見えて來ない。よく／＼深く考へると、否内省して

見ると、景氣の直らぬのが誠に當然である事に何せ衆人が氣づかぬのであらうか。一體物質文明の進むに連れて科學萬能的思想が彌漫して、自然を制服云々などいふ思想傾向は抑々誠に宜しくない。こゝに氣づいて自覺しなければならぬ。また自覺させねばならぬ。有りと凡ゆるもの一として自然の力が大本で、人力は以て之を補ふに過ぎないものはない、といふ事を種々なる機會を捉へてシムミリとミツチリ叩き込みたい。上層の人々は勿論師表に立つ人は、身先づ其の範を示すべきである。即ち信念、一種の信仰を持つべきである。人智人力も人生に貢獻することは多大であるが、先づその大本たる、否生の大主たる天地の大徳、自然の力に對して懼れ敬ふ所の敬虔の心が現代の人には最も缺けて居る。さればこそ如何に緊縮節約を強制的に勵行して見ても、已むなく表のみそれに一致した如く行つて抜けて、裏は誠に疑問である。

要するに既に「心の不景氣」が殆んど依然として居る。私は以上の如き心持ちを心の不景氣といふて居る。私の意志は自由である以上、物は精神に依つて支配され左右されるべきものであつて、精神が物に支配されるべきでない。不景氣といふものは畢意「物と物との關係が不調和の現象に成つた事」である。その物も、物の不調和も源は精神の働きの結果である。何處までも精神は、肉體は勿論全ゆるもの指導の立場にある。その主となる精神の不調整が依然として居る以上、物の不調の恢復せぬの



は餘りに明な實相である。世にいふ所謂不景氣を挽回救済しやうとすれば、先づ以て心の不景氣を矯正しなければならぬ。

然しその心の不景氣を正さんとするに當り、少青年のみに強い先づ先輩より身を以て下を率ゐなければ全てが虚である。まるで逆である。之が現代の最大缺陷である。之が天理天則に反して居る。されば青年の思想が益々悪化するのである。こゝをヨク噛み分けて欲しいものである。先輩から本當によい頭になつて貰はなければ何にもかも立つ瀬があるまい。政黨敢て有害にあらず、それに涉る人々が政黨政治を墮落腐敗させた其の影響は、何界といはず如何程浸潤して居るか。之を思ふと教育者は誠に情ない。遣る瀬がない氣もする。

教化といふ事を教育者のみに負はすのは誠に天理天則に戻つて居る。吾々教育者は能く訓示をした人がまだその舌が乾ぬ中に、變な事を行ひ出すといふ世相であつて見れば、かゝる國難の際に臨んでは上層階級の人々の深き内省に俟ちて、精神の一大革命がなくては到底叶ふまい。上聖天子に對して寔に懼れ多いではなからうか。一體それらの人々には宗教心の缺乏して居る人が多くはなからうか。せめて宗教味位は是非共上層階級に欲しいものである。「子を見てその親を知る」といふ事も事實であるが、「親を見てその子を知る」といふ事も半面の實相である。

物の緊縮節約といふ事は随分八釜しいが、心の緊縮節約といふ事は餘りきかぬ。下らぬ小智邪智奸智などを働かして居る様では、心の不經濟も甚しい。心の濫費放漫、どこに緊縮節約があるか。それで眞の緊縮節約の出來やう筈が何處にあらうか。尙ほも一つ片手落ちと考へられるのは女子に對する教育法である。つまり女子獨特の天分なるものを、もう少し深く研究して、それこそ天地の大徳、即ち自然の恩恵なるものをば一層拜受しなければならぬといふのである。特に近來の思想惡化といふたら誠に憂慮恐懼に堪えぬ。

現今の女子教育は、見渡すところ獻立式教育である。男子の教育を考へる時に女子のある事を忘れてはならぬと同時に、女子の教育を考へる時には男子を忘れてはならぬ。従つて兩性の長所短所をも忘れてはならぬ。女子の短を助けるのは男子であるが、男子の短を救ふのは女子が最も適當であつて之に増すものは餘りない。女子には男子に對して神靈的な力を天賦されてある。殊に男子の暴舉を救ふには神にも均しき偉大なる力の潜在して居る事を忘れてはならぬ。その活用法教育が誠に不充分的やうに考へられる。何うかするとそれに觸れる事さへも厭ひ嫌ふの風もある。それを避けて居る様に見える。折角の天賦の靈力を善用せぬ、拜受して居らぬ。又男女何れの指導者もそれはそれとしてその儘にして置くのではなからうか。尤も此の教育法は指導者自ら餘程達觀して居らねばならぬ。又女



子當人にしても多くはその善用法を知らぬが、偶々あるかと思へば寧ろ濫用して居る方である。

つまり「立派な女子」を作らねばならぬといふのが問題である。取りわけ近來の如く赤化思想救済に當つては、男子の思想善導良化も必要であるが、それと同時に女子教育者に一大改善を加へ、それと相俟つて男子の思想悪化の一防策として、之は男子と同様種々なる順序方法を以て是非共實現されん事を識者並に當局に進言したのである。元來我が國に於ける女子教育なるものは、歴史的に觀ると籠中の鳥が俄に解放されたるの感が大にある。その爲か獻立式形式教育マ、事式教育は可なり發達して居るが、女子としての天分に即したる實際化教育即ち男子を對照したる天理天則に基いた教育法は、果して如何か疑はしきものがある様に思はれる。賢母のみが女子の天賦ではない。

近時女子の職業意識が強くなつて來た様であるが、之とても自覺して就職する者は極少であつて、多くは周圍からの刺戟によつて、その方向へ動いて居るものと觀察される。又その學校長の任に當たる人材も、も少し生命力の微弱でない、而も一信仰を有つて居る人を望むものである。最後にも一ツ切望するものは、女子學校長は社會とは至つて没交渉の様な人が多い様であるが、之も改善すべき一ツではなからうか。社會情況をば只書物や印刷物を通して、知的に窺知して居る現状であればこそ、女子教育は現在の如くマ、事式にも成り勝ちなのであらふ。モット／＼活きた人々と接する學校長を

必要とする。學校長たる人のみならず教員も右様でなければなるまい。

女子といへども畢竟社會人となるべき人である。それを作るには教化の大任にあたる人が自分の城に立て籠つてゐては、理想と思ふても何時の間にかマ、事式女子の出来るのは到底避け得ない天則であらう。

男女何れにせよ共通の教育理想としては、それを高所に祭り上げたものでなく、實際活用し得る教育法としては私はかう考へて居る。

何んといふても人の幸福、世の福祉を得るには、必ず心の和が根本である。國內に在つても國外に及むでも同様であるが、和を知つて和せんとするも禮を以て之を節せざれば亦行はれざるなりとか論語に於つた。禮とは畢竟恭敬心の用きである。物に對して恭敬心のない者に取つては物は自然にその者に乏しくなる。その代表たる金に對してその心の現れざる者には、如何にその者が金を漁り廻つても、金の方から逃げ廻るものである。人に對して眞に恭敬心のなき者は、如何に財寶權勢の力で一時は順調とは思ふても、その財寶か權勢かその者に無くなると、いくらこちらから頭を下げて寄りつかうとしても、人は向うから離れて行くものである。又少し話が高尚になつて、自分の心を敬ふて大切にせぬ者は果して何ういふ風にその人は成り行くであらうか、特に之は教育者諸君に宗教の力なるもの



を必要とする所以である。

そこで恭敬心の如きは禮であるが、之に節をつけて禮節としたい。此の節が面白い。却々味がある。節制、節約、節度、節操、調節、時節、折節、關節、竹の節、木の節といふて、フシの必要な事は敢て音樂のみに限つた事でない。全てになくてならぬ事は森羅萬象を見ればよく判かる。ズル／＼の事象何に一つない。何處かに必ず節がある。かくして萬物は油斷なく育成されて居る。是即ち天地大徳の表象である。従つて、人事百般禮節ならざるはない。之を守れば身體自ら健かに天壽を保ち、事物亦調和を得るは自然の大法則である。禮節あるものは榮えそれなきものは衰ふ。個人團隊古今東西を通じて總て然りである。萬物萬事に恭敬心を持ち、之を實體化するに當つては禮節を用ふ。禮節行はるれば和生ず、和生ずれば災少く福多し。

現代人は老若を問はず餘りに不平が多い。従つて心の荒むた者が多い。累卵の危さである。雨になるか風になるか、時化になるか實に危険である。不平といふ奴は妙な奴で、口に出すと急に成長して遂に爆裂をするが、それをジーツと抑へておくと發奮心といふものに善化するものである。然し多くの場合は不平といふ奴は害毒を生む事になる場合が多く誠に危険至極な代者である。その不平の起るのも畢竟萬有に對して恭敬心がないからである。よしやその心はあるには有つても、誠の心あつて其

の實なきが如く、禮節の用はたきが出来ないからしてさう成るのである。

要するに恭敬心の培養を禮節の訓練が與へられて居ないからである。禮節の訓練に當つては男子よりも女子の方がより易いかと思ふ。何せかといふと、女子は「忍ぶ」といふ點に於ては男子に勝るものがあるからである。此の點に於て女子教育當事者は、對照物の男子、即ち一國一家の樞要地位につく男子なるものを恒に考案の内に入れておいて、家庭國家國際等の調和上如何に考ふべきか、略々思ひ當るものが無くてはならぬ。兎に角天賦の女子の至寶をモット／＼活用善用する事に自覺しなければならぬ。然し之は百年の大計たるや論を待たぬものなるだけ、それだけ努力價値の有るものと考へるのである。

現今我が國には高等程度のもので「立派な女子」を作る上に於て、應しい官公立の女學校が先づ皆無といふてよい。殆んど皆職業的學校である。男子の方は教育を受けるもの或は受けさせるもの、頭には、マダ／＼申分はあるが、制度組織は先づ宜しい。然し「立派な人」を作る學校は極めて稀である。學生々徒にしても、人を征服せんが爲か餘興に通學して居るのが多い。此の實相は抽象的教育制度の學校に於て特に多い。之は明治維新の遺物の今尙ほ現存するもの、現れである。

文部省に於ては教育内容についてモット／＼改正敢行するの必要がある。何んといふても人は、體



を通しての體驗的修練的教育の方が、言語のみを通しての抽象的教育の方よりも、現代に於ては遙に有効なる事は今更言ふまでもない。教育法の眞髓は實はこゝにあるのである。がその實行の出來ぬのは何うした譯であらうか。要するにそれは人と經濟の問題であつて、人を得ても經濟がそれに伴はぬか、經濟が許しても人を得られぬかの何れかであらう。

女子の高等女學校卒業後直ちに結婚するには早や過ぎ、さりとて家事の手傳も都合が悪いといふ様な場合に、それが眞面目な父兄であつたならば必ず考へさせられもし迷ふ事さへもあるであらう。嫁入り時期迄は活花や音樂をやらしたからとて、何れほどの立派な女にならうか。敢て職業教育は必要とはいはないが、高等女學校時代の教育法も葢革する餘地あるが、せめてさうした暇にミツチリした教育を施すべき教育機關が必要ではなからうか。教育者諸彦及び父兄諸氏は勿論、教育行政當局者諸官果して如何であらうか。

## 武道精神涵養の必要

山形縣立米澤興讓館中學校長 文學士

大野芳麿

重野安釋先生は其著日本武士道序の中に

……柳本邦以武建國……武士道者國體也……

と述べられて居る、諾冊二尊の國生みの初めに當りて天の沼矛を御使用遊ばされたるを見ても、將た三種の神器中草薙劍を尊奉せらるゝを見ても建國が武にありたるを推察する事が出来る。

抑武とは何であるか、普通に考へらるゝ所では武は文に對する言葉として武術方面を指すものと解せらる。然し之れは皮相的見解であつて今少し考察を深めて行くなれば、斯く簡単に説明すべきものではない、武は何處迄も精神である磅礴たる活氣である、機會あらば直ちに發動せんとする活靈である。而して此活力が一旦發動した曉は武ではなくして文であると思ふ、茲に名刀あり、鞘の中にある間は武の精神充滿して金錢を斷つ力を藏して居る、之を見て惡魔は怖れるかも知れぬ、不正不義の徒は戰慄するかも知れぬ然し至誠の人は何等恐るゝ所はない、否寧ろ名刀の徳を以て自己の徳と一致するを感ずるのみである、然し其名刀が一旦鞘を離れて活躍する状態は之を文と稱せずして何であらふ。特に名劍士の手に依つて從横自在に閃廻する時は美妙なる藝術となる、茲に注意すべきは武の力の發動は正しき道に依らねばならぬ事である、正しき道とは個人の生存を助長し、民族の發展を補ひ、國家の進連を促す道を謂ふのである。此の道に依らずして發現したる活力は眞の武ではなくして盲目的



自然力である、武は物の本體を示し文は其假現を指す、本體は不變にして假現は千變萬化である。然らば武道精神とは何か、之れは我國獨特のものであつて他國に見る事の出来ない大道である、其内包精神を分析するならば聰明なる理智と果斷なる意志と溫和なる情操と云ふ事が出来る。而して之を貫くものは盡忠報國の大信念であつて、我國を皇國として永遠に興隆せしめ行かんとする大精神である。

前述の如く我建國精神は武にありと云つても決して軍國主義といふ意味ではない。稍もすれば歐米人は我國を以て好戰國民と誤解する者もあるけれども、我國三千年の歴史を解する者は斯かる誤解はない筈である、我皇祖皇宗の御事蹟を拜察しても決して西洋諸國の歴史にあるが如き好戰的事例はない、否寧ろ大愛の發露を見るのみである。左傳に武の七徳を述べて

夫れ武は暴を禁じ、兵を戢め、大を保ち、功を定め、民を安んじ、衆を和し、財を豊にするものなり。とあるが如く、我國歴史を一貫する武徳は皆此の文章の中にある意味に添ふて武の發現が行はれたと云つてよいと思ふ。

現今文明の進歩に伴ふ一弊害は武を忘れて文に走り過ぎる事である、本體を忘れて假現を追ひ過ぎる事である、百般の學術文藝は肝要な事ではあるが其因て來る所の根本を忘れるから中庸の大道を逸

して左右に偏倚する事になるのである、然らば武道精神を養成するには如何にすべきか、夫れには幾多の方法もあらふ、或は科學の研究に徹せんと努力する間に聰明なる理智も啓け果敢なる意志も養はれ、温情も湧いて來るであらう、或は武術の鍛練に依つて、或はスポーツの習熟に依つて武道精神は養はれるが、茲に一つ他國と異なる點は皇國精神が根柢とならねばならぬ點である、盡忠報國の大精神が支柱となつて其上に築かれたる文的方面でなければならぬ、此の支柱なくして發現せるもの如何に絢爛たる文明でも唯權花一朝の榮に過ぎない、天壤と共に極まり無き實祚を理想とする日本國民は、皇室を中心としたる一大團結の下に世界の文明を集大成するの覺悟を以て進まねばならぬ。

勿論武道精神は何處迄も精神ではあるが決して物質を否定しない、否物質と精神との調和を意味するものである、吾人人間の活動は肉體を通して爲さるゝが其背後に精神の支柱がなければ動物生活に墮して行くのである。日本人らしい生活、向上して止まない日本人生活を考ふるに當つては其指導原理は武道精神に置かねばならぬ、皇國精神たる大支柱の上に身心を最善に活用するの道が武道精神である。

現今青少年の修養道の上に最も缺乏する精神の一方面は努力心と從順の徳である、努力心が無いから放辟邪思至らざるなしである。從順でないから自己の小我に執着して正道を誤まるのである、努力



の發する所彼れも人なり我れも人なりの氣魄を以て鐵壁を突破し得る、羊の如き從順恭遜の道を辿つて初めて道理を解し更に高きもの更に深きもの更に大なるものを習得し得るのである、此の努力と從順とは武道精神涵養上の動靜の二方面とも謂ふ可く、現今の青年が最も意を致す可き大切なる方面と思ふ。

以上の如く武道精神が現今の青少年に徹底するならば將來の日本から總ての國難は取り去られて、更生の實は期せずして擧るに相違ない。況んや現在一部の所謂インテリと自稱する徒輩や少數の蒙昧なる學生が憧憬する病的思想は、武道精神の涵養に因つて雲散霧消す可き性質のものである、大和民族の最高道德は君民一致、忠孝不二の點に存する、我が東の國に咲き亂れたる麗はしき花の美を悟らずして、西の國に咲く醜草の花に酔はんとする徒輩は憐れなる哉、西の國の花壇に適する花の種子でも我國の花壇には適せぬ花の種子もある、移し植ゆべき種子と移し植ゆべからざる種子との區別を知る事こそ最も肝要ではあるまいか、堅實なる思想の養成とは此の悟性の養成である、唯徒らに西の國に咲く花の美に迷ふて我國三千年來の亭々たる喬木に咲く爛漫たる花の美を忘れんとする者の愚や實に及ぶ可らざるものである、武道精神こそ其蒙を啓く可き唯一の鍵ではあるまいか。

## 御聖慮に感激せる吾等農民の覺悟

山形縣立庄内農學校長 農學士

石 田 恭 吾

今上陛下に於かせられては農事に深く御心を注がせ給ひ、御政務、御日課、御運動、御研究等御多端の折にも拘らず、國民の日常生活に缺くべからざる米穀栽培の爲めに農業者が如何程勞苦を嘗めつゝあるかを畏くも御體験遊ばす爲め昭和二年春共御試作地を赤坂離宮御内苑生物學研究室近くの御地續きに約五十坪の水田を設置せられました、御思召により御試作稻の種類は全國の夫々特長ある代表的ものを御試作遊ばされ、六月十四日午後一時から親しく御挿秧遊ばされ、其後の手入收穫調製に至るまで従はせられ、今日も宮城に於て御繼續、御實施遊ばされつゝある事は吾等農業者は固より一般國民の感激に堪えざる所であります。彼の明治大帝の「暑しともいはれざりけり煮えかへる水田に立てる賤を思へば」と御詠み遊ばされてありますが、陛下はかうした尊い御同情の思召を御躬自ら進んで御體験遊ばしたのであります。

我國は神代から農を尊ばれ神武天皇から第廿六代までの帝は躬ら御親耕を體驗遊ばされたと傳へら



れて居りますが、具體的の記載はないさうである、何れにしても二千年後の今日それが復興せられた様に拜察され有り難き極みであります。

農業を至尊の御躬を以て御試みになると云ふ事は、他の世界諸國の歴史に於ては全然見聞した事のない一新事實であり、加之御試作の收穫米は神嘗、新嘗の神事に御奉饌せらるゝとの事であるから全く上古天照大神の御遺詔が其のまゝ實現せらるゝと云ふものであり、我國體の特色を發揮する上に於ても著しい功驗を顯はし給ふたものと畏れ乍ら拜察するのであります。

又皇后陛下に於かせられましたも紅葉山の御養蠶所にて御躬自ら養蠶を御體驗あらせられる事を拜するにつけ、其他皇室にて農家副業御奨励の思召で各地の御用邸で果樹（静岡、沼津、武庫）養蜂（那須）ワサビ（那須谷川）クルミ（那須山麓）茶（初聲）等御栽培になり範を農民に垂れさせ給ふ事を仄聞するにつけ、吾等農界に籍を置くものは一般國民と共に感泣して斯の事實が如何に直接間接勸農、尊農上實際的教訓となり又思想上にも絶大の好影響を與ふるものであるかを思はざるを得ません。

さて我國の現状は各方面に行き詰りの有様である。即ち政治、經濟、思想、外交、産業等一つとして樂觀を許しませぬ、就中農村問題に至つては已に十年前より學者も、政論家も、教育者も實際家も大に叫び其の對策に苦心して居るのであるが未だに徹底しませぬ。即ち曰く、農民精神問題、農業組

織經營問題、農村教育問題、政治問題、負擔問題、負債問題、金融問題、小作問題、次三男問題、消費生活問題、離村向都問題、移民問題、農産物價問題、人口食糧問題、農村女子問題等枚舉に遑がありません。而かも追年其が深刻の度を増し其結果甚しきは負債増加、教員給不拂、農會廢止、租稅滯納、小作爭議激化、營養不良等農村哀話、救濟陳情續出し、今日の農村は窮迫極まつたと悲鳴をあげて居ります。懼れ多くも陛下農村疲弊を御軫念の餘り本年六月中農相、首相を召されて優渥なる御下問あり、又最近畏くも多額の御内帑金を農山漁村に御下賜せられ赤子の上に恵みを垂れさせ給ふのであります、かく御聖慮を惱まし奉るは恐懼の至りに堪へませぬ。たゞ此上は吾々は業務を忘れず秩序を保ち自重して粉骨碎心御奉公の誠をいたさねばならぬ、即ち精神的にも經濟的にも政治的にも大なる覺悟を以て當らねばなりません。

然らば農村今日の疲弊せる原因はと云ふに、已に多くの學者、政論家、教育者等により論じ盡された觀あるから今更喋々説明を加へませぬが其中主なるものを項目的に挙げますれば、

- 一、農業に對する信念の缺陷。
- 二、共同心の缺乏。
- 三、勤勞心の不足。



- 四、一般思想問題、社會問題の影響。
  - 五、農産物價の暴落。
  - 六、昔より農民生活向上せる事。
  - 七、農業經營農家經濟の不合理。
  - 八、都市中心政治の影響。
  - 九、農民の政治的無自覺。
  - 十、政争の弊害。
  - 十一、農村教育の不徹底と農民の頭の低級。
  - 十二、負擔過重。
  - 十三、負債重壓。
- 等である。

凡そ病氣でも原因が定まれば療法も明かになる如く農村救済策も自ら生れる譯である、然し茲に賢明なる讀者に喋々を要せぬものは項目だけに止め簡記する事にする。

#### 第一、積極的自力更生策

- 一、農民として確固たる人生觀を把握する事。  
農村生活の價値美點を認識せば茲に尊農の氣風も生じ、農業を楽しむ心も啓培せらるゝ事となるから農民は常に田園生活には次の様に價値幸福の存する事を自覺せねばならぬ。
- 一、農業は自然的美的恩恵偉大（自然の詩繪畫文學音樂山姿流水行雲田畑の色夕日の輝軟かさ風夏の風小川のせゝらぎ、玉と光る草露小鳥のさへずり、四季の變遷）。
- 一、農業は人間の本能に適合（作物の生長、小動物の生育を享樂するは本能故に生活と業務と一致融合せり）。
- 一、農業は健康的（空氣清く太陽に直射、運動良く食物は新鮮永生可能）。
- 一、農業は總合的に變趣味豊富（作物が種子より萌出實る間小家畜が出産して生長する經過等の享樂趣味）。
- 一、生活は比較的吞氣平和安定（愈々の時は自給自足可能一家團樂の生活あり）。
- 一、農村は人情に富む（昔からの知己より成り病人ありて手不足ならば他人の手傳あり、救援あり）。
- 一、國防上國民食糧問題上、思想上社會上貢獻大（入營者は農村より多し思想は比較的穩健、國民食糧を自給す）。



要するに個人として社會として貨幣にて測定することの出来ない精神生活の價値を持つてゐる。

次の古歌は農民の味ふべき値があると思ふから附記する。

この秋は雨か嵐か知らねども今日のつとめの草を取るかな

錦を着て憂ふるものあり水を飲んで楽しむものもあり

見る人の心心にまかせておきて立峯にすめる秋の夜の月

わけ登る麓の道は多けれど同じ高峯の月を眺むる

二、主業に一層精を出す事。

三、農業組織を総合的に採用する事。

四、土地勞力の最大能率を發揮する事。

五、農産物の市場又販賣の研究。

六、産業組合主義の經營。

第二、消極的自力更生策。

一、自給自足主義の擴大。

二、生産費の節約。

三、無駄廢除。

四、收支を記帳し反省す。

五、時間尊重（時間の生産化、修養化）。

六、公德心徹底（社會道德心のなき故思ふ作物の栽培せられざるものがある）。

七、合理的經濟的榮養に留意する事。

八、合理的體育、衛生。

九、負債整理。

第三、他力更生策。

一、政治經濟の都會中心主義を改め農村中心主義とする事。

二、農村教育の改善。

昔から農村振興が叫ばれ諸對策が講せられ農民の進むべき方途も定まつて居り乍ら少しも思ふ様に進まぬ、これは知つて居つて行はないと云ふ現代の悩みから來てる、これは人が出來て居ないからで百の對策よりも一人の實行の人、意氣と熱の人が必要である、現に篤農家とか優良農村と呼べるゝ所は今日でも益々榮えつゝある、これは過去を過れば嘗つて疲弊にも遭つて居るが人間が出來てるからそ



れを動機として又それが刺戟となつて自省し愈々不拔の精神潑刺たる意氣を示したからであつた。眞に農民として確固たる人生觀を持ち意氣と熱が溢れ強く固く結合して、農村建設に精進せば自ら其の郷土は更生し、國家は發展するのだ、従つて農村教育の如きも農業に關する知識技術を練るの問題ではない眞に全力を打ち込み土に親しみ土を愛し土に生きんとする人の養成であるのだ、かゝる人の心の中から始めて合理的農業經營も生れ理想の農村も建設せらるゝのである。

總じて教育は年一年進歩しつゝあるは喜ぶべきなれど其の教育なるものが果して其地方の實狀に應じて實際的に施されつゝありや疑ひなきを得ぬ。

下は小學校より上は大學に至るまで彼の都市中心の劃一的、偏知的、天才主義的、個人主義的、教育の缺陷に惱みつゝあるではないか。從來教育が餘りに模倣的でただ知を授くる事のみ重きを置いて餘りに情や意志の陶冶、社會の要求する人間の教育に遠かつて居つた、そこで農村教育の如きも茲に改善を加ふる必要があるではないか。即ち

(イ) 一層國體觀念祖國愛の精神涵養。

(ロ) 農村として確固たる、正しき人生觀を持ち、感謝の念を以て、眞劍に働く精神涵養。

(ハ) 知と共に情意の圓滿なる養成。

(ニ) 教授主義よりも實際教育主義。

(ホ) 農村社會生活の實際訓練。

(ヘ) 科學的、經濟的、綜合的、實際經營を授くる事。

(ト) 創造心の養成。

等主なるものであらう。

三、次三男の將來につき指導する事。

四、農産物價格の維持向上。

五、小作問題思想問題對策確立。

六、農村社會政策的施設の實現。

七、農産物の全國的配給、販賣の統制。

八、指導獎勵機關の從横連絡統合。

九、政黨及議員の從來陥り易き惡弊を矯むべく人格高き優れたる人物のみ當選しうる様なる目標の

下に徹底的合理的に選舉法を改正する事。

十、負擔の公正を期する事。



十一、負債整理指導。

十二、徹底的に中央地方行政の整備改善を期する事。

十三、其他農村を救済すべき對策助成。

等、終りに陛下御繁忙の御日常又民の休戚に關し日夜御軫念あらせらるゝに拘らず、御尊體愈々御健かに渡らせらるゝは國民等しく歡喜に堪えざる次第であります。

今日帝國の現状、農村の近況と共に至極樂觀を許さずと雖も御聖德深き至尊の模範的御教訓により何事も一掃し得るであらう。吾等は英邁にして仁慈なる陛下を仰ぎ無比の國體を偲び、限りなき喜びを感ずると共に皇運を扶翼し奉る事が我國家及我等の生命を永遠ならしむる唯一の途なる事に心して一層精勵、粉骨碎心以て陛下を安んじ奉らねばなりません。

## 時局に鑑み教育者の特に努力すべき重點 並に之れが實行方案

兵庫縣立山崎高等女學校教務主任 工學士

宮崎 傳治

現時の時局は「非常時局」なるを以て、教育者も亦經世濟民の氣概と憂國的熱誠とを以て之れが打開に邁進せざるべからず。然らば如何なる點に努力を拂ふべきか、筆者の見解に従へば左の六點を以て重點なりと信ず。

- 一、國民精神作興
- 二、體育の獎勵
- 三、勤勞奉仕の習慣養成
- 四、學校經濟の合理化
- 五、宗教的信仰
- 六、銃後の覺悟

時局に鑑み教育者の特に努力すべき重點並に之れが實行方案



## 實行方案

### 一、國民精神作興

#### (一) 國體觀念の養成

國民精神を作興するには國體觀念を養成すること必要なり、左傾思想所有者の通弊は國體の眞の認識不足にあり。之れが方法として

- 1、國體に關し平易通俗に書きたる書物を出版し之を圖書室に備へ付けて弘く讀ましむること。
- 2、古來傳はる國體に關する書物は多くは漢文又は古國文なるを以て難解なり、故に之を平易に現代文に書き直ほすか又は通俗的に現代の社會意識に適する如く解釋したるものを安價に提供して讀ましむること。
- 3、教育者は受持學科の如何を問はず、一致協力して授業時に夫々の教材を通じて國體觀念を指導教授すること。
- 4、課外科目として思想善導家、徳望家を聘して講話を聽かしむること。
- 5、我國の偉人聖人名婦人の肖像、國體に關する資料を教室廊下等よく人の見る場所に掲ぐること。時々參考資料として世界に於ける此種のものを取り換へて掲ぐること。

6、教訓的教育映畫を時々觀覽せしむること。

7、市町村自治體主催の精神作興並に思想善導に關する計畫並に會合には參加應援すること。

#### (二) 精神文化の普及

國民精神を作興するには我國固有の國民精神文化を研究普及すること必要なり。佛蘭西は大戦に遭遇し、非常なる國民的試練を嘗めたる結果、國民精神の陶冶が大切なることを痛感し、其の爲めには佛國特有の文化に順ふて其國民を陶冶することの必要を感じ、此方面の教材に多くの時間を用ひる様に教育制度を改正せり。獨逸は佛國に比し更に其運動一層著し。(以下方法は省略)

#### (三) 愛郷心と敬神崇祖觀念の養成

國民精神を作興するには愛郷心の養成が必要なり、蓋し兒童の教育は郷土生活を以て其出發點とすべく而して其郷土と云ふ意味を擴張せば祖國と云ふ觀念になり、郷土を愛せば従つて祖國を思ひ祖國を愛し、祖國の爲めに貢獻せざるべからずと云ふ情意的愛國心の發露を見るべければなり。又氏神は郷土を鎮護し郷土民の祖先なるを以て懇ろに祭らざるべからずとの敬神崇祖の觀念を生せしむること必要なり。

#### (四) 創造心の養成

時局に鑑み教育者の特に努力すべき重點並に之れが實行方案



刻下の時局の如く經濟的に行き詰れる場合に於ては創造心發明心の養成が必要なり。

#### (五) 外國思想に對する態度

外國思想に對しては教育者は本居宣長が漢文に對する態度並に儒者山崎闇齋が「我師孔孟軍を率ひて我國に攻め來らばたとひ師たりと雖も敢然之に立ち向ひ殲滅せん」と言つて儒學を講せし態度を持して臨む覺悟あらざるべからず。筆者は常に「智識は進歩的なるを要し精神は保守的なるを尙ぶ」と云ふ考を抱懐する者にして外來思想にして若し我民族性に不適なるものあらば斷然排斥すべきなり。

#### 二、體育の獎勵

身體の調子良き時は氣分何となく快活なるも之に反し身體に微小の故障にても生せば忽ち氣分引立たざるは何人も經驗する所なり。精神は身體に支配せらる。「健康なる精神は健康なる身體に宿る」とは眞に千古の名言なり。平時にありても一國の國運は其國民の健康によつて消長す。況んや刻下の非常時局に於ては層一層國民の健康を重視すべきは論を待たざる所なり。

#### 三、勤勞奉仕の習慣養成

今日教育を受けたる者を見るに教育程度高き者程勤勞を厭ふ傾向大なり、況んや奉仕行爲をなす者に至つては甚だ少し。これは確かに今日迄の教育の缺陷なり。筆者は日用の箒拭茶碗事の如き身邊卑近

事の裡に偉大性を含めりと考ふ者にして禪書にも「平常心卽是道」と云ふ語有り、目下の時局に於ては特に勤勞奉仕の行爲が屬望せらるるが故に之れが習慣養成に徹底的の努力を必要とす。

#### 四、學校經濟の合理化

教育者は特に學校經常費、校友會費用を浪費せざる様に努め又父兄側の立場を考慮し出來得る限り學資金の輕減を計らざるべからず。

#### 五、宗教的信仰

##### (一) 宗教的信仰の必要

目下の如き思想險惡にして經濟的に逼迫せる世相を來たせる原因は多々あるべしと雖も、根本原因は「金缺」と物欲なりと信ず。故に此二原因を除去するが最急務なり。後者を除くには筆者は絶対に宗教的信仰が必要なりと叫ばんと欲す。前者を除くには各種の産業計畫を樹立し之れが振興を計り致富の道を講じ、又無産階級の税金を輕減し有産階級には累進加重税を課し救濟資金の運用により困窮者を救濟する等兎に角金錢物品を得る方法を講ずること固より緊急事なりと雖も、筆者は之れに對しても亦宗教的信仰の必要を力説する者なり。宗教的信仰なくば目下の如き非常時局に當るに必要な大勇猛心が國民に生じ難し。北條時宗が決然蒙古の使者を切り捨て元寇役に當りたるは、彼が信仰せ



し臨濟禪の定慧の力により得たる勇猛心の爲めなりと稱せらる。

宗教的信仰は活動する若き時期に必要にして年寄り後は寧ろ無くても差支なきものなり。蓋し報恩感謝奉仕の念薄く營に金儲け、地位、名譽の獲得等の物欲に専念し四六時中齷齪として活動するは若き頃なればなり。

宗教並に道徳は第一次的社會規範なるも道徳は吾等に理性や良心の命令に従ひ行動すべきを教へ、しかも之に順ひ得ずば呵責するのみ。然れども我等は煩惱に悩む凡夫なり。

宗教は道徳が黙許せざる罪惡も却つて之を濟度する價值ありとし天福に迄淨化して之を歎美するところあり。従つて道徳は宗教に隸屬せらる。加之宗教は一切の科學を超越し且つ科學を之れに従屬せしむるものと云ふべきなり。科學の到達し得ざる境地こそ宗教の世界なり。

現代の教育の缺陷は宗教を除去せし點に在り、即ち物を物とし、自然を自然として別々に教へる所にあり。一粒の米も單に物質として見るのみにては其意を盡さず、之れを神佛の愛の象徴と觀る所に感恩の情も湧き起るべし。唯一羽の小鳥を見ても其背後に囁く至高至善の絶對者の聲を聞くべきなり。

宗教はあらゆる價值活動に内在し、且つ之れを成立せしむる基礎若しくは原理なり、一切の有限は無限に對すれば無なり。これ數學に於て言ふ無限の意味なり。然るに宗教的信仰ある者は無限的なる

もの永遠的なるもの、超越的なるものの中に自ら生く。即ち無限的なるものを決して到達し得ざる遠方に求めず、我が身近くに、否自己自身に見出すなり。此内在觀に立つて初めて人間の存在の無限の理由、従つて又人間の内面より生産せらるる人文も亦無限の意味と價值とを得ることになるなり。内部よりの自己發展と云ふ立場に立つより外無き教育活動も宗教を斯く見ることによつて自らの眞の根據を得るなり、これ筆者が宗教的信仰の必要を叫ぶ所以なり。而して筆者は信仰すべき宗教の何たるやは指定せず、各自好めるものを選ぶべし。

#### 六、銃後の覺悟

目下尙滿洲事變の爲めに吾將士は君國の爲めに身命を賭して匪賊と奮闘せり。教育者は兒童生徒に其勞苦を偲ぶやう教へざるべからず。又戦時の覺悟を十分説き聞かさざるべからず。

#### 結 語

以上述べし所より明かなる如く、時局に鑑み教育者の特に努力すべき重點は要するに精神的方面殊に宗教的信仰を兒童生徒に扶植し心眼を開かしめ、至高至善の永遠者絶對者に歸依信頼せしめ、此幼少時の良習慣を以て、其の終生を貫き其行動の凡てを律する様教育することに在り。此案が時局に對し稍々迂遠の嫌ひある如しと雖も、筆者は之を以て我國家永遠の發展に資する永久策なりと深く信ず



るものなり。

## 思想觀念の向上について

山梨縣立都留中學校校長

山中 惠 教

思想の悪化は必ずしも單獨に來れるものに非ず、經濟的原因より來れるものも多大なれば、思想の向上については國民經濟力の恢復の道を講ずることは連關的に必要なりと信ず。これに關し愚見の一端を述べれば

一、國體觀念を明徴にし敬神崇祖の念を篤うすること。

我が國體の萬國無比なりといふ考へは日本民族が三千年の歴史に於て培ひ來れる信念にして、此信念は諸外國の歴史を比較研究することにより益々強固を加ふべく、苟も國民文化生活の本據たる國家の國體に動搖を來さしむるが如きことあらば實に帝國の前途を危うし、國民の生活を脅かすものなることを強調せざるべからず。又國民道德の根柢をなす敬神崇祖の美德は我が國體をして愈々崇高ならしむるものなれば、その美德を發揚せむことに力をいたすべきは勿論のことなり。これが爲學校教育

に於ては修身科、國史科は特に此點に留意すべく、他の國語科、公民科其他の學科も亦大に援助を與ふべき必要あり。其他國家的重大事變、祝祭日、記念日等に於ては絶えず此點を力説し、又實行にも表はすことに努力せざるべからず。

二、思想の穩健中正を圖ること

政治、經濟、文學等に於て日々新らしき思想の侵入し來る今日に於て無批判に新奇を追ひ傳統を破壊し去らむとする所謂輕佻詭激の思想は實に國家の前途を危くするものなれば、青年の讀物又は言動に對しては絶えず細心の指導をなし、「進むや序に循ひ、新にするや其中を執る」と仰せられし聖旨に副ひ奉り、穩健中正の思想を涵養する様努むべきなり。

三、宗教的情操の涵養

すべて人の爲す事業にして眞に偉大なるものの根柢には宗教的信念の存せざるはなし。徹底したる人生觀、無限の愛、強き犠牲的精神、崇高なる敬虔心は實に超人的實在に對する歸依の念より奔り出づるを思へば、青年子女に對して之れが情操の涵養に適當なる指導を與ふることも亦緊要なりと信ず。

四、勤勞を愛し節儉の美德を養ふこと



人間生活、國民生活に於て經濟の直接必要なるを力説し、經濟は實に人の勤勞節儉に負ふところ多大なるを悟らしめ、口舌の人たらしめむよりは寧ろ自ら働くことが人間として存在の使命たることを體得せしむべきなり。

五、公民的智識を授け特に立憲自治の精神を養ふこと

社會國家在立の目的を明かにし共存共榮、社會連帶の本義を悟らしめ、しかも自治の精神、犠牲的精神は團體生活進歩の最大原因たるを悟らしめ、且個人として責任感、公德心の涵養を高調するは特に必要なり、又政治は國民の安寧福利と國家の隆昌とに直接關係あるものなれば政治に關する一般的智識を授け、遵法の精神、選舉に對する公正なる信念を養成せむことに努力を拂ふべきなり。

六、體育を盛んにし快活なる運動家の精神を養ふこと

強健なる身體を練成することにより國民の活動力を旺にし、精神を健全ならしむることは、國民の活動的能率を上ぐる上に於て大に必要なり。かの爽快なる氣分、機敏なる動作、朗らかなる男性的襟度、敢爲進取の氣象は實に因循姑息奢侈偷安の墮落的氣分を一掃し、國民の人格を高むるに特に有効なるものなれば體育の善導は青年の精神教育にとりて多大の關係ありと信ず。

七、絶えず世界に於ける帝國の現状を反省せしむること

我が國は世界の一等國に伍すと雖も、現今に於ては思想經濟外交の大難局に立ち、これが打開につきては國を擧げて協力努力すべく、恰も貧家に生れし子弟が家を興すべき覺悟を促すと同様の覺悟を現代の青年子女に強く喚起せしむべき必要なり。之れに關しては學術の奨励、移民問題、人口問題、食糧問題、其他軍備外交等の關係をも平素より特別の注意を拂ひ教授すべきは勿論、一般民衆に對しても、社會教育の必要上爲政者、教育者、宗教家共に力を協せて之れが徹底に努力すべきなり。

經濟觀念の向上について左の六項目を擧げむとす。

一、國家經濟と私經濟との直接關係を明かにすること

個人の奢侈は國家の富を浪費し、個人の節約は國家の富を増加することなれば、特に青年たる者は消費經濟の方面に深き考慮を拂ひ、或は贅澤品の撤廢、或は禁酒禁煙を行ひ、或は日常品、食料品の浪費を慎むことを要す。又將來一家の主婦たるべき女子には消費經濟の鍵を握る者なれば能率増進、生活改善に對する精神的準備を與へ置く必要あり。

二、科學特に理化學の智識の普及

これは申す迄もなく現代に於て獨創的精神を養ふに大切なることにて、之により種々の發明發見を促し、隨て産業の振興、生活の改善を實現するに非常なる効果あればなり。



## 三、國産愛用の實を擧ぐる事

國産の愛用はいふ迄もなく自國の産業を振興せしめ、輸入超過を防遏し、國富を増すものなれば、これが實現に對しては獨り學生生徒のみならず、一般民衆にも深き自覺を喚起する必要あり。

## 四、副業の奨勵

人口問題、食糧問題解決の一方面として、また農村救済の一策として適當なる副業を指導奨勵することは、今日の如き自力更生の叫ばれつゝある時代に於て最も時宜に適へる方法なるべし。

## 五、郷土の産業状態に關する智識を與ふること

自己の郷土の産業状態を知ることが將來青年の職業に對する計畫實行に最も肝要なることにして、又郷土の産業を改善して隆昌ならしむる原因となるものなれば、國家の産業、世界各國の産業と共に郷土の産業に關する智識を授くる必要の多大なるを信ず。

## 六、海外移住の奨勵

人口問題解決の一方法として海外移住は最も有効なるものなれば、青年子女に對しては常に海外の事情を明かに説き進んで遠大の抱負を持して海外に雄飛するの意氣を養はしめむことを要す。

以上各項は單に智識を與ふるのみに止まらず、之を家庭生活、學校生活にも能ふ限り實行せしめ、

特に學校に於ては理化學實驗の指導作業科實施等の間にありて、工風研究計畫實行の精神を涵養し勤勞愛好の念を助長せしむることは將來の帝國を擔ふべき青年の教育に最も緊切なることと信ず。

## 女子青年に望む

茨城縣立水海道高等女學校校長

袖山千尋

相互扶助は人性自然の心情である、心と心と抱擁して喜憂を共にする時、人生は如何ばかり沾を得、力づけられるであらう。

敢て熱血情熱の士でなくとも、男子は概ねこの至情に富むに反し、女同志の協力提携がどうも微弱であることは、誠に遺憾のことである。

雷同は我國民の一缺陷として、固より排すべきではあるが、それすら女子に限つて除外の要ありとせば、餘りにも皮肉ではなからうか。

二十世紀の新使命は女が女を愛することだと唱導されてゐる、婦人の名譽の爲此が達成の速かならんことを只管念願に堪へぬ。



「令セズシテ行ハル、之ヲ上徳ト謂フ」遲疑に陥り逡巡に墮するのは男女の通弊であつて、上徳の人必ずしも女にのみ少ないとは言はぬが、兎角女子は日常の小事に處してさへ、多く師長に頼つて受動に偏し、生々潑々の氣乏しく、自主自營の領域狭きは婦人自らも容易に首肯するところであらう。強ち獨斷潜行を奨めるわけではないが、只茲に思を致さねばならぬことは、意志力を熾にして所信を敢行するに非ずんば、自他百般の利便も慶福も、到底その増進を望み難いことである。

明朗輕快の氣風に富む現代の女子青年たる者は、男子の有力なる後援者として、大に自發活動以て邦家の繁榮に寄與すべきではあるまいか。

奢侈安逸を好んで勤勞を樂まざれば、必ず衰亡を招ぐべきことは、トルストイの寓話を俟つ迄もなく明かである。

若夫れ窮迫最も甚しとせらるゝ現在の農村に於て、無爲閑居殆ど生産に關係せざる青年ありとせばそは概ね教養ある者に屬し、就中未婚の女子に多いのではなからうか。

之、唯に自らの精神を弛緩せしむるに止まらず、惹いて醇風美俗を害ふものであつて、呪はしき存

在と言ふの外はない。

思ふに、天然資源の極めて貧弱なる我國に於ては、一人一人の人間こそ實に國家の貴重なる富源なのである。

冀くは一層科學的に能率向上を圖り、以て餘剩精力の活用に全幅の誠意を捧げられんことを。

男子青年、殊に中學生の多くは、上級學校入學準備の爲——それが人生の意義に如何程徹するかは別問題として——孜々屹々として努力するのが常である。

翻つて女學生を觀るに此に匹敵すべき差迫つての必要を痛感せざる爲か、拮据勉勵の遙かに及ばぬのは、遺憾に堪へないところである。

學校生活の最終點を、惰氣漫々儉安に耽り、所謂嫁入看板の惡罵を道路の言に耳するに至つては、深く相警めなければなるまい。

女學生も亦よろしく其の特質に根ざして、豫め目標と抱負を確保し苦鍊の功を積んでこそ、他日良妻賢母たるの資質も、一段の向上を期し得るのではあるまいか。

特に現下の非常時局は、この道念を警發せしむる好機として、充分の意義を持つことを忘れてはな



らない。

x

x

x

人或は言ふかもしれない、婦人の活躍を勸説するために、斯かる強要がまじき道義的立論に依ることとは、假令効ありともそれは掛聲の達し得る一局部に限られ、その叫の息むと共に消ゆる底の一時的のもので、何等根柢に觸れるものではない、之が適確を望むならば、社會機構の改造が先づ以て肝要であると。

茲に於て想ひ到るのは、文壇の宿老蘇峯先生が曾て「國に求めず國に寄すること、國に取らずして國に與ふることが、全き意味に於て國への奉仕である」と述べた『中庸の道』の一節である。吾人の傾聽すべきは、誠に此でなければならぬと思ふ。而も經濟國難を打開すべき基調は、何と言ふても全國民の自強不息であらねばならぬ。

敢て有爲の女子青年に懇へ、更生に對する反省を促す所以である。

## 時局に鑑み教育上改善すべき要項

石川縣立金澤第三中學校長

大河内秀夫

先づ教育の根本精神を確立し且つ其趣旨の普及徹底を計る事。

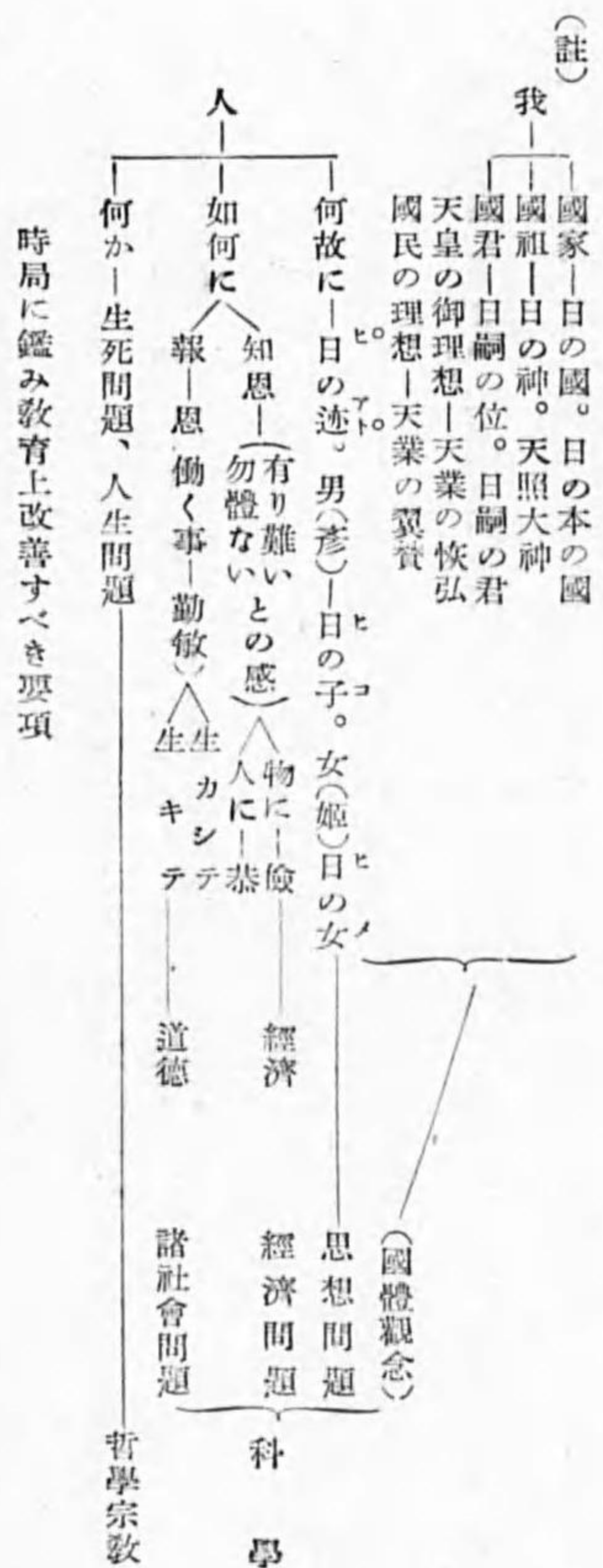
抑々我國教育の根本基調が教育に關する勅語の聖旨普及と其徹底にある事は、今更言を竝ざる所なりと雖聖勅奉戴以後既に四十餘年を経過したる今日尙未だ一般國民に其普及徹底を缺き、戊申詔書、國民精神作興の詔書渙發あらせられてより亦二十餘年、或は約十年を経 今上陛下御登局の當初朝見の聖勅を賜ひ國民の嚮ふべき所を昭示し給ひしより亦茲に七年の星霜を迎ふるに至れるも、尙未だ聖旨の萬一も履踐實行する能はずして以て今日の世相を見るに至れるは實に恐懼に勝へざる所なり、今其所以を稽ふるに一は我等局に教育の任に當る者聖旨の理解に徹底を缺き、從つて其解説教授亦徒に字義語釋の末節に拘はり、形式皮相のみに泥み其甚しきに至りては主客顛倒因果逆解に陥れるものあるに由る亦少からざるやの感あり、要言すれば教育者既に其教育の基據根源をも明確に理解せず、只徒に耳受口說模倣追隨之れ事とするの風少からざるあるに由る、蓋し少からざるべきか、之れ予の教



育革新の要は先づ局に其職にある者宜しく先づ教育の根幹たる教勅聖旨の理解を明確にし、我國體觀念と國民精神に正確なる概念を有し、自己の信念を鞏固ならしむると共に其云爲行動に反映せしめ、以て自信教人信の實を擧げ、子弟國民をして自ら薰染風化せらるるに至らしむべきを根本義とすべきを高唱する所以なり。其根本義にして確立し且つ實行せられんか、所謂現時絶叫せらるる諸國難打開の問題の如きも亦自ら解決せらるべきを信ず。故に諸國難打開の要は先づ教勅（國體の精華教育の淵源）の正確なる理解を本とし現代國民の理想教たる朝見聖勅（日進日新循序執中戒模擬昂創造）の聖旨の奉戴躬行に力め、創造の本は自己を知るにあり、國難打開の要は自力更生にあり、自力更生の第一義も亦自己を知るにあるが故に、國是實行國難打開の鍵は國民をして先づ自己を知り「我は人なり」との明確なる自覺を喚起せしむるを要義とせざるべからず、果然我教育革新の根本第一義は國民をして「我は人なり」と確知確信せしむるを以て根本要義とすべきなりと信ず。而して其實踐履行に關しては從來教育の標的と考察せられたる「有文有學」の風を改め「持信服業」の實あらしむべきを眼目とすると共に

1、抽象的注入的知識偏重上級校入試準備的教育法を革め常識的發動的情意陶冶を主とする人格的教育たらしむる事。

- 2、劃一的制度を革め成るべく土地人情等を參酌して屈折自由ならしむる事。
  - 3、修身科公民科を始め國語科地理歴史科等の教授に革新を加ふべき事。
  - 4、一層作業科教育の振興奨励を計るべき事。
  - 5、父兄會同窓會等の利用指導に一層力を用ふべき事。
  - 6、一層教育の社會化（と共に社會の教育化）に力め學校教育の社會進出と教育の機會均等とに留意する事等を其主要な實行項目とすべきなりと雖要するに
  - 7、法は死文にして之を活用するは人にあり故に成るべく校長の自由裁量の範圍を擴大すると共に其指導監督を嚴にし功過の歸着を明確にすべき事。
- 等を其最も主要なる點なりと信ず。





## 國難打開と教育の革新

群馬縣立太田中學校長

湯澤 徳治

現今我が國は、外には列國と外交上の危機を持ち、内には經濟的苦惱と、思想界の動搖とに直面して、眞に未曾有の難局に際會して居る。而して國民は、之が處理について益々焦慮し、動もすれば惑亂せんとするかの如き傾向あるを以て、識者は大に之を憂へ、其の對策を考究し、以て現世相の匡救と指導とに腐心しつゝある。

吾人は速かに確固たる對策の樹立により、最も有效適切なる方法を以て國民を指導する必要があるを痛感するものである。

案するに我が國が現時の窘迫せる状態に陥つたは何故であるか、所謂世界的不況・世界的窮乏の餘波であるとして、簡単に片付くべきものではない。

遠き歴史は姑く措き、我が國が寛永鎖國の夢より覺めて、明治維新開國進取の國是の下に更生して茲に僅かに六十餘年、實に世界をして神祕的驚異とまで感嘆せしめた程、長足の進歩發展を遂げて以

て今日の一等國となり、世界三大國の一に數へられるに至つたのである。

勿論之は皇室の御稜威によることではあるが、又維新の先覺者が、常に統一的日本の建設を目的とし、皇國の使命完成を理想として、廣く知識を世界に求むるに當つて、克く建國の大精神に立脚し、徒に燦然たる歐米の文化に眩惑することなく、巧に採長補短の實を擧げ、以て新日本の内容を充實せしめたるの一大識見を有せしに基因するのである。

かくして日清日露の二大試練を経て勇躍列強に伍するを得た我が國は、今や獨創的努力によつて、祖國の大理想實現の一路に邁進しなければならぬ時である。所謂大義を四海に布くべく發展し飛躍しなければならぬ時代に到達したのである。然るに何事ぞや、現時の状態を観るに、維新當時の乃至は日清日露兩役當時の國民的氣概は漸次銷磨し去らむとして居るのではないか。

之は畢竟我が國の著しき世界的進出の結果、自ら緊張を缺くに至つた爲めであらうか。又は歐米文化の吸収を之れ事としたる結果、自國の本質を忘失した爲めであらうか。世を擧げて功利主義に墮し物慾に溺れて精神生活を輕視し、又外來の思潮に浸潤して、日本精神の尊嚴を蔑視する等の、社會的の事例の多きこと、眞に清流に耳を洗ふの遑なき程である。

之を此の儘に放置せんか、國を擧げて邪道を辿り、遂には崩壊と破滅との深淵に落下すべきは、火



を見るよりも明かである。

凡そ自己を正視し、自國を正視して、初めて眞の使命を自覺し得るのである。既にして使命を自覺するに至れば、茲に國民的氣慨躍動し、創造的努力旺盛となり、國運の發展期して待つべきである。思ふに外交上の危機といひ、思想上の動搖といひ、經濟上の窘迫といふ所謂國難は、要するに國民の無自覺的歐米追隨が其の根本的原因をなすものである。

而して、かく日本國民をして歐米を崇拜し、無自覺的模倣の弊に陥らしめて、自己を正視するの明を失はしめたる所以を考察すれば、實に現行教育の缺陷に歸着するものである。我が國が明治維新以來、歐米の文化を輸入して、一大飛躍をなしたについては、教育の力に頼つたことは勿論であるが、然かも現時の憂ふべき世相を現出するに至つたのも、亦教育の缺陷に基づくを以て、之に對し正に一革新を斷行しなければならぬ。

試に現今の教育を見よ。父兄は教育を以て一種の投資事業として、單なる就職の方便、富田獲得の手段となし、教育者も亦單に知識の豊富なる者、技術の巧妙なる者を養成するを第一として、人格の陶冶の如きは第二義的のものとする。既に教育者に何等の理想もなく、知識の切實的授業を以て能事了れりとなし、父兄も子弟も亦何等の抱負もなく、望む所は將來就職の便宜と、卒業證書とのみであ

る。かくの如くにして確固たる信念と遠大なる理想とに燃ゆる國民は次第に其の跡を絶つべく、一度其の來るべき結果に想到する時は、何人か邦家の前途に對して寒心せぬものがあらうか。

是に於てか余は、嘗て獨逸に遊び、丁抹を巡つた當時を追想せざるを得ない。彼の自然の富源に恵まれること少い獨逸が、一八〇六年奈翁の馬蹄に蹂躪されて、多大の割地と償金とを以て、遂に其の軍門に降るの餘儀なきに至り、失望と困窮との爲めに、人心全く萎靡沈滞し、獨逸の再生は絶望なりとまで思惟せられた。此の時に當り、哲人フイヒテは、獨逸を復活せしむるには教育の力に頼るの外に途なしと確信して、敢て動かなかつた。果せる哉六十五年の後、即一八七一年の獨佛戰役に於て、佛蘭西を撃破して遂に城下の盟をなさしめたのである。モルトケ將軍は、今回の勝利は國民教育の勝利、學校教師の凱歌なりと叫んで、フイヒテの豫言を裏書した。やがて獨逸は益々興隆し愈々發展したが、世界大戰に於て其の雄圖は空しく滅びた。併しながら今や獨逸では、奈翁戰役後に於けると同様、立國の基礎は教育に求むべしとなし、新に憲法を制定して學校教育の社會化を叫び、國家有爲の人材養成の見地に立ちて、人間の質の改善に専念するに至つた。從來獨逸の學校教育特に中等教育が餘りに知識偏重に流れ、學科教授が形式に走り、眞に國家に役立つべき、確固たる信念を有する人物の養成を怠つて居つたのである。されば普魯西の國會に於て、嘗てケーニヒグレーツの戰に、普魯西



が埃太利に勝を得たのは、小學校教師の力であつたが、今回世界大戰に敗恤したのは、中學校教師の罪であると喝破された。世界大戰後、覺醒せる獨逸は、公民教育の普及と勞作教育の徹底による精神的訓練によりて、人格の陶冶を中心とする實際的國民教育に力を用ひ、以て現時の國難を打開し再び起つて其の雄姿を世界の檜舞臺に表はさんと期して居る。

又世界に於ける理想的農業國と稱せらるゝ丁抹は、地僅かに四萬方籽、我が本州島の五分の一にも及ばぬ國で然かも今より凡そ六十年前までは荒廢せる貧弱なる一小死灰國に過ぎなかつた。加ふるに奈翁戰役に大打撃を受け、更に一八六四年には獨逸の侵入にあつたのである。かゝる丁抹が、今日世界から羨まれる國民安住の理想郷たるに至つたのは、抑々何に基因するか。

其の原動力は、實に國民高等學校にありと稱せられて居る。而して此の國民高等學校は、北歐の聖グルンドウキヒ僧正の精神より生れ出たものである。即丁抹更生の道は、祖國愛に燃ゆる知識慾旺盛なる青年を教育して、從來の少數者の高等教育を全民衆に均霑せしめて、其の青年の力に頼るの外なしとの主義に基づき、農業立國制度を取り、各地に國民高等學校を創設したのである。今や年々七千乃至一萬の男女青年を教養しつゝある。其の教育の主義方針とするものは、宏量にして道德的なる公民精神を涵養し、土地並に祖國に對し徹底せる愛護の念を培養すること。及び國事に精進して、聰明

にして大膽、よく祖國の運命を負荷し得る有爲の青年たるべき覺悟を有せしむること等である。

以上僅かに一二の實例に過ぎざるも、然かも青年教育の如何によつては、或は國家を存亡の危機に導き、或は國運を既倒に挽回し更生せしめ得ることを知ると共に、現今我が邦の教育の實狀に鑑み、余は特に左の諸點について、之が一大革新を強調せざるを得ないのである。

一、人格の陶冶を教育の中心として偏知教育を排す。

教育の眞義は、人格の陶冶が其の中心たるべきことは、極めて當然のことではあるが、現今我が國の教育が果して主力を是に傾注しつゝありや否や。世間的成功、個人的榮達を第一とし、従つて獨り高からむとする成功をのみ教育の目的の如く考ふる結果、最も大切なる青年を對象とする中等教育は上級學校の豫備校の如き觀を呈し、全く偏知教育の弊に陥り、甚しきに至りては、落第生と半途退學者との簇出するをも省みず、只管教材の詰込に汲々として居る。此の如きは、たとへ人格の陶冶行はるゝとしても、之れは殆ど第二義的のものとして取扱はるゝ状態にて、一方救はれざる幾多の犠牲者に對しては、人格の權威を放棄せしむるものである。此の點に對し根本的大廓清を行はざる限り時弊の匡救は不可能である。

二、劃一教育を排して地方的社會生活に即したる實際的教育を施すべし。



我が國の教育は、すべて中央を模範とし、全國を劃一的に統一したるを以て、地方的特色極めて乏しきは眞に缺點である。然るに今尙何等の特色なき中央を以て、寒村僻地の模範とせんとする者あるは、寧ろ其の大膽なるに驚かざるを得ない。身體強健にして剛毅朴訥、質實勤勉なる地方青年に對し輕佻浮薄、奢侈淫靡なる都會風を扶植して、地方的色彩を失はしむるの愚策は直に捨てねばならぬ。教科内容についても、都鄙自ら別あるべく、且實際社會に對する傍觀者たる遊民的教育は斷然避けねばならぬ。

三、現行學校教練を一層盛ならしめて日本精神涵養、鍊磨教育の中心とすべし。

我が邦は富力に於て、領土に於て、極めて貧弱なるを以て、帝國の使命を達成せんとせば、國民の精神力に依頼しなければならぬ。恰かも忠君愛國は我が國民の世襲的財産の如く思はれ、永久的の特權の如く考へられて居るが、歐米國人と雖も、祖國に對する奉公的精神の旺盛なること驚くべきものがある。故に我が國に於ても益々日本精神の涵養鍊磨に努力すると共に、日本國民たるの信念をより強く把握させなければならぬ。目下の帝國の教育の缺陷に顧み、現行の學校教練は眞に有效適切のものといふべく、況んや全國皆兵主義に則れる帝國の國情に照し一層其の必要を感ずるものである。各學校に對し更に十分に有爲の將校及び下士を配屬せしめて、精神的訓練の徹底を計り、國民的自覺心

を確立せしむるを急務とする。

特に現行の補習學校の如きは、之を青年訓練所と統一して、一方十分の經費を支給すると同時に、他方適當なる方法にて之を義務教育制のものとなし、青年の訓練を主體とする青年學校の如きものに改正すべきである。

四、高等専門教育は其の大部分を寧ろ國家の監督補助の下に私立經營に任じ、從來國家が負擔せし其の分の費用は義務教育高等普通教育等の一般青年教育の經費に配し、以て地方的にも、職業的にも夫々適切なる内容の充實せるものを實施すべきである。

國家が責任を以て教養すべきは、現今の我國狀は寧ろ大衆の青年子弟にある。現時の如き經濟難の我が邦は、あまりに少數者の高等専門教育に國費を注ぎ過ぎて、反つて最も肝要なる多數の青少年の教育を不完全不徹底に放任するの止むなきにあらざるか。初等中等教育の實際狀況は如何。更に青年大衆の補習教育の現況は如何。果して獨英米等のそれに比して遜色なきか。余は先年歐米各國の之等教育機關を一瞥し來つて、彼等が如何に多大の國費を投じて國民大衆特に青年教育に力を注ぎつゝあるかに一驚を喫し、つくづく自國の中堅國民教育の前途に對し、考へさせられたると同時に、一種の危懼の念を懷かしめられたのであつた。



抑も教育は、社會を改善すべき一大原動力として、神聖なる任務を有するのである。決して社會の現狀に引き摺られ、又は之に追従すべきものでない。

而して現在の我が國の教育は、學校は只教科書本位にのみ教育を生徒に強制し、社會は卒業證書本位、資格本位に人選して、かくて投機的な職業的の教育制度となりし結果、この國家非常時を現出しただのである。

然らばこの國難打開は、先づ教育の革新によつて解決せらるべきである。

要は帝國の現勢は、正に國民の猛省奮起を必要とし、特に意氣旺盛なる青年の心裡に、熾烈なる日本精神を更生せしめて、以て帝國の理想に向つて邁進せしむるを急務とする。彼の徒に個人主義自由主義等の世界思潮に浸潤して、確乎不拔の人生觀を生せず、萎靡頹廢、偷安の生活をのみ貪る輩に對しては直に覺醒せしむるを要する。

是に於てか國家は一層教育に重點を置き、速に現行教育の内容を革新是正して、民衆青年に十分の精神的訓練を施し、彼等をして帝國の使命を自覺せしむると共に、世界の大勢を認識せしめて、以て國運を双肩に負擔し得べき、意氣と氣概とを抱持せしめねばならぬ。

一度帝國の使命を自覺し、世界の趨勢を察知するを得ば、一切の不安、一切の焦燥を脱却し、消え

ざる希望と挫けざる勇氣とを獲得して、眞に祖國を愛護し、國家の隆昌を圖り、且つ其の生命を無窮ならしめんことを願はざるを得ないのである。

### 時相に鑑みたる我校生徒指導の實際

三重縣度會郡大湊町立工業學校主事

大野 和平

時相に鑑み我校生徒指導の改善は、曰く1、校風振作。2、教育改善。この二事に歸すると謂ひます。それには、目標を定めなければならぬ。しかし、目標は定めても、空文に陥り易いのは、世上の通弊であるから、目標の實現に邁進する爲には、教師も、生徒も眞摯熱誠となる、即ち眞劍味に生きることが第一である。

一、我が國體の精華と、國民性の特長とを自覺せしめ、健全なる國民精神を體得せしむる指導。

我國、現下の世相は憂慮に堪へぬ、即ち思想方面の惡化、經濟方面の衰退萎縮、所謂思想、經濟共に國難の叫びは切實であります。この時、眞純な學生生徒は我國體の精華と、國民性の特長とを自覺して、健全な國民精神を體得することが肝要であります。これには教育に關する勅語の御旨趣を體得



せしむることは勿論のこと、修身、公民科及び他學科教授時間に、特に日常の濁つた汚い魂を磨いてよりよく、品格の擴大に努力せしめねばならぬ。殊に我校生徒の如き、皇太神宮の膝下に生れた者は、「あつばれ神靈所在地の青年として恥ぢない者よ」と云はれたい。それで、この意氣を日夜神明拜に陛下にお盟ひして、この念願を持つてゐる全身全靈を獻げさせたい。それには毎日の行事として授業前、敬虔な態度で皇太神宮并に宮城に遙拜させた後、授業に取かゝらしてゐる、しかしこの遙拜たるや、苟も自己の念願を祈り獻げる故、全身全靈を込めた敬禮であることを忘れさせてはならぬ。

一、獨創力の啓發に力め、勤勞愛好の精神を徹底せしむる教養。

一、底力ある意氣を以て奮闘持久の精神を發揮せしむる陶冶。

我國の工業界は、從來の模倣的を離れて創造に努力し、合理的に邁進せねばならぬと云ふ聲が盛んである。我校生徒に對しては、造船場又は機械工場で、所謂一心不亂に働かせ、更に其の上に新規な考案を加へさせて、所謂百パーセントの出來上りを期せしめ、進んでは發明發見をさせるやう導いてゐる。これには不撓不屈な精神、即ち奮闘持久の精神が根本となるのである。日本今日の悩みは經濟不況以上に、精神の不況である、意氣の減俸である、不平や愚痴などは自身の足元を見ない滅亡の道である。それゆゑ生徒に對しては、工場又は造船所で百パーセントで働くことを忘れさせぬ様

鞭撻してゐる。即ち、日常「勇氣を以て奮つて立ち上る」と云ふ言葉をモットーとさせたい。内に隠れ、底に潜んで、容易く他人にもわからない弱小と思ふ未見の自己に、偉大な力が潜んでゐると云ふことを玩味させ、たゞ百折撓まず、千挫屈せず、しかも捧ぐる魂の蠢動する人々にのみ、この力が發現するものと云ふことを確信させたい。この見地から我校に於ては、父兄并雇主との連絡に力を注いで、生徒の働き振りを監督し、或は工場長の指導を御願ひしたり、自由研究并に工夫研究の問題を課して、優秀のものは之を表彰してゐる。

一、時局の推移に留意し、他人の論說或は偶發問題に批判を誤らしめざる信念の啓培。

我國の現状は政治、經濟並に思想の國難に直面して居ることは前述の如くで、今日ほど、青年の心に不安不信の暗い影が深くなつてゐる時はない、昔の青年達が、經驗したことのないほど、深く、痛切に心を悩まされつゝある状態である。この場合、他人の論說、或は偶發事項に公正な批判力を持つて、時事問題を捉へて、生きた教授をすることが最も肝要である。この見地から當校では、毎日の新聞、雜誌の記事について、時間の許す限り、時局問題を捉へて、批判的な教授をして、生徒をして殊に經濟に對する深き素養を與へ、思想について健全な導きをすることを怠らない。しかも、生徒の全體が晝間、工場又は造船場で、仕事に没頭してゐて新聞雜誌をも觀る暇のない身であるから、特に興



味を以て學習してゐる。

## 農業教育の根本指導精神

山口縣立日置農林學校長

櫻田潮生

### 一、農業は人を生む

題して農業は人を生むと云へば、極めて奇矯の言辭を弄するに似たれども蓋し事實であることを奈何。即ち近時の甚大なる都會の膨脹は、人口集中の結果であつて、我國の人口が毎年八十萬位も増加するのは、主として農村に於て生れる人口の増加に原因するのである。即ち農村に於ける人口の増加は生産的增加である。換言すれば農業者の出産率が大なるために、人口が増加するのである。我國の都會地の一戸平均人口は三人乃至四人であつて、地方農村及び小都邑の一戸平均人口は五人乃至六人となつて居る。今之を父母の代より算すれば、都會の四人とは兩親によりて自分が生れ、嫁を貰つて一家を成したが子供が出来ない。即ち自分一代を限りとして血統が絶ゆることを意味するのである。之に反し農村に於ては、自己の代に至りても、尙二人の子供を生むことが出来る。一家を成して子供の生

れざるほど淋しく悲しき思ひはないではないか。此意味に於て農業は人を生むと云ふのである。

### 二、農業は食糧を生む

農業が生活の基本たる衣食住の根本的産業であることは、今更贅言を費すの要はない。而も農業が現時の國家社會の重大問題を投げかけて居るのは、(一)は國家食糧の獨立問題であり、(二)は農村經濟の基調たる米價の問題であつて、共に農民の生活に重大なる關係を有し、將た又國家社會問題として益々重要性を展開せんとするの兆、蓋し顯著なるものがある。農民一たび鋤を動かすことを止めんか、同胞國民は明日の糧を得るに窮するの結果國家社會の重大難關に逢着せざらんとするも能はぬ。

### 三、農は武を生む

「士農分れて兵弱し」とは蕃山の言である。維新後兵制改革以來、國民皆兵と云ふも、現實我國の兵士の八、九割は農民の子弟である。予が盛岡の騎兵聯隊につきて調べたる結果に於ても、一聯隊の兵員中農に關係なきものは、僅に數人に過ぎなかつた。此點より考ふるも農民は國家の干城たる實際任務に就て居ることが確實である。農業者は體軀優良忍從の性に富む故に、最も勇武なる兵となる素質を有するのである。是即ち農は武を生む所以である。故に曰く農民は國家の藩屏であると。而して此點に於て將來國家の重大性が潜んで居る。



#### 四、農民は皇室の藩屏なり

既に農民は國家の藩屏たりと稱した。思ふに我日本帝國に於ては、國・君・民の三位一體の國柄である。従つて何れの一も分離することの出来ないところの國體である。故に國家を護ることは皇室を護り、人民を護る所以である。是を以て國家の藩屏は皇室の藩屏たる所以に外ならない。

#### 五、農業は國民道德の源泉なり

以上述べたる如んば、農民は國家の干城であり皇室の藩屏たる以上は、悉く忠實勇武なる 陛下の股肱であらねばならぬ。即ち忠君愛國の精神の充溢せる且つ其の發露者たるべきことも明かである。此事は幾多の史實の證明するところである。現時の社會事相に照らして此事は極めて重大事である。故に農民は國民道德の擁護者を以て任じ、且つ國家及び國民一般は農業が國民道德の源泉であり搖籃であると共に、農民が國民道德の擁護者たることを覺醒して大に感謝を獻げねばならぬ。

以上五大要綱は、予が多年農業教育の根本指導精神として掲揚し來れるところである。今極めて簡單なる解説を附したるに過ぎざるも、此農業の社會國家に對する重大性に鑑みて、農村子弟の自覺を促し其の名譽と責任とを負擔せしむべく指導訓育し、且つ諸般の政策、經營方策、生産販賣等に関する改善施設等皆此根本精神を把握して出發すべきを祈念して止まぬものである。故に往々にして農業

を以て單純なる錙銖を争ふに過ぎざる營利策と看過し去る如きは吾人之を採らざるところである。

或は又爲政者等が、支配階級たちが、農民を目して、何等の不平も無く、農村僻陬の地に自然を伴として、黙々として安住の天地に營々し、何等綺羅繁華の夢をも知らずして、只管不潔汚溝の間に陋居することをも更に厭はざるソノ忍従性と素朴性とを益々長養し、謂ば桃源夢裡に閑居して山中曆日を知らざる底の生活裡にあるべく農業を奨勵し農業教育の鞭撻を行ふものあるを聞くは、吾人の頗る怪訝に堪へざるところであつて、又甚しく現代の農民を愚にし、且つ支配階級たちが錯覺による自己満足に陶醉せるものと感ぜざるを得ぬ、今や東洋に於ける模倣文明の没落期に際會し、益々其機運を促進し來りつゝあることを覺らねばならぬ。支配階級有閑階級たちは、一步一步自ら其運命に急ぎつゝあるのではなからうか。

### 結 論

一、農業に従事するものは、獨立自尊農業を以て自己の天賦と心得、農業家の本務責任を自覺し自勞自活の民たるべし。

二、農業に従事するものは、右手に鋏、左手に劍。以て生活的國民として國家有事の日に備へざる



べからず。

三、農業に従事するものは、國家社會の中堅として、樞要なる位置にあることを自覺し益々農界の振作を圖るべし。

## 時局に鑑みて

和歌山縣立紀北農業學校長

遠藤勘三郎

現今の經濟不況には世界的原因の他に我國特有の原因もあり、又政治・經濟・産業・教育・交通其の他各種の文化が從來餘りにも都市中心で、農村の現實を没却して居た結果である様に思はれる。農村には農村としての適切なる文化がなければならぬ。此の際農村を救済するには幾多の方法・手段あらむも、眞に農村を救済するものはやはり農民自身であつて、政府の諸施設と相待つて自力により適切なる農村文化を建設しなければならぬ。

農民に自力更生を要求するならば、先づ自力更生の力を與へる事を必要とする。然らば其の力は何によつて與へらるべきかと云ふに、その根本は教育によらなければならぬ。結局農村に基礎を置い

た教育を施さなければ到底今日の行詰りは打開し得ないであらう。それはドイツの例に見るもデンマークの例に依るも明かなことである。

農村の荒廢は國家のため最も憂ふべき現象である。イギリスは嘗て農業政策を誤つたがために甚しく農村の荒廢を見るに至り、やがて生産の一大減退を來たし、世界大戦争の始まつた時分には自國民の必要とする食糧の六分の五、即ち一年の中で十箇月分と云ふものは外國から之を仰がなければならぬと云ふ恐るべき状態に陥つたと云ふことである。世界平和の際ならばそれでもよいかも知れぬけれども、一朝戦争が始まる様な場合には敵に勝つと云ふ問題よりも、如何にして國民を餓から救つて行くかと云ふ問題が急務となるのである。勿論戦時に於ても外國から食料品を運送船に積んで輸送し得られないことはないであらうけれども、其れがためには運送船の護衛に多くの海軍力を要することになるから、結局世界に誇る海軍國でも其の主力を海上の戦争に注ぐこと出來ず、又外交問題にも支障を來たすに至るであらう。どうしても國家としては農村の振興をはかり食糧の獨立を忘れてはならないのである。

ジョージ・ワシントンは「凡百の職業中最も貴くして、最も重要に、且つ最も趣味あるものは農業である」と國民に教へられたとか云ふことであるが、農業者は眞に農業に興味を有し、農業は貴き神の



御業なることを知り、土に親しみ喜んで働くこと云ふ信念を持つて居らなければならぬ。これこそ生き甲斐ある生活であります。世界の發明王エヂソンは「煩悶するな、唯働け、さうすれば健康で長生き其の間に願は叶ふ」と教へて居るのである。

次に研究と協同により産業の合理化をはかり、今日の經濟行詰を改善しなければならぬ。又近年思想問題に悩まされて居るのは餘りにも外國文化の模倣に終始して建國の大精神を忘れて居た爲である様に思はれる。思想國難を去るには國體觀念を明徴にしなければならぬのである。

何となれば其の國難は國民が日本の日本國たる所以を根柢から能く理解し居らず、吾々の外國文化を學ぶのは、結局我が國家の發展を來たす爲であると云ふ此の大切なる目的を忘れて仕舞ふからである。

我が國旗の日章は我が日本帝國の大精神と我が國民の大理想とを表現するものと謂ふべきである。日章は 天照大神の玉影を寫し奉れるものと想察することが出来るが、又之を太陽の象を寫せるものと見る時はこれは宇宙間總ての勢力の根本となるのである。誰かこれに依つて隆々として朝日の天に昇るが如き我が國威を聯想しない者があらうか。そればかりか我が國號日本は實にこの國旗の日章と相一致して居るのである。

次に我が國皇室の御紋章なる菊は古來支那では四君子の一であり、又延命草・日精花等とも呼ばれて居り植物學界に於ても最高位にあるのである。御紋章としての菊花の姿は皇室がよく國民を統べさせ給ふ様子を表はしたもので、八千萬國民が皇室を中心として、億兆心を一にして、美はしく香ばしき此の大國家を形作つて居ることを標象して居るものと云ふことが出来る。

以上述べた理由により國體觀念を明徴にするには、先づ國旗と御紋章とを大切に取扱はなければならぬ。要するに我が國民は此の際建國の大精神を忘れず、確乎たる信念を持ち、修養・研究を怠らず、農業を重んじ、共存共榮を目標とし團結して、國難に當らなければならぬと考へて居ります。

## 頭と心情と意志の調和的人間への教育

新潟縣立新津高等女學校校長

川崎利太

### 一、社會の缺陷と之が責任

如何なる時代と雖も、缺陷のない完全な社會はない。不完全と云ふことは、人間社會に於ける必然的制約である。又これあるが爲めに、社會の進歩もあり、人間の努力も存するのである。従て缺陷あ



る社會であるからと云つて、神經的に悲觀する要は少しもないのである。然りと雖も缺陷は常態であるから之れを其儘に放任してよいと云ふのではない。若し其儘にして置くと云ふならば社會の死滅を來すのである。

そこで社會に於ける人々は何れも皆自己が屬する社會の缺陷を自覺して進んで之れが缺陷を救済する覺悟を有さなければならぬ。そして全力を擧げて社會救済の責任を負荷すべきである。かゝる責任の分擔者こそ始めて眞の意味に於ける社會人と云ふべきであると思ふ。然も其救済策を立てるのに各人は各の立場から色々の策を講ずることが出來ると思ふ。

### 二、現社會の缺陷

然らば次に現在の社會には如何なる缺陷があり、吾等教育者の立場から如何なる救済策を立てべきであるか。勿論現社會の缺陷は一、二にして止まらずと雖も世人呼んで經濟國難思想國難と云ふ。然らば經濟國難は如何にして來るか。それは結局各人の欲望が急速に進んで來たのに對して之を充す實力が伴はない爲めに起つたのである。又思想國難は人間の視野が最近急激に廣くなり世界中の事象が瞬間的各人の耳朵を打つ爲めに人間が各々自分の立脚地を忘れて他人を羨しがり自己に對して不平不満をかこつ爲めに起つたのである。

故に之を各人の身に縮めて考へると、頭のみ進んで實行が之に及ばぬ爲めに起つたものと云ふことが出來ると思ふ。つまり思想は徒らに空想の飛翼をもつて飛び立つが、實行は肉體の制約に縛られて思ふやうにならない所から起つたものであると思ふ。だからして幾ら經濟國難と云つたからとても決して現社會の富が昔より貧弱になつたと云ふのでもなく、又思想國難は昔時よりも社會國家が墮落した爲めでもない。故に之れを教育と云ふ立場から見ればベスタロツチの所謂三ツのHの調和的發達と云ふことによつて救済されるわけである。

### 三、思想と實行の背離の原因

然らば何故にかく思想と實行の不一致な人間が出來たか。それは一面教育の起源が之れを示して居ると思ふ。即ち教育は本來支配階級のもので、自己の威力を増す爲めに裝飾の爲めに起つたものである。而して實用的の仕事せば奴隸をして實行せしめたのである。尤も此見解は一應は普通教育の勃興によつてなくなつた筈であるが、未だく教育界の分野に其根跡を見出すことは難くないと思ふ。

更に我國に於ける明治時代の教育を考へて見ると、此時代は理想の歐米の模倣に置いた爲めに教育の仕事は歐米文化の吸収に全力を注いだと云つてもよいのである。そして之等教育せられたる役人が先頭に立つて指揮をし人民は盲目的に追従して來たのである。それが爲めに歐米に追ひ付く爲めの足



並みは非常に早かつたのであるが、然し理想と夢みて居た歐米の文化は決して極樂ではなかつた。之れが爲めに國民失望は甚しく役人を信用せず、お互に理想の暗中摸索をやつたのである。之れが思想の混亂となつたのである。然し各人が善を求めて居ると云ふ點は喜ばしきものと思ふ。

#### 四、失業者とは如何

現在の社會には所謂失業者と云ふものが多い。之れは何によつて生れたか。人間は本來自分の腦の指圖によつて自分の手足を動かすやうに出来て居る。然るに他人の頭の命令によつて動くと思ふのであればそれは人間でなくて機械である。然るに今日の状況で見ると多くの人々は此機械の地位になりさがつて居るのである。又他の一部の人々は劇作家のやうに筋道を書いて俳優に踊らせやうとして居るのである。即ち教育を受けた人々は口先で指圖をすることは出来ても自分の手足で仕事をすることは出来ない。又労働者は自分の手足をば自分の思ふやうに働かすことが出来なくて他人の命の儘に活動をして居るのである。これでは兩方とも満足する筈がないではないか。其満足出来ないのを色々の條件を持出して満足せしめやうとする。正に不可能事を行ふとしてお互に不平を云ひ合つて居るのである。故に若し現在と云へども條件の如何を顧みずに仕事をしやうとすれば決して失業者はないのである。其條件とは具體的に云へば賃金、労働時間、仕事の難易其他の待遇等である。故に繰り返して

云ふ失業者は頭と手足が別々の人間に屬して居るから起る變態状態である。

#### 五、結 論

茲迄書いて來ると今後の教育の進むべき大體の方向が暗示せられると思ふ。即ちベスタロッチの言ふ三つのHの調和的發達をした人間を作るのである。然らばかゝる頭と心情と意志の調和した人間を作るには如何にすべきであるか。

吾々は今迄は只頭だけの教育に主力を注いだから、教室に於ける講義が教育作用の中心になつたが今後三つの調和的發達の爲めには講義式教育であつてはならぬ。何處迄も實行から頭への教育でなければならぬ。これが最近勞作教育が教育界の主潮となつて來た所以である。

所が現在の勞作教育は作業と云ふものが在來の教育に加はつたに過ぎぬ。これではいかぬので教育の全分野が勞作による様にならねばならぬ。即ちあらゆる教育が勞作を通じて行はれる様にならねばならぬ。かくすることに依つて頭と手足の完全なる調和が行はれる様になると思ふ。

そこで手足と頭が調和的發達した全人こそは、所謂失業もなく不平もない人間になるのである。吾々の欲望も自分の手足によつて充足せしめることの出来るものだ欲する様になるのである。私は此意味に於て教育の全野を改造せねばならぬと思ふのである。



## 所 感

鹿兒島縣立第一鹿兒島中學校長

野 山 忠 幹

國民精神が緊張を缺くに非ずやとの世評のありし時に際して昨秋の滿洲事變あり、國民精神頓に緊張するに至りしは邦家の前途の爲め寔に慶賀に堪へない、我が國は由來生々發展主義を以て人道の爲めに、東洋の平和の爲めに、絶大の努力をなし採長補短以て今日に進み來つた。彼の祈年祭の祝詞にある。「狭まい國は廣く、峻しき國は平らけく、遠き國は八十綱打ちかけて引き寄することの如く」誠に雄大なる氣宇を有することを長所とするもので、自力更生も更に此の長所を發揮する事が最も肝要であると思ふものである。

## 國民更生運動に直面して吾人の反省

埼玉縣松山實科高等女學校校長

荒 井 三 治

## 第一、寸陰も夢に過す勿れ

時局の推移轉變極りなき今日、我が國に於て官吏も軍人も、會社銀行員も、農民も商工業者も、儲者被儲者も將又八千餘萬の同胞の誰もが、最も慎重に反省し、而も相互に實行を期さなければならぬ急務がある。

即ち所謂急務とは時間觀念の刷新向上それである。由來日本人は傳統的に時間の觀念に乏しく時間的經濟に至つて洵に淡泊である。

是れ固より突發的の一時的现象ではなく、幾百星霜の間、事を告ぐるに飛脚を以てし、伊勢參宮をなすに親族水盃をなし徒歩を用ふる等の舊來の風習に依るものである。

此の風習あるが故に、如何に時代の要求否動向である民力涵養を叫び、生活改善を唱へ、國民精神の作興を策し、國民の自力更生を高潮しても、只一時的の宣傳に終つてしまふのは、既往の事實に徴



して明かである。

故に之が根本的解決を期せんには、其の根柢である人間の改造、心底の改良即ち魂の入替を策勵しなかつたならば、依然として舊骸に座してしまふ。故に斷然新動向に邁進するのぞなければ、國民の自力更生運動の一部面をも達成することは至難なことと思ふ。

### 第二、傳統的惡習を打破せよ

古來日本人は、所謂東洋式豪放な氣風を貴び、即ち「武士は食はねど高楊子」、或は「江戸子は宵越の金は持たぬ」、又は「金は此の世の中の塵埃だ」、等々といつたやうに、細事に頓着しないのを以て潔しと考へて居るやうな、一種奇怪的傳統的な惡習に支配せられて居た。

従つて全力的眞劍的に活動すべき職務時間中でも、極めて散漫粗雑に働いて居るし、又全然仕事を拋棄して心身を休養すべき休憩時に管らぬ仕事に頭腦を使つて居たりする者がある。

これは單に精神方面の問題に止まらず、物質的方面に於ても之に類似せる點が多々あると思ふ。總て是等の所爲が人間生活の根本主義に順應せざるのみでなく、到底此の劇烈なる生存競争に堪へ兼ね社會の落伍者たるの一素因となるのである。

茲に於て吾人は世相の眞髓を精察して、大に人間味ある而も常識味ある勤勞の良習を獲得して現代

の重要なる時局に對して些少なりとも貢獻すべき覺悟が必要である。

### 第三、職業は人生の伴侶よ

人間生活の根本義として、吾人は天與の職業に對して、最も眞實に最も純眞に、全力的努力を完うすべきである。職業を離れては人間の存在も價値も努力も皆無となるのである。

故に吾人が自己の職業に對して眞劍的努力を效すことが、人生の存在を明確にすると同時に、意義ある生活を持続する道となるのである。仍つて古今東西の別なく職業の貴重なる所以を絶叫せられつつあるのである。

人若し其の職業に依つて生を完うし得るなれば、職業即ち生命、生命即ち職業の相對原則に依つて生命は愈々持續せられ延長されるのである。

勿論吾人は娛樂を望み休憩を希ふのである。然れども是等は職業の効率を擴充し向上せしむる一方便たるのである。若し夫れ吾人に職業なかりせば、如何なる娛樂も休憩も何等の價値なく何の意味も存在しない理である。

由來日本人の風習として、其の甚だしきは生活様式の本末枝幹を轉倒して、職業を娛樂と休憩の片手間の如く爲して居る者のあるのは、行財政の整理緊縮、綱紀肅正、勤儉獎勵、自力更生等々喧しく



唱導せらるゝ非常時局に於て頗る遺憾とする所である。

個人的職業に於ては、まだしも團體的協同的作業に於て、一日八時間労働すべき仕事で、百人の者が各一時間宛無爲に時間を消費したと假定すれば一日に百時間の事務能率が減殺される譯である。之を全國民八千萬人に就いて算入するときは、忽驚一日總計八千萬時間の巨大な空費になるのである。

翻つて此の率を以て反對に働き出したとせば、其の貢獻する所は實に偉大なるものである。今や舉國的に自力更生運動の高潮せらるゝの秋、肯て陳腐なる事項を羅列し、以て吾人の努力の標的としたものは、自力更生の四字である。將來之に向つて猛進すべきである。

#### 第四、議論よりも實行が先

要するに從來叫ばれつゝあつた民力涵養・生活改善・時間尊重・社會奉仕・勤儉獎勵、今日喧傳せられつゝある思想善導・共存同榮・自己更生等或は經濟的に或は政治的に將又道德乃至產業的に叫ばれる事象は數多いが、其の趣旨、標榜、宣傳等に於ては、時流に従つて、都鄙貴賤上下男女の別なく、社會の一員として、誰しもが充分に理解してゐるのである。

然るに之が實行の不可能不徹底なのは、相互の意思の薄弱であるのと責任自覺が不充分であるのとに起因するのである。即ち口では流麗玉の如き饒舌を以て一攫千金の言辭を弄するが、いざ鎌倉と

いふ窮迫に際つては、袖手傍觀者の多いのが、現代の側面觀でなく眞實觀である。即ち

- 一、家又は事務室の不整頓不清潔は知りつゝ眼前の箒も片附けず、屑紙を拾ふ事もしない。
  - 二、時は金なりと口に唱へつゝ集會時、始業時に定時勵行をしない。
  - 三、左側通行の揭示文字の巧拙は批判するが、自己の立脚點及び歩行には無頓着である。
  - 四、二重生活始終の苦は、常に囁きながら生活の實際は虚偽虚飾だらけである。
  - 五、一文吝みの三文損で記帳精算もせず、財布の紐の締りが充分にいかない。
  - 六、金箸の曲つたのや魚焼、餅網の破れたのを怒りながら之を修理することを忘れてゐる。
  - 七、自力更生に關して夜更まで口角泡を飛ばして論議しながら平氣で朝寢する者もある。等々
- 以上は全く其の一例を掲げたに過ぎないが、斯かる現象、傾向が人間生活の大部分を占領してゐるものと確信する。茲に於て吾人は家庭の人とし、教育界の一人とし、社會國家の一員として、聲を大にして奮闘すべき公道は、一に實行、二に實行、三に四に……虚偽なき實行力の馴致に、訓練に、涵養に、行使に最善の努力をなし、以て此の非常時に善處し、些少なりとも社會國家に貢獻したいために敢て一文を草して各位の御批正を仰ぐ次第である。



## 特に青年學徒諸君に與ふ

徳島縣立麻植中學校校長

三 木 政 次

現下國家の危機に際し、私は全國民に自己自ら生きんとする能力に自信を持ち、新しき運命開拓に向つて精進せんことを勧めたい、苟も自分も生き、世の中をよくして行く、日本國家もこれに依つて發展すると云ふようなことならば、其方法は千差萬別どうでも構はぬ、ドシ／＼勇敢に進むべきである。そして、それについては大體、次の順序に修養に心掛けて行くと云ふことが大切であると思ふ。

(一)先づ第一に青年は親や兄弟や友人知己にあまり大した迷惑をかけないで、自活の道を立て、行くことを計劃せねばならぬ。概していへば現今の青年學生は甚だ贅澤が過ぎて居る。その力もなく他の脛かじりをして居るものまでが、毎月五十圓も中には百圓以上も學資の要求をする等は實に間違つて居る。試に現今社會の要路に立ち、國家の中堅に位して居る先輩を見ればよい。其修養時代に今の學生の如く、贅澤をして居つたものが幾人ある。其大部分は山村漁邑に育つて、殆んど何らの文明機構に觸れなかつたものか、然らずんば、都會にあつても、學資金もなく、頼るべき人もなく、自ら働

いて自ら衣食するといふような、寧ろ不運の人の方に多いではないか。教育は社會化されなければならぬ。といつて只社會の凡庸人の眞似を其儘にやるのは、大なる心得違ひである。宜しく先輩の其の今日ある所以をよく考へて、少くとも最少限の學資、最低の生活程度に甘んじて、自己の修養に努め他日の社會の荒濤に備へねばならぬ。

(二)社會は連帶である。何事も自分のことは自分でせよと云ふ時代ではない、併し乍ら團體に参加して、共存共榮の實を結んで行くには、夫れ／＼各個人が自己に與へられた任務を善く遂行して行かねばならぬ。何事も個人的に生活して行ける時代に比べると、餘程複雑であるが、兎に角、一人前の仕事を充分に仕遂げて行くと云ふ點に於て、昔も今も何等變りはない。この一人前以上の仕事は完全になされる時、始めて吾々は一人前の人間と云へるのだ。これは恐らく通常三四十歳位であらう。仕事によれば二十歳位で既に一人前の働きを持つことも出来るが、概して三四十歳と見ればよい。我國には九千萬の國民があるが、其中六七割は老人や子供、病人や不具者、さすれば先づ二三千萬人で持つて今日の日本を支へて行かねばならぬ。だから三十歳から五十歳位までの所謂人間の働き盛りには、随分其負擔が重い譯である。そこで世の中の進展に貢獻するとか、國家社會に重要がられると云ふには、この時代に餘程の働きをせねばならぬ。其準備の時代が生後二三十年の期間である。青年



學生の如きは、皆この重要な準備の時期にあると云はねばならぬ。そしてこの準備といふのは、毎日々出来ぬ乍らも一生懸命社會の爲に盡さうとする、若輩乍らも、自己の運命の開拓に向つて全力を傾注するといふことに外ならぬのである。現今の人間は皆甚だ横着である。其勞少くして其効多きを望む。機會の來るのを一心に待ち構へて居る。ところがよく吾々が考へねばならぬことは、機會は決して、向ふから獨りで轉つて來るのではない。吾々が進んで作るものである。釣絲を垂れないで魚がつかれるものでもなく、種子を蒔かないで、豊穰の秋に廻り合せるものでもない。只一生懸命に苦心し、努力して居る間に、少くとも一生の中に一度や二度は必ず普通の人は其機會に恵まれるのである。この機會をよく握み得るものゝみが成功する。ウカ／＼して居るとこの機會は眼にも見えない、何時何處を通つたかも知れないのである。

(三) 第三に青年は常に明るい氣分を持つて居らねばならぬ。概して今の青年は讀み物の量が多過ぎる。讀み物の選擇もしないで無暗によみかじる。由來出版者の側から云へば可成面白くして人を釣る必要がある。普通の原理、事實を正直に説いて居るだけでは面白くない(眞理は極めて平凡なものだ)そこで随分奇抜な例外なもの、數千萬中稀に起ることのある珍現象、寧ろ精神病者の考へるような、そして一寸青年の氣を引いて見るのに都合のよいようなことを誇張して書き立てる。好奇心に燃えた青

年は何の分別もなく、この網に引掛かる。これが往々青年を誤らしめて居るのである。一つには學問があまり分科的になつて、所謂學界の權威とか、大先生とか云はれるようになると、却つて狭く／＼進んで行つて、人間全體としては寧ろ畸形的な不完全に固つた人達が臆面もなく、直接青年に接し、無責任なことを云ふ。そして全人としての青年を指導し得るような指導者が殆んどないと云ふことも其一大原因かも知れない。

自分は近來青年學徒が可惜淺墓に思想問題等にかぶれて、當局や親兄弟を極度に困らせて居る、不幸なものを見る度に、一層この感を深くするのである。吾々は眞理を遠いところに求める必要はない。「道運きにあり」で、寧ろ自分の歩むべき道は、自分の經驗知慮の範圍で、父兄先輩の言に聞き、慎重に決定すればよいのである。そして、これだけは自分の信念、自分の主義、子孫にまでも傳へると云ふように、充分に確信のある、平凡でよいからシツカリした據り處を求める。これをこしらへることが必要であると思ふ。昔から凡々たる大道といつて、正道は必ず坦々たるものであり、幅の廣い、誰に聞いても直に解る筈のものである。人は異つた脇道を通らうとするから不都合が始まる。古來偉人傑士の言つた言葉を聞いても、最初未完成の時代には随分奇抜なことのあつた人でも、大成し、老熟した後には、極めて平凡で、而もドツシリしてゐる。この時にいつたことが絶対に動かざる眞理で



ある。青年は宜しく、こゝに思想と信仰の家を作り、そして毎日のことにいそしんで行けばよい。順序ダンドリさへ出来れば、たとへ普通人の二倍の勉強をしたからと云つて、其間に無駄なことをしなから、決して心身を過勞せしめるようなことはない。いつのまにか驚くばかりの大事業を成就し、國家社會に重きをなして居るものだ。そして愈々この時期に到れば、益々奮發して公共の爲に盡す、世の中に充分認められるから自然面白く、自己一身のことなんか何時の間にか忘れて仕舞ふようになる。

かゝる人は、いつも心が朗かで、一生福德圓滿の相をしてゐる。たとへ體質骨格上貧素に見えたり窮窟に感ぜらるゝ筈の人であつても、よく接して見ると、自然に圓やかな人情の發露があつて、如何にも親み易く、而も狃れ難く感ぜらるゝものである。よく働いて一分の隙もない様で、心には常に餘裕があり、少々の病氣位に襲はれてもへたバルようなことはなく、堂々自己の天職が完全に成就されるものである。先づ第一に個人々々がかくなつて来てこそ、世の中は全體として非常に明るく、彈力性に富み、且終始歪みなき結合が作らるのである。「天ノナセル孽ハ尙避クベキモ自ラ招ケル孽ハ避クベカラズ」と孟子もいつたとか、たとへ世界的の不景氣が襲來しても、大して恐るゝには足らぬ。要は自ら正しく、強く、自分を養つて行くことだ。自分は全國民が、かくの如くならば、たとへ現今

の三四倍の國難が襲ひ來るにしても、決して撃退の困難を感ずることはないと思ふ。要するに、この非常時に生れ合した青年は必ず自己の有せる大なる力を信じ、決してこれに恐れ戦ぎ戦はずして旗を卷くが如き卑怯な振舞をしないことである。吾々の力は必ず爲さんとする總てを成し得ると自分は信ずる。

## 時局に鑑み青年諸君に告ぐ

千葉縣立成東中學校長

中山 音 彌

昭和七年十一月二十一日午前十一時、壽府に於て、日支紛争に關するリットン報告書の審議せらるべき、第六十九回國際聯盟理事會が開かれた。東京日日新聞の近時片子は曰く、「ジュネーヴの空沈黙の霧が深く立ちこめてゐる、大荒れになるか平和の日が恵むか、運命の岐れ路だ。」と雨か嵐か、國際會議の晴れの舞臺に於て、我が使節諸公が九千萬同胞の意志を代表して、日支事變の根柢を剔抉し、滿洲國に對する我が牢乎たる決意を披瀝して、歐米諸國の蒙を啓くべき時が來た。眞に之れ古今未曾有の一大時機が展開し來つたのだ。昔時弘安四年、四百餘洲を擧る十萬餘騎の蒙古勢が、多多良濱邊



に押し寄せたるは、實に當時に取つて未曾有の一大國難來であつた。博多よりの急報頻りに到るや、相模太郎時宗は、甲冑に凛々敷身を固め禪家佛光國師の許に至り、「弟子即今大事到來せり」と國師に教を請へば、國師曰く、「如何か向前せん」と時宗威を振つて大喝せり。國師更に激勵して曰く、「眞の獅子兒なり能く獅子吼す、驀直に前進して回顧する勿れ」と相模太郎の膽甕の如く、勇躍して立つて天下に號令するや、舉國之に應じて奮起國難に當る。神風忽ち起つて皇軍を祐け、底の藻屑とならざりし敵兵僅に三人。當時犖犖の武威世界を震駭せしめたりし、強豪元の忽必烈も、爾後我が國に對して、一指を染むる野心を放棄せり、と之れ昭々たる史實である。今や四百餘洲の敵は物の數ならず、一步を誤れば、世界を向に回さねばならぬ大事件である。皇國の興廢此の一舉に在りともいふべき、一大時局に面接しつづ有るのだ。

理事會の開かるる二十一日早朝、我が首席代表松岡洋右氏は、壽府の空より、遙に我が九千萬同胞に呼びかけて曰く、「余は日本を出發して二十八日目の一昨日當地に到着した。ジュネーヴへ來ても自分の決心には聊か變りはない。此の點については各位の御安心を願ひたい。余は神前に立つてゐる氣持で、何人も恐れる處なく所信に向つて邁進する……」とああ何たる感激的の叫びであらうか、あゝ何たる敬虔的態度であらうか。此の日午前十一時四十分、彼は列國の代表、隨員、新聞記者、傍聽者

等無慮六百名列席の公開理事會議場に於て、悠鷹迫らず満場を睥睨しつづ、堂々たる雄辯を振ひ舌端火を吐くが如く、日支事變の真相を説き、滿洲問題に對する鐵石の決意を披瀝し、午後零時半に至る前後五十分間に亘り、場の隅々迄徹底して、滿堂に一大衝戟と感動とを興へた。ああ何たる大獅子吼ぞ。我が代表は既に獅子吼して我が國の所信と決意とを世界に宣言せり。我等の進むべき道は唯一途である、此の獅子吼に呼應して、舉國一致驀直に向前せんのみである、されど今日の世局は元寇當時の如く、然く單簡に片付き得るものではない。現に支那代表顏惠慶は、壽府に於て豪語して曰く、「支那は目下抗日を深刻化して、事態を長引かせんとする準備をなしつつある。我が國土を侵略者の手から解放するためには、若し必要とあらば軍國主義をも採用するで有らう。と加之國際聯盟に列する群小各國は、自家擁護の見地から、事相の實際を究めずして、徒らに規約を循として空論に走り、動もすれば我が國に不利なる言動を爲さんとしつつある。されば理事會の決議は晴れにせよ嵐にせよ、對支問題は一朝一夕に片付き得る事件ではない。今後滿洲國獨立問題を中心として、如何なる大波瀾が勃發し、如何なる難關に逢着せんやも、知らべからずと言はねばならぬ。

外既に此の難局に際會せるの時、内亦經濟難の極に陥り、思想の惡化其の終熄する所を知らず、實に之れ我が國未曾有の非常時である。苟も憂國の人士の片時も偷安を許さぬ時であり、緊禪一番難局



打開の爲に、奮勵努力すべき秋である。やがて國家を双肩に擔ふべき我が青年諸君、果して如何なる覺悟を有するか。

明治大帝の御製に、「いかならむ事にあひても撓まぬは己が敷島の大和魂」又、「事しあらは火にも水にも入らばやと思ふはやかて大和魂」大和魂之れ實に我が國民精神の根源であり、忠君愛國の精神の心髓である。しかも我が國開闢以來三千載の久しきに亘り、我が大和民族が、天祖の神勅を畏みつつ萬世一系の皇室を奉戴し、一貫せる皇道精神の下にはぐくまれ、君民一體となつて、天壤無窮の皇運を創造し來つた大精神である。此の精神の發動する所、如何なる外敵をも粉碎し、如何なる外來思想にも屈從せず、萬難を打開して神勅の聖旨の實現に力め、眇たる島帝國をして、能く世界の一大帝國たらしめたのである。

我等は現下の非常時に臨み、須らく此の昭々たる國史の成跡に鑑み、我が尊嚴無比の皇室を中心として、舉國一致この國民精神の作興に努め、我が大和民族の本領を發揮するの覺悟を確くせねばならぬ。之れ大正十二年十一月十日、渙發せられたる國民精神作興の大詔に、昭示せられたる所である。徒に言あげせずして、専心に義勇奉公の實を擧ぐるは、我が大和民族の傳統的精神である。只、「海行かは水つくきはみ山行かは草むす屍大君のへにこそ死なめかへりみはせじ」の精神で邁進すればよい

さりながら今日の國家組織は、萬葉時代の如き簡單なものではない、己が自々國家社會に負ふ所の責務が有る。之を没却して徒に狹隘の思想を抱き、愛國心の發動を誤つて、直接行動に出づるが如きは彼の赤化思想に昏惑して、社會に累を及ぼす徒輩と擇ぶ所はない、深く警愼すべきである。往昔トラファガーの戦に臨み、英帝國の存亡の危機に際し、英提督ネルソンは信號して、「英國は各人が其の義務を果さん事を望む」とやがて英國は大捷を博し、危運を突破して、よく今日あるを致したのである。「青年諸君冀くは自憤自啓、燃ゆるが如き愛國の精神を更生せしめ、常に各自の責務に精進し、不屈不撓驀直に向前して、以て此の非常時局の打開に貢獻せられむ事を。」

## 現時の世相國情と我が國民教育

鹿兒島縣立奄美高等女學校長

大井 徹 翁

一、教育勅語と精神更生、齋藤内閣最初の地方官會議に於て首相は冒頭時局重大の際に鑑みて特に新例を開き全員起立の中に「教育勅語」を奉讀して會議に嚴肅なる感銘を與へた旨當時の新聞紙上に承知した次第であります、之れが國民心理に及ぼした善感化は頗る大なるものと思惟致して居る



のであります。一體教育勅語は元來學校のみに下し賜うたものではない。國民上下に向つて下し賜うたものと拜察するのであります。言ふまでもなく、勅語は國民道德の大本であり、國民教育の本源であるのであります。此の教育勅語が明治二十三年十月三十日に御下賜になり、翌十一月二十五日を以て帝國議會が開會せられたのであります。之には深き大御心の存する所と承つて居りますが、即ち法律と道德との密接不離の關係を御垂示になつたものであります。即ち法律も亦道德に依つて其の宜しきを得らるゝ次第と存じます。是れ即ち憲法の實施に先んじて、國民道德の大本たる「教育勅語」を下し賜うた次第と拜察するのであります。何處までも我が建國精神たる道德立國の御精神にあらせられたものと拜するのであります。即ち我國に於ては、政治も、教育も、乃至宗教も、將た文藝も皆國民道德の上に立脚しなければならぬ。即ち教育勅語の大精神に則らねばならぬのであります。されば夫の地方官會議に於て齋藤内閣の力説せられた所の自力更生も畢竟するに、國民の精神更生に俟つべきでありまして、而して、精神更生は結局「教育勅語」の御精神を體得することに外ならぬのであります。

二、精神更生と國民教育、そこで我々教育者の今日執るべき道は頗る多岐多様であります。凡てが此の根源に出發して常に眼目を御聖旨の徹底に置きたいと思ふのであります。曩に文部省は勅語渙

發四十周年記念に際し、時の文部大臣の謹話を全國の各學校に頒たれましたが、其の中に斯様に申された所があります。「勅語は徳教に關する最善最美の御訓でありまして更に一語の加ふべきことも減すべきこともないのであります。斯かる善美を盡せる御訓の下に、四十年來教育せられた國民の中に、外來思想の誘惑があるとはいへ、多少たりとも國體國情と相容れざる如き思想を抱き淳風美俗を破壊するが如き行狀をなす者を生ずるに至つたのは何たることでありませうか。畢竟するに國民が勅語の御精神を奉體せんとする努力の猶ほ足らざるものがあつた爲であると思ひます。」と言はれて居ります。が誠に恐懼の至りであります。事實國民の全部とは言はぬが兎に角勅語の御精神を奉體せんとする努力の猶ほ足らざるものがあつた爲でありませう。これは吾人の深き反省を要すべき所と考へます。

三、教育勅語と敬神崇祖、偕て然らば勅語の御精神を如何にして徹底せしめんとするか。固より幾多の研究方を要することゝ存じますが、吾人の見る所に於ては、先づ勅語に對し奉る信念の涵養に着眼せんければならぬと思ひます。勅語に「斯ノ道ハ實ニ我ガ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ」と仰せられてあります。されば遺訓としての道德を奉體實行するもの誰れか、皇祖皇宗に對し奉る崇敬の信念なくして可なるべきでありませうか。即ち敬神崇祖の信念あつて始めて勅語の御精神の徹底を期すべきであります。されば我が國民道德の振興には祖先祭祀を尊重し、祖先崇敬の信念を涵養することに力め



ねばならぬのであります。茲に根柢を有せざる忠孝教育も、道德教育も我が國に於て何等の意義を爲すものでないのであります。それ故古來我が國勤王家の家庭教育の實際を調べて見ると何れも皆此の祖先崇敬を以て其の第一義として居ることが知られるのであります。今其の一例として吉田松陰が安政元年十二月野山の獄中より妹に寄せたるものの中に、「杉の家法松陰の生家に世の及びかたき美事あり、第一には先祖を尊び給ひ、第二には神明を崇め給ひ……是等の事吾みな兄弟の仰ぎ法るべき處なり。皆能心懸べし是れ即ち忠孝と申すものなり。」とありますが、之を見ても松陰の家庭が如何に敬神崇祖の信念に充たされて居つたか分るのであります。されば松陰が勤王の典型と稱へられるに至りましたのは決して偶然でないことが知られるのであります。又皇太后陛下が皇后陛下であらせらる頃（大正十三年）寛博士を沼津御用邸に御召になりまして「神なからの道」を講せしめられ、且其の御進講の全部を特別の装幀に作らしめて官國幣社に御寄贈あらせ給ひ、又廣く側近者に拜讀せしめ給ふやう御下賜相成りました御事柄は皇太后陛下が御自ら敬神崇祖の範を御示しに相成りましたものと拜察する次第であります。又最近今上陛下には二回に亘り鹿兒島縣の神代三陵に奉幣使を差遣遊ばされましたことは是れ全く、敬神崇祖の範を御自ら國民に垂れさせ給ふ深き大御心と拜察致す次第であります。さて勅語の大精神が皇祖先の御遺訓に發する以上、敬神崇祖の信念を外にして我が國民道德

の價值を認むることは出来ないのであります。然るに我が國、外教信者の一部に神社を宗教と判斷して直ちに、神社不參拜の問題を惹起することありしを新聞紙上などに於て屢々見るのであります。頗る遺憾の點であります。言ふまでもなく、我が國の神社は皇祖先を祭祀したるものか、又は國家に功勞ある特殊の人格者を祭祀したるもの等にして、全く國體的國家的信念、即ち忠孝道德の信念に立脚したものでありまして、本來道德的に成立して居るものであります。故に古來我が國の祭祀は大となく、小となく、總じて敬神崇祖、報本反始の趣旨に合致して居らぬものはないのであります。即ち我が國に於ては宗教宗派の如何に拘らず、齊しく崇敬尊仰の至誠を表すべきであります。寧ろ我が國民の本務と信すべきであります。されば教育勅語を本體とする所の國民教育が此の我が建國以來の尊き信念たる敬神崇祖を外にして國民教育の徹底すべき筈が毫末もないのであります。

四、信念涵養と家庭教育、古來、本立て道生ずと言ふ言葉がありますが、吾が建國精神たる敬神崇祖の確乎たる信念あつて始めて、勅語を下し賜うた明治大帝の大御心の尊さも、亦我が國體國家の善美なる所以も、亦従つて天恩國恩の廣大無邊なる所以も自ら了解し、自覺も得られることと考へます。併して此の信念涵養の道は固より國民教育全體に係る問題に相違ないのであります。家族制度の國柄から考へても、家庭教育に根本基調を置かねばならぬと存じます。此の見地からして私は嘗て農人



形の研究なる一書を書いたことがあります、其の要旨は家庭的に此の敬神崇祖の信念涵養を目標としたものであります。之れと關聯し私は佐藤信淵の語に感激を表するものであります、農政本論に言うて居る。「世人飲食スルヲ給ルト言フコトハ即チ皇大神ヨリ賜ノ義ナリ凡萬物豐熟スルハ總是皇大神ト大國主神ノ農事ヲ開基シ給ヒタル靈德ニ賴ルナリ世ニ飲食セザル人ナシ然レドモ能天恩ヲ知ル者ハ鮮シ可不畏敬哉。」と之を見て全く感激の外はないのであります。之を見て誰れか天恩國恩の尊き所以を感ぜざるものありませうか。よしや異端者たりとも此の事實を否定し得べきでないと思ひます。水戸烈公農人形の精神亦全く此の意義に外ならないのであります。更に茲に同一新事例を附記したいのは、最近婦女界（第四六卷第一號）に「官邸荒木陸相夫妻を訪ふ」記事中に、同陸相の日常生活を記して「朝大抵六時に起きて、大好きな竹刀を何十回となく振つて、それがすむとタハシで全身を真赤になるまで磨かれます。それから居間で奥様や御子様と一緒に食事に向はれます。食卓には徳川圀順公から贈られた、銅製の農人形が何時も置いてあつて、將軍は農人形の持つてゐる籠に、ご飯を少しのせてから頂いて食事につかれます。食事しながら、食物の有難さ、百姓の尊さをお子様方に説かれるのが普通です。」とあるのを見て、是又荒木陸相の天恩に對する感謝、將た又尊農愛民の優しき心情がうかゞはれ、且つは家庭教育國民教育の範が示されたやう思はれ深き感激を得た次第であります。

ます。一體教育と言ふものは本來が父母教師の感化影響に依るものでありまして、斯うした食卓の上から信念の教育、言ひ換へれば眞の魂の教育が行はれる譯であります。此の點に關して、大日本婦人協會が家庭を發行して家庭教育を鼓吹せられて居りますが吾人の深き贊意を表する所であります。想ふに、今日の世相國情から考へまして、國民教育上の缺陷は斯うして補はれて行かねばならぬと存じます。即ち敬虔報謝の信念や、天恩國恩の自覺が家庭から涵養されて行かねばならぬと存じます。要するに今日國民教育上の急務は「家庭に歸り」、「建國の大精神に歸つて」眞に國民精神の更生を圖るべきであると信するのであります。

## 經濟觀念と自覺

富山縣伏木商業學校長

青 木 與 吉

我が國青年男女の經濟觀念を如何にして向上せしむべきかといふ問題については自分は青少年に早くから經濟生活をなさしむることであると思ふのである。從來の教育は精神を涵養するとか智識を養成するとか色々努力を拂ふけれども其の精神とか智識とかは、謂ゆる机上の學問であり智識であり研



究であつて、徒らに理論に傾き實際に即しない場合が多いやうだ。經濟界の如き有機的のものに至つては總ての事柄が相關々係にあるので、机上の學問や切れ／＼の智識を得せしめたところで生きた經濟生活の了解されやう筈はない。學問が研究され智識の發達をはかることの必要なるは元より當然であるに相違ないが、同時に生きた經濟生活を事實上に體驗せしむることが、また大に須要なことである。

現在の我が青年男女の實際は如何少なくとも二十五六歳から三十歳以上にも達して、一家の主人となり家計を立て、行かなければならなくなるまでは、換言すれば親の一家經營に屬してゐる間は實際家計といふものについては何等の智識を有しない。假りに一家五人暮しの生計費は如何程を要すべきかそんな事は全然無智識だ自家の生計費は何程を要するか一切知らないお米や味噌の價さへ知らないのだ。如此青年男女が今一家を立て家計を營むとしたらどうであらう所謂いろはのいの階段から學ばなければなるまい。萬事がこの調子だ、一家の繁榮眞に覺東無からざるを得ない次第である。謂んや一町一縣一國等の公經濟に於ては堂々たる壯年者さへ果して其の幾何がよく理解し得るのであらうか。青年が少くとも自から屬する一家の收支財産に對して大體のことを知らないやうで、何んで經濟的精神の涵養が出來たといへやう。苟も人間が一人前に達するまでには自家の財産や收支の状態につ

して一通りの智識を有し日常生活上自己の經濟生活に關心を有して居て然るべきだ。

或は曰はん青年に早くより如此ことを知らしむれば青年の意氣が消沈して潑刺たる元氣と向上の勇氣を害ふことを憂ふと。

曰く然らずそんな元氣や意氣は自覺のない元氣覺醒のない意氣である、眞の元氣眞の意氣勇氣は自覺によつて始めて生ずるのだ。眞の奮闘も努力も自覺から生ずるのだ。謂ゆる空元氣空勇氣を養成するから輕佻浮薄の青年となり其の片手間に思想惡化の眞似事をするやうになるのだ。

自家の財産收支の状態や其の経路が知れ一家經營に對する親の苦心努力が充分に了解されば、それが或は親に對する敬愛の精神を喚起し感謝の心を惹起し一家の團樂祖先崇拜一家協力自己奮闘の基礎を益々鞏固にする。富者はこれを利用して國家公民的の自覺を促し、富者として國民の中堅としての責務と覺悟を固め愈々奮闘努力の精神を涵養し、貧者は發奮興起の勇氣を養はしめて自己向上に邁進せんとするの念を固くせしむるを得。昔から英雄豪傑が多く貧家より出でたのは自家の生活状態の不自目<sup>みじめ</sup>さに覺醒した青少年の自覺の發露でなくて何であらう。

よきにつけ悪しきにつけ自家の歴史現在の境遇は其の指導よろしきを得ば、富めるは益々人格の向上に貧しきは愈々發奮努力に彼等を導くことが出来る。彼等は最早試験の爲めの記憶や卒業證書の爲



めの勉強を捨て自己完成への修養として學ぶに至る。學習は一つ／＼血となり肉となるその活用や元より想像に難くない。

子供の時から錢遣ひの習慣をつけることは一般によくないと云はれる元より放漫な浪費生活の眞似は悪いにきまつてゐる。が併し一方から考へると子供の日々の小遣の經濟的遣ひ方に體驗せしめ獨創的遣ひ方をなさしむることは寧ろ經濟觀念の養成から云へば必要な事である。要は其の指導方法の如何である、指導よろしきを得ば寧ろ體驗の好機會といふべきだ。錢遣ひといへば何もかも罪惡であるかの如く考へ經濟觀念に疎い所謂昔の豪傑風を以て尊しとした教育は時代に適しない。子弟を非社會的人物非經濟的人間に導くものである。子弟が或年齢に達すれば其後は月給制度とし毎月一定の金錢を支給して子供自身一切の學費小遣等を支辨せしむる方法は面白い。其の收支計算を明瞭にせしめ一定の日には各子供に其の遣ひ方の良否を經濟的立場から説明もさせ批評もさせ、最後に之に適當な批判と指導を與ふることにすれば、其の監督よろしきを得父兄の指導的智識の如何によつては實に最良の指導法なりと愚考するものである。

最後に一言したいことは我邦では財産の多寡が、直ちに人格の上下を區別するものゝ如き考へ方の悪い癖があるが、人格は決して財産の有無によつて定まるものでないことを充分に了解せしめなければ

ばならぬ。紳士淑女とは金持や財産家の代表語ではない、性質も行も正しい氣品の高い人品格があつて、禮儀にあつい人のことである。貧者と雖も労働者と雖も紳士淑女として尊敬される丈けの人格者があり得るといふ考へ方を青少年に充分徹底せしめなければならぬ。従つて金持や財産家と雖も品格賤しく行正しからざる人は紳士淑女として遇せざるやうしたいものだ。

尙ほ所謂従來社會的に地位低きものと考へられてゐる種の労働者達が決して賤しいものでないといふこと、換言すれば社會構成上は各種各様の仕事を爲すものが必要であるのであつて、其の何れを缺いても社會組織運用上圓滑を得ないといふ事、要は自己の天分の十全を盡して己れの職業に眞心を捧げて働く人は眞に御國の爲め尊き人格者である。社會一般人は如此人に對しては衷心より感謝と尊敬の意を表すべき誠意を有しなければならぬことを青少年に心底より徹底せしむべきである。



## 現世相に鑑み滿天下の青年男女に 對して特に勤勞主義を提唱す

香川縣立九龜中學校教諭

秋 山 秀 治

眼を一度壽府に轉せんか、そこには虎視眈々、日支問題を俎上にして、今や鋭利なるメスを下さんとしてゐる。全世界の視聽は、壽府に傾注してゐる。果然一代の風雲兒、松岡全權の巨彈は放たれて、聯盟及び支那代表を墜若たらしめた。然し晴か雨か、正に嵐の前の静けさだ。勿論豫斷は許されない。

更に眼を轉じて我が國內を熟視せよ。そこには思想、經濟の二大問題は互に纏綿して、一大波瀾を捲き起し、國民生活は爲に脅かされ、呻吟懊惱してゐる。加之世態人情は、今尙ほ輕佻浮薄にして、一攫千金を夢み、質實剛健の氣象は、蕩然として地を拂はんとしてゐる。而して滿天下の青年は如何。是等の憂ふべき世相の反映からして、往時の如き潑刺たる生氣を缺き、知識に偏して意志弱く、體力も亦薄弱、眞に寒心に堪へざるものがある。抑も老年は過去に生き、青年は未來に生きる。其故國家の

興亡隆替は、一に其の國の青年の志氣如何に在ると思ふ。青年の使命重且つ大と謂はねばならぬ。

之を要するに、即今の我が國の現狀は洵に累卵の危に直面してゐるのである。此の國歩艱難の千歳時に處する方法は、勿論一にして足らぬ。或は自力更生も必要であらう。或は自給自足も肝要だらう。が、其の根本精神を涵養する點に於て予は、未來ある青年の生活に對して、特に勤勞主義を提唱するものである。由來勤勞主義が、實際教育に唱道せられてから、多くの歳月を閲したが、唯理論としての存在のみで、效果方面の影響は微々たるものであつたやうだ。今尙ほ一般青年が、勤勞を厭うて、安きに走る傾向あるは、明に其の實證ともいへよう。青年が、かゝる考だから失業群の大洪水は、連年加速度を以て増加してゐるのである。即ち吾人は、現世の痛ましい失業難の救済にも勤勞主義を絶叫して息まないのである。

さて、予の提唱する勤勞主義とは何ぞ。其の内包本質を先づ闡明して、問題の多岐に渡る事を避けよう。予の勤勞主義は、主として身體方面に關するもので、極言せば、筋肉勞働を進んでなさしめるに在る。從來の讀書知識に偏して、實行力の缺けた青年生活を一新して、實行生活をなさしめるに在る。從來の靜教育を動教育にするに在る。即ち彼等青年の身體筋肉を靜的に置かずして、機會ある毎に勤勞させるに在る。額に汗せしめ、否、汗の生活をさせるに在る。而して青年生活中此の勤勞主義



に觸れるものは、例へば園藝、手工、耕作、掃除、家業の手助、體育運動、武道、教練等々である。教育といふ實際が、かゝる機會を利用して、其の實行を誘導せば、青年は自然に深い關心と興趣とを持つやうになる。結局勤勞主義は實行主義に歸着する事になる。我が九千萬の同胞が其の精神生活の基調に、此の實行主義があれば期せずして國力の充實を圖る事が出來よう。偉大なる哉勤勞。

予は次に、勤勞主義の効果を列擧せねばならぬ。

第一、勤勞主義は、精神上特に感情意志の陶冶をなし、兼ねて其の勤勞作業に對する正確な知見を養ふ。

例者一畦の荒地開拓にも、或は一家の掃除整頓にも、或は狭小なる園藝勞作にも、汗なくては出來ぬ。即ち筋肉上の勞苦、骨折が必ず伴ふのである。是等の筋肉上の勞苦は、心身相關の理に依つて、強き意志陶冶には、恰好の試練である。廓大して言へば、勤勞より來る勞苦は、人生の縮圖である。現今の青年學徒の弊として、困苦に遭遇すると、挫折し易い傾向のあるのは、畢竟、強意志がない爲である。勤勞は、常に強意志の陶冶のみでなく、感情陶冶に資する事も大である。即ち一つの勞作が完成した時の快感は、それはやつた者のみが、味ひうる天の美祿であらう。此の快感は、車輪の油の如き役割をなす。勤勞より來る苦痛は、一步步々完成の曙光の見える快感によつて、慰樂されて圓滑に

其の勞作は續行せられるのである。ツマリ情意は、互に因果關係をなし、以て相對的に陶冶せられる。貴重なる體驗哉。尙ほ勤勞は、一勞作に對して、組織的に正確なる知見を養ひうるのである。此の知見も亦、やつた者のみの主觀に在るので、到底其の情景を表現する事は出來ぬ。

第二、勤勞主義は、身體を鍛鍊す。

即ち勤勞作業に依つて、消化力増進、血行旺盛、従つて氣分は、何時も爽快。この爽快の心境は、人生への活動の一大資格でなければならぬ。此の心境は、聽て樂天、光明境へと、急角度を以て展開せられて行く。此の生々發展の傾向は、陰慘を光明化し、消極を積極化し、厭世を樂天化し、保守を進取化し、懷疑を明朗化しなければ止まぬ。現下の青年學徒の身體を見よ。體育運動によつて、調和的發達は、或る程度迄、出來てゐるとは言へ、之を昔日の青年のそれに比すれば、必ずしも樂觀出來ないと思ふ。といふのは、彼等の體力の、貧弱さをいふのである。其の體力を計る尺度とも言ふべき登山、旅行、遠足、行軍等に於て如何、其の耐久力、頑張性のなきに、呆然たる事がある。個人間の競争も、民族間のそれも、結局は體力如何に依つて、勝敗は決するのである。そこで予は強く叫びたい、青年の體力増進にも、延いて國民體力向上にも勤勞を。

第三、勤勞は、其の人格を穩健、着實ならしめ、且つ感謝報恩の念を養ふ。

現世相に鑑み滿天下の青年男女に對して特に勤勞主義を提唱す



一輪の花を咲かせるにも、又一株の野菜を作るにも、そこには自己のみの味ひうる貴い體驗がある。此の體驗は、萬卷の書物よりも貴い。所謂天地人三才の協同作業の結果である。想へば天地に對する感謝の念が、湧くを禁じ得ない。即ち宇宙の大造營に、少くとも參加し得た勝者の喜悅である。感謝である。此の無上の感謝喜悅の念に浸つた者は、徒に空理空論に走る事が出来ぬ。理論を述べる前に、之が實行をせねばならぬ。其の心境が、自然に穩健着實の人格を形成するのである。かゝる貴い心境から世の中を覗いて見よ。そこには、青い顔して徒に書籍堆裡に埋まれ、空漠なる論理の爲に、精神が消耗されて行く、憐むべき知識群の多い事よ。赤い思想に我觸れるのも一は、かゝる根柢なき知識群の中から生れるのである。彼等知識群よ。御身等は、先づ其の抱持せる空漠なる論理に、耽溺する前に、一度は世の實際に推し當て、考察する事を忘れ給ふな。そして先づ、御身等の青い顔を赤銅色にせられよ。それには予は、勤勞を大に勧めるのだ。諸君の生活環境から、勤勞を見出して喜んで全身に汗し給へ。そして自己の頭腦から尊い父母の恩愛を忘れ給ふな。そして自己の境遇に對して、感謝報恩の念を持ち給へ。書物を読み、先生から理論を聞くのみが、決して學問でないのだ。その理論を實際に應用する事が、聽て諸君の知識を、確實化する所以である。

第四、勤勞主義は、責任觀念を養成す。

勤勞に依つて、鍛鍊せられた心は、責任を決して回避する事が出来ない。何者、仕事の一過程を完成せねばならぬ強意志あり、又其仕事に、非常な關心と興味とを、自覺してゐるからだ。一度責任感が、頭腦に閃くや、猛然として邁進するのである。更に責任だから等いふ消極的態度でなく、立派に完成しようといふ積極的態度に出る一事である。此の態度は、勤勞から來る天來の賜物と斷じてよい。要するに勤勞主義の効果は、其の精神生活上、特に情意を陶冶し、兼ねて正確なる知見培養に資し、進んでは、體力を充實させる。體力充實の結果は精神に響いて、心氣を爽快ならしむ。此等心身の陶冶からして、延いて、其の人格を着實穩健ならしめ、結局、感謝報恩の境地に導くに至る。尙ほ責任觀念の養成せられるのは、言を俟たない。偉なる哉大なる哉勤勞。

予は進んで、上來述べた勤勞の主旨と効果とに基いて其の方法を論及しよう。今青年の生活環境を家庭、社會、學校の三生活に分類する。

#### 第一、家庭生活

寢具の使用、片付、書齋の整理整頓、自己の衣服の整頓、室内外の掃除、弟妹の世話、家庭園藝、蔬菜手入、家業の手助等。要するに學業の傍ら、かゝる勞作に従事させるのである。勿論父兄は率先して示範し、不知不識の裡に勤勞に馴染ませるのである。



## 第二、社會生活

一一〇

◇通學なども、成るべく徒歩主義によるべき事。勿論文化文明に逆行する事は不可能ではあるが、一週火木土の三日位は、往復共徒歩によつて、其の心身を鍛錬するのである。今日青年の徒歩能力の減退は、實に慨嘆に堪へぬものがある。

◇荷車の困難に對しても、或は老人の負載者に對しても、勞力奉仕の美風を養ひたい。

◇道路の小修繕等々。

### 第三、學校生活

園藝、蔬菜、手工、掃除、體育、運動、武道、遠足、登山、旅行、教練、行軍、演習、等々。

以上舉ぐる三生活に於て、努めて勤勞に親しませるに在る。それには父兄教師は勿論率先して、汗をかゝねばならぬ。それは指導上唯一の良方法である。

以上の趣旨と方法とで陶冶せられた青年は、既に人としての試練を経たもので、其の上、知識の修練もあれば、茲に國家を背負うて、立つに足る有望なる未來の國民となる譯である。現下盛に唱道せられてゐる自力更生の精神も、其の根本は、此の勤勞精神によつて、養はれるのである。我が九千萬の同胞が、此の精神で各自の任務に最善を盡し、然して國民といふ點で、渾然一體となつて、内外に

纏綿せる難問に當れば、又を迎へずして、解決出來はしまいか。又さうする事が、日本國民としての最大使命でなからうか。刻々に壽府から、東洋の一角、茲皇國に報道せられつゝある樽俎折衝の光明ある轉廻も、要するに、九千萬國民の熱烈なる精神的後援の響きなのである。其の熱烈なる國民精神も、一面には勤勞主義から涵養せられるものと確信する者の一人である。時事に感ずる餘り、茲に勤勞主義を提唱した所以である。

## 農村更生策

三重縣立名賀農學校長

谷本龜次郎

農業の不振、農村經濟の窮迫今日より甚しきはなし、痛ましき農民生活の現状は實に泣かんと欲して泣く能はず涙涸れ根力竭きんとするの狀態にあるを奈何せん。

この疲弊せる現下の農村に新局面を開せんが爲に採るべき手段方策は政治的、社會的、經濟的に種々あれども畢竟農民自身が覺醒して農村生活の改善を計るので無くては如何なる施設對策も何等の效を奏しないのである。



憂ふべきは農村の衰頹よりも寧ろ一般農民の不況非常時に對する自覺と對策に積極的眞劍の意氣の存せざることである、好景氣の儲かる時には他から勵まされなくても緊張して働くが一朝不況のどん底となり、働いても儲らぬ時は自墮落になり勝で働いても食へぬから借金踏み倒し遣れるまで遣つて居るといふ態度の現はれるのを恐るゝのである、之が爲に事態は益々深刻化して極度の窮乏に陥り農村生活の不安動搖は延いて思想悪化し、眞に憂慮に堪へざる情勢を惹起しつゝあるのである。實に我國刻下の現状は種々の點に於て所謂國難に遭遇して居る、宜しく國民上下此に自覺し舉つて誠實細心に事に當らずば他の大國と伍して發展の途に突進することは彌々困難である。斯る國情にあつては先づ力を用ふべきは何と云つても教育である、而も實業に従事する青年の教育に重きを置かねばならぬ、廻り遠い様ではあるが現在の疲弊困憊を根本的に救済し進んで我國をして世界の優國たらしむる爲には何を措いても教育の力に委嘱せなければならぬ、時局の匡救更生一新の爲には必要な條件は色々あるが特に實業に従事する青年に對しては職業的自覺、理想信念の樹立、眞劍の努力を以て事に當り獨創的に考へ工夫を凝らし働かしむるを以て最も急務とするのである、故に先づ根本から農業の經營を詮索して見る、第一、

#### 農業者の立志

である、人は最初職業を選ぶには自己に最も適當なるを取らねばならぬが、日本の農家の經營組織に於ては、どうしても長男は家業を踏襲しなければ都合の悪い事情にある、これは日本の農業の特質の一つで止を得ぬことではあるが、又一面累代の家業であるから幼少な時から始終業務に接觸して居る爲に多少の親しみもあり、知識もあり、自然にそれに習熟し易い事情もある、かく趣味や能力の適否といふよりも、餘儀なくされる場合もあらうが、よし多少は不適當らしく思はれても種々の事情が轉業を許さず祖先代々からこの業務によつて社會の恩恵に浴して來つたことを思ひ奮つてそれに當り、我力を鍛鍊して行くのも又面白いことである、徒らに困難を見て避けるよりは進んでそれに當る方が却つて勇氣を生じ成功を易からしむるものである、『損得は業にあらず人にあり』で、大に研究して我家業の改善を圖り、社會國家の進歩に貢献しやうと努むることこそ眞に意義ある尊い人生であると信する、勿論家業を踏襲したる以上は、それを畢生の事業と心得、それに全知全能力を打込む覺悟は無くてはならぬ、何れの職業でもそれに就いて見れば必ず多少の苦痛困難は伴ふものである、其困難、苦痛、利不利の點は即ち改良の工夫を要する點で其改善を行ふことこそ自己の幸福は勿論、國家社會の全活動の上にも必ず福利を貢獻するもので事業成功の秘訣はそこにあるのである。次で人生觀を確立し



## 理想信念の樹立

一一四

に努むること、人は凡て常に自己を批判する力が無くてはならぬ、自己を批判するとは自分のして居る事が果して理想に合つて居るか居ないかを考へることである、それには批判の本たるべき理想が必要である、常に現在の仕事から一步進んだ見地からして我仕事を批判することに依つて我仕事の價値が判然と分り、そして不斷それを進め高めることが出来るのである。現時我が農業者に通じた一般的傾向は只現在の仕事に力を用ふることを知つて何等高い理想や信念を有しない事である。然し斯の如くでは農業そのものゝ地位も眞の意義に於ては高められず、農業者の地位も福利も亦それと共に高まり難い。斯る情勢であるからこの農業界に身を投すべき青年が何等理想的のことを考へ到らないのは遺憾である、理想の無い人間は雑草と同様であるから總て人は現實の事實以外に高い指導的理想を持たなくてはならぬ、農業に従事するものとしては其業務を完全に發達させて國家社會に對する任務を完ふするのが理想で無くてはならぬ。農業の合理的經營として我家を富まし農村を住みよくし國民の福利を増進せしむる爲に我國土が生産し得る最上限を生産せしめる様に心懸けることである、この理想を根本に之が實現に對する堅固なる信念を持つて一步步追求的活動を爲すことが眞に農業者としての任務であり、又生甲斐ある人生である、現在の仕事のみを没頭して其仕事を人並に實行するのは因

より悪いことでは無いが、そのみにては畢竟普通の農業者であり、其農業を一步進めて理想に近づけることは困難である、現代の人々の理想は總て金を儲けるにある様に思つて居るのは正しい考へと云ふことは出来ぬ。農業の目的は農業其物の社會に對する役目を完全に達するにある、農業者の理想は我國の農業をして其最大機能を發揮せしむるにある、それが出来れば立派な農業者である、其結果金も儲からう、人から信用も受けやう、地位も高まるであらう、然しそれは結果であり目的で無い、この目的と結果とを混同すると種々な不幸が生ずる、或は農家でありながら投機事業に手を出したり土地を賣つて株券を買つたりする、農業の目的と全然相反する方面に心が動いて遂に家産を蕩盡して仕舞ふ其傷ましい例證は近來の農家に澤山ある。理想なき農業の何時迄經つても發展しないこと農村に於ける舊家名門の没落して行く世相は實に痛ましい近來の現象である。この理想實現の方便物である金錢を餘りに過重視して人生の目的を誤るものは、例へば甘い柿を食ふのが目的で之が摘採用の竹竿の必要を求めて其竹竿集めに一生を没頭して遂に甘い柿一つ食はずに死んで行くのと同様である、無意義な人生と謂はねばならぬ、次には

## 眞劍生活と努力

の必要である、現今の農業者は眞劍味を缺いて居る、人は現在の時、現在の仕事以外に別によい仕事



があると思ふ間は眞の堅實な進歩は出来ない、近來農村の青年の多くは我業務を畢生の仕事と思はないから氣が散り勝になり業務に對して全力を注ぐことが出来ず、従つて趣味もなく能率も上らず結局敗殘の途を辿らなければならぬことになるのである。世の常識あり判斷力もあり又相當に執務の技術能力は有りながら終に何の仕事にも成功せず一生を不遇の間に過すものあるは全くこの眞劍の努力を缺くからである、此に一つの挿話がある。

昔ある高原に二人の子供が居た、一人は羊の番をしながら暇があれば靴下を編んで居る、一人は唯俯向で地上を見て何か知ら探し廻つて居る、それは傳説にあるキーフラワー（鏈花）を探して居るのである『昔この邊に大きな花が咲いて居た、一人の人がそれを見付けて摘んだれば其處に大きな穴があつて中に這入つて見ると金銀珠玉が充滿して居たと』それを今もあるかと一生懸命に探し廻つて居るのであるが遂に見當らないで奔命に疲れて仕舞つた、それに引きかへ羊番する子がそんな花を探す代りに暇さへあれば靴下を作り、それで得た手間賃で冬になると學校へ行き勉強して年一年相當に地位と信用とを高めて行つたと、これが誠のキーフラワーではあるまいか。

眞劍になれないのは自分が農業に興味が無いからだとか、又努力しても農業は儲からないから眞劍になれない等いふ人もあるが、それは原因と結果とを轉倒して居る、眞劍になれば農業に興味も出来

趣味が出来れば努力する、随つて農業の利益が見つかるといふことに成るのである。次は日本農業の特質を知ることである。

#### 日本農業の特質

近代の經濟は資本主義で何物も資本に征服せらるゝ生産制度である、工業の如く機械的大量生産を以て有利とし延いて國家の爲め人類の爲にも最大の幸福なりとするものであるが、農業の生産物は機械では生産されない、最も機械によつて生産を助勢することは出来るが局限されて居る、工業の如く生命の無い原料を以て精巧なる機械により多量生産を行ふ事業とは全然生産の根本原理を異にする、例へば工業には一方に木材を投込めば他方へ新聞と成つて出て来るやうな生産が行はれるが、農業に於ては如何に科學が進歩しても一方に種子と肥料とを投入して他方に菜や大根と成つて轉げ出すやうな生産は行へない、近來農業の機械化など、云へども機械の應用せらるゝは生産行程の一部であつて生産の主要部は機械にかゝらない、卵は機械で孵化されるが卵其物は機械で作れない、殊に我國の農業は世界に類例の無い程集約なる經營法であるから、機械農具の利用範圍は極めて局限されて居る。又我國の農業は止を得ざる種々の事情によつて機械的大經營、即ち資本主義的大經營を行ふ條件を缺いて居る。何處までも勤勞主義の家族經營を集約なる小農組織を以て本態とするのである。



我國の農業組織は封建制度の下に於て自給自足の經濟によつて生活し來つたのであるが、明治維新の改革と共に資本主義經濟の渦中に投せられ、交換經濟の生活を營むことに成つた、従つて農業經營は販賣を目的とする商品を生産し、必要品は購入する形式に變化した、それが爲に生産と消費とが不可分的に結合されて居たものが生産經濟と消費經濟が分離し、右で儲けて左で買へばよいと云ふ經濟になつた。同時に總ての商品の販路が農村へ擴大され地方人の慾望を刺戟し消費を無限に増長せしむる制度と成つた。其結果農家の自製自給品は一方から商家の持込む商品の爲に驅逐せられ商工業者の手に移つたのみならず農家をして自給經濟を抛棄せしむるに至つた、例へば養蠶最盛地方にては野菜まで買つて用ひ、養蠶に精勵して収入を増せば差引それが利益であると考へさせるやうに成つた。即ち農村生活が都會式と成つたのである。支出の増加に應じて収入を増加し得る事業は交換經濟が便利である。然るに我國の農業は生産の第一資源である土地の制限により収入増加に大なる制限を受け殊に農業が資本主義經濟に行はれない關係上、消費に於て資本主義經濟型に入り不合理な經濟生活となり此に農村生活の困難を生ずる主因を來したのである。

故に日本農業の特質を知らざる識者の多くは此資本主義にあらざる我農業をして、全然見込なきものとし、斯る小農組織は當業者に不利なるのみならず國家の爲にも有利でないから、營利事業として

營み得る處の大農組織即ち資本主義的大經營を取らねばならぬと論ずる者もある、そは大なる間違ひである。第一、我農業を大農に變更することは不可能なるのみならず、この集約なる小農組織の爲に年次増殖する多數の國民を抱擁する力を有し、國家獨立の爲に實に有用であるのみならず、第二、世界の趨勢は人々の増殖と耕地並に文化の關係よりして農業の粗放的大經營は次第に分割され、結局は日本の如き小規模の集約經營に進まんとしつゝあるので、英國の如き大農制を取りたるが爲めに富力強大となりたる時代は既に過ぎ去らんとしつゝあるので、故に我國の農業特質を尊重し、保護して以て營業的農業として價值あらしむると共に國家富強の根柢とならしめねばならぬ、此が即ち改善の根本策にして一言にして盡さば、我農家の大同團結産業組合の力によつて資本主義經濟に對抗し大農同様の利益を擧ぐること努むるのである、其道程として現在の行詰りを打開する爲に他動的には政治と教育によつて調節救済し自動的には一は農家個々の經營の改善即ち合理的經營によること、一は農家の共同組合による生産販賣の統制より金融經濟の自給自足を計ること及び農家の消費生活に於て極力自給自足を計り現金支出を減少して一家經濟の獨立を期することである、之を要するに

### 結 論

として我農業更生一新の根柢は外は政治と教育の力により、内は共同組合及び其連合の力により、資



本主義對策と自治經濟の實行である日本の農業々態を此儘にして發展せしめんとするには、國家の農業政策に訴へねばならぬことが澤山にある、それが爲には何と云つても農民が政治的に自覺することである、現在の國家政策に關する農業諸政策が無いでは無いが吾人が望むやうな有力なものはない、經濟政策にせよ社會政策にせよ、何れも資本家中心の政策であり都會本位の政策であつて、農業方面はお座成り表面的で内容不十分で有力なるものが無い、事實は百の言論よりも今日の農業行詰りは之を證明して居る。從來の國家政策は萬事資本主義は商工主義となり、都市偏重の政策が公然と行はれて居た、翻つて現在の行詰れる農村に於て疲弊の癆と成つて居るものは農家の負債と過重負擔とである。この負債の整理は政府の援によつて農村農家の自力更生手段たる農家多數の共同連帶を以て金融界に信用を博し得る組合を組織して年賦償却法を講ずることが唯一の整理法であると思ふ、かくて中小農の負債償還の途が開かれ荷重負擔を公平に整理せらるゝに至らば、農村の金融經濟は自然に改善され農業の行詰りは此に緩和を見るに至るであらう。要するにこれ等は懸つて一に農民の政治的自覺にありと信するのである、農業に理解ある代表を議會に送ることである、次で農家自體組合の力によつて農業の經營と其生産販賣を統制し、農業の根本を更めて經營を營利化し併せて生活を自給化し其範圍に於て農業を藝術化することである、農家の共同組合によつて全日本の農家が打てば響くやうな

統一が出来たならば、從來の暗礁を打開して萬事を解決し光輝ある理想の新興農村を現出せしむることが出来るのである、今や漸次に其氣運が進んで居る自力更生運動によつて農家の覺醒に拍車をかけ、更新せる農業教育によつて根本的改善を促進する時は必ず近き將來に於て理想を實現せしむることの不可能ならざるを確く信するものである。

### 思想經濟國難打開の基礎的要件

東京府立高等家政女學校長

清水 福市

現今我が國は諸般の方面に行詰を來し誠に憂ふべき世相を演出してゐる。世人はこの現象を國難と叫んでゐる。即ち曰く思想國難、曰く經濟國難、曰く國際國難、曰く政治國難等々である。就中思想國難と經濟國難とはその最たるものであつて、我等國民たる者がこの國難來を如何にして打開すべきか、如何にして匡救すべきかは焦眉の急を要する問題である。國民教育の任に當る者、乃至指導階級に在る者は、以上の二大國難の打開匡救については相當研究を積んで、以て子弟の教養國民の指導に資せねばならぬ。



思想國難といひ經濟國難といふも、これは個々別々の對立的の事實ではなく、其の因つて來る所は一體不離と見るべきものである。即ち一つの原因より相生したる二つの現象に外ならないのである。私はこの國難來は我が國民の國家的信念の確立せざると、國民的生活の眞理を理解せざるとにあると思ふ。今日思想問題や經濟問題の八ヶましくなつた原因は一朝一夕のものではない。又偶發的に捲き起つた一時的風潮でもない。これは我が明治初年以來諸外國より輸入した西洋文化の弊、即ち物質文化の不消化輸入の弊に因るのではないかと思ふ。

彼の所謂黃金萬能・個人主義・享樂主義の物質文化は、十八世紀の末より十九世紀を通して非常に盛んであつた。その歐米の文化を一も二もなく無批判に取入れた所の我が國の文化所謂新日本文化は、我が國傳統の日本精神の美點を蔽ふて物質文化としてのさばり出たのである。今やこの物質文化の餘弊には、世界列國も惱みぬいてゐる。従つて我が國も同じくその餘弊に苦煩しつゝ在るのは當然のことである。何故に我が國が維新以來急速に西洋の物質文化を取入れねばならなかつたか、又何故に我が國本來の國民精神の影を薄からしめたかは、徳川時代の鎖國主義によつて我が國の物質的文化の程度が、西洋文化のそれに比して著しく遅れてゐたからの結果である。

維新以前に於ても我が精神文化は全く没却して居つたわけではない。相當に發達はして居つたが、

東海の孤島に門を閉ぢて太平を夢みて居つた我が國は、物質的の文化に於ては歐米に比して大に遜色があつたために、開國と共に廣く知識を世界に求むるに急なるのあまり、一も西洋二も西洋と、茲に西洋文化の模倣時代が現出したのである。模倣は進化の一階段であるから、模倣必ずしも悪いことではないが、それが餘りに急であつたために、我が國の舊來の文化を再認識する暇がなく、批判的に採長補短の實績を擧げるといふ様な慎重な研究的態度がとれなかつたのである。恰も一國の國民文化を研究中堅識者を養成すべき最高學府の大學が、方便的たるべき西洋文化の傳習に没頭し、今日尙それ以上に出ることが出来ないが如き奇現象を來したのである。

物質文化の傳來と共に思想方面も續々流れ込んで來て、輕卒にも本來輕重を誤るが如き所謂思想家も輩出し、國民生活も内外多事多端となり、經濟上にも不安を來し、従つて不穩の舉動をなす者なども續出する様になつた。爲政者を初め一般識者は幾多の施設をなしてこれが善導匡救を圖り、官憲は法網を嚴にして取締るけれども尙且不心得者の續出を見る様な、誠に慨嘆すべき情勢となつたのである。

茲に於て吾人はこの行詰れる經濟界、混沌たる思想界を如何に打開匡救すべきかを講究して之を實施することが重大な問題であつて、速に青年子女を誘掖して之を正道に導き、國家百年の國策を樹立



しなければならぬ。それが方法施設の根本基調となるべきものは、我等は大日本帝國の國民である。我は日本人であるといふ認識を明瞭に持たしむるに在る。即ち國家的精神を確立すること及び團體生活の眞理を明確に持たしめることに在ると信ずる。謳化主義に陥し物質文化に陶醉せる我が國民の迷ひを覺まし、個人主義享樂主義の中毒に悩む者を匡救して、我が國民精神を作興し、本然の國家觀念に甦らせなければならぬ。換言すれば外國模倣乃至外國崇拜に終始した過去の弊風を根本的に打開し、國民道德を先にして功利を後にし、物質に先立つに精神を以てし、正道を踏んで大義を行ふといふ我が國固有の日本精神に復活更生するといふことが何よりも今日の急務である。斯くの如くして我が國民の頭に偉大なる強き精神力が育成されるのである。これによりて眞の自力更生が出来るのである。今日は日本精神の再建設期である。従つて經濟的方面も自國に於て健全に發達を遂げさせねばならぬ。徒らに舶來物にたよるべき時期ではない。我が産業界は外國經濟の盛衰によつて左右される様になつてはならぬ。寧ろ諸外國をリードする様にならねばならぬ。これが今日行詰つた時局即ち思想國難經濟國難を打開匡救すべき根本條件である。

この目的を達成する爲めに我が青年子女に對して、我が建國の大精神に甦るべき教育方策をなすことが肝要である。この建國の大精神が國民の頭に甦生され、國體觀念が徹底したならば、思想國難も

起らず、又經濟國難も生じないのである。建國の大精神とは何か、これは皇祖の神勅を初め歴代天皇の詔勅等に現はれた大理想大精神である。神代に在りては我が民族の始祖諸冊二尊の御理想『漂へる國を造り固めなせ』と仰せられた神告である。即ちこの宣言は混沌たる所から堅實なる理想郷を現出せよ。日本人としての眞の事業を打立てよといふ御理想を御示しになつたのである。又神武天皇の御東征の御宣言中にも『天業を恢弘し天下に光宅せん』と仰せられてゐる。天業とは天意を奉じ我々人類文化の中心として營む所の業であつて、今日の所謂精神文化の建設である。即ち我が國建國の基礎は我が日本民族の精神文化の建設にあつて、而も之を恢弘して天下に光宅せんと仰せられたのは、單に我が國內のみに限らず、之を普く全世界に擴充して、全人類の文化を高上し、幸福を増進せしめて全世界に我等日本民族の手に依つて、眞に平和なる殿堂、高尚なる樂園を現實に地上に建立せよと申されるのが神武天皇の大理想であり、大期待であらせられると拜察する。

我が指導階級に在る者は、この建國精神を青年子女に認識せしめて、以て國民的信念國家的觀念を確立せしめることが、今日の思想國難經濟國難の苦悶を打開匡救するの根本策であると信ずるのである。

偕てその建國精神が國民に理解されたならば、そこに徒らに他國の模倣に依らずして、自ら日本人



として自力更生するの途が展開されるのは必然的のことである。精神の内部に扶植された熱烈なる國家的信念は、向ふ所敵なしで、一度發願せばそこに融けねば已まぬ鐵石心が起り、我等日本人の力で難局を打開し、新日本を創設せんとする意氣と力が迸り出るのである。永久性を持った眞の自力更生は、此の底のものでなくてはならぬ。こうなれば我等の腕の續かん限り、正義人道に向つて邁進し、この萬古不易の皇室中心皇猷扶翼の大道に向つて、舉國一致してどこまでも自力で行くといふ氣魄を以て進むやうになるのである。今日の青年子女にこの意氣この氣魄を惹起せしめ大國民としての矜持の態度を養ふことが、現下の思想國難經濟國難を打開し得て、且それが國家永遠の發展策の基礎條件を爲すものと信ずるのである。

## 如何にして向上すべきか

宮崎縣立小林中學校校長

石川重一郎

### 一、先づ隗よりはじめよ

一番樂で月給が貰へるといふ考から教員になつたとすれば、此の考から自力更生しなければならぬ

い。ゆるんだ禪は自分で緊め直すのであつて女房にさへも緊め直さす譯にはゆかない。今最も緊急事だと考へて先づ隗より始めなければならぬと思ふ事柄を申述べることとする。

### 二、何といふても働くより外はない

昔から稼ぐに追ひつく貧乏なしといふが、永遠の眞理である。先づ馬鹿になつて働くこと、働けば自然に職業になる。稼がうにも職がないといふが、職は人を待つてゐるものではない。職は人が働いて作るものである。序にいふが馬鹿になつて働くの馬鹿が大切なものである。馬鹿にもなり得ることが學問の一賜物でもあるからである。尙昔から言はれてゐる一語がある。一錢を笑ふものは一錢に泣かされる、と。一錢に感謝して、何はともあれ働かなければ嘘である。人間とは働くことである。死とは働かなくてもよいことである。

### 三、働くなら君國の爲に

認識不足といふことが流行する。自己の認識不足を更に自分が認識不足である者位御し難いものは世の中にない。例外は本體でない。働くことが人間で、而して働くことが職業である。職業には貢獻性が含まれてゐる。家族の爲に、郷土の爲に、君國の爲に。日本人が日本の君國の爲に働くことは宇内の公理で自明の原理である。天下の自然である。天を仰いで唾すれば、天を汚さずして己れの面を

如何にして向上すべきか



汚す。天は高きに居て卑きを聴くとやら。日本人よ、君國の爲に働かう。自然はやがて働くものに幸ひするであらう。死は鴻毛よりも軽く、義は泰山よりも重い。水は低きに流れて落付く處に落付くより外にはない。自然は逆流を決して許さない。も一度いふ。日本人よ、歐米人は別、日本人よ、日本の君國の爲に働かう。刻々、歳々、實に日本三千年の歴史は之れである。稱して日本魂といふ。日本魂は日本の君國の爲に働くものである。

#### 四、然し井底の痴蛙何をか言はん

世の中は一人ではない。十九億人居る。十九億人があらん限りの知慧を絞つて、競争して、生存競争して、文化を産んでゐる。日進月歩といふ。遅れざらんことを冀ふは勿論である。が更に之れを大觀し、達觀し、大局を失はない様にするには生命である。若し夫れ加ふるに認識不足の認識不足でもあるならば尙更である。大體行詰りはここに胚胎する。

#### 五、向上、向上、向上の精神のみ

向上に對して下向がある。事毎に向上するもの、事毎に下向するものの差等を考へると長年月の間には著しい譯である。よきを見習ふのと悪しきを見習ふのとでは差が二倍になる。ここに氣付くならば將來恐るべき結果が出来る。善きも悪きも、そこで問題は向上の精神の一路あるのみといふことになる。

なる。

#### 六、豫算生活が出来なければ

よい加減の目算では今後はためである。不況の折柄でなくても經濟生活は人間生活の重要點を形成するので、今迄は目算位でよかつたけれども、今後は豫算生活が出来なければ社會の落伍者となるのである。理窟の外に道理があることもあるが、之れは理窟の中に道理が含まれてゐて、年一年と其の必要が切迫してゐる。

#### 七、生活程度の伸縮が出来なければ

生活資料の収入は常に一定してゐるものではない。假りに一定してゐても其の眞の價値は變化してゐるのである。此の所に氣が付かなくては身の破滅はもとより、國家の將來に關する。

一體人間生活の情性は強い傾向がある。而して一時の體面や、欲望で生活を糊塗しても、其の習性は次々に残つて堆積する。此の堆積の習性の下敷となつて喘ぐ生活を廢さねばならない意味が之れである。名づけて生活程度の伸縮といふ。此の伸縮が出来なければいけない。

#### 八、奉仕の生活に入らなければ

本務から犠牲へ。犠牲も自分から進んでやる犠牲である。之れが奉仕である、人間生活は元元奉仕



であるのであつて、知慧の實を吐き出さねばならないのである。修養とは此の知慧の實を吐き出すことにもなる。

#### 九、禮儀の生活に入らなければ

禮儀といふても頭をペコペコ下げることではない。爲さねばならないことが數限りなくあるが、之の爲さねばならないことを爲すのが禮儀である。此の爲さねばならないことを爲さないのは禮儀を辨へないものである。それで禮儀を辨へないものは横着者にもなるし、不精者にもなるのである。此の横着者や不精者即ち禮儀を辨へないものは今後の社會から自然にはみ出されるのであらうと思ふ。

#### 十、盛んに誘惑と戦へ

善を爲すことは其の障害と闘ふことである。惡戰苦闘といふが人生は其の戰場である。戰場へ出たならば勝たねばならない。林中の賊に打勝つと同時に、心中の賊を撃破せねばならない。撃破するには力を要する。其の力は障害と闘ふ力であり、同時に善事を遂行する力である。力は大でなければならぬが之れを大にするには肥料を要する。肥料は戦ふことである。戦へば戦ふ度に愈々大きくなるのである。ころぶ程次々に大きくなる雪達磨の様に、戦ふ程、其の度毎に強大となる力である。故に進んで盛んに誘惑と戦はうといふのである。

#### 十一、小せり合はやめて

小箱の中に居る小鼠はいつでも小せり合ばかりやつてゐる。世間が廣くなると小せり合は見苦しい。大國民はどこまでも大度量を持たなければ嘘である。清濁合せ飲み、大小之れを包容し、悠悠として迫らず、泰然自若、大盤石の上に座さなければならぬ。封建の諸侯はも早過去の歴史の頁となつた。舊套を脱して其の自覺に進み、新衣を着し其の覺醒に及び、新興大日本の大國民の抱負を作るの概が新時代の生産物とならなければならぬと同時に、大國民は協力一致其の概の増幅に向つて滿身の努力を爲さなければならぬと信ずる。

### 一教師の立場より

盛岡高等農林學校教授兼生徒主事

安田貞雄

此頃人々は二言目には不景氣不景氣と云ふ。萬人の注意は今や此經濟不況打開と云ふ問題に向けられて居る。しかし經濟的行詰りにも増して恐るべきは我思想上の行詰りである。經濟的不況はやがて又恢復する時がある。失つた富は取返し得る機會がある。しかし今將に失ひつつある我國民精神



は又何れの時に取返し得るか。

此恐る可き思想國難の時期に教育家の末席を汚す一員として聊か自己の理想を述べて見度い。勿論私がこれを實行せる者ではない。自己の行の理想を去る遙に遠い事を日夜耻しく思ふ者である。

今日の學校教師はあまりにも職業的になつて來た。只に智識の切賣を以て足れりとする人も少くない様に見える。世の中が世智辛くなつて來て餘儀なくそうなるのかも知れぬが、教師たる者は學生に取つては父母に次ぐべき、時には兩親以上に力強き相談相手であらねばならぬ。遠く肉親の愛から離れ淋しい冷たい下宿生活を送る學生は、ともすれば心持が荒み、紅燈の巷に足を踏み入れたり、極端な思想に陥つたりする様にもなる。教師は彼等の共同情すべき立場を常に忘れる事なく、學生に對しては良き父とも兄ともなつて彼等の一身上の問題にも相談に乗つてやり、自己の家庭的な暖かい雰圍氣にも包んでやる様にした。

教室で鹿爪らしい顔をして居るだけで教師の役が勤まるものではない。口先で偉さうな事を云つて居れば學生の指導が出來ると考へるのは大間違である。一緒に煎餅でも齧りながら談笑する間に眞の人間としての教育が出來るのである。しかしそう云ふと每晚學生に押しかけられては勉強も何も出來なくなると云はれるかも知れぬ。いかにも尤もな事であるが、せめて一週間に一晩位はこうした門下

生への奉仕の時間を持つてもよいではないかと思ふ。

學生諸君の中には教師なんか世事に疎く何が解るものかと馬鹿にして居る人があるかも知れぬ。しかし世間を知らぬ學生諸君よりは一日の長があるだけ世の中の事も解つて居る。且つ諸君の一身上について最も心配して居てくれる者は何と云つても肉身の次は教師である。私は學生時代によく先生の御宅へお邪魔した。教室で習つた事なんか大抵忘れてしまつたが、先生のお宅で聞いた話や受けた印象は終生忘れられない。

一體學校騒動等の起るのは互に意志の疏通を缺き誤解する事によるのであるから、斯様にして教師學生間が精神的に結び合ひ、兩者の間柄が昔日の師弟關係の様になつて來れば、學校騒動なんか起つてほしいと思つても起りやうがない。

次に教師は何か一つ宗教を持ち度い。宗教は阿片だ等と云ふが夫れは世間を知らぬ若い人々にのみ通用する言葉であつて、多少でも世の中の苦勞を味つた人々は、到底弱い人間の力のみで世渡りの出來ぬ事を知つて居る。宗教は阿片だ等と云つて居られる人は未だ苦勞を知らぬ或意味に於て幸福な人と云へやう。無神論等と云ふものは順調時に於ける言葉の遊戯に過ぎない。

今日の我思想の行詰りは餘りに物質教育を過重視し精神教育を輕視した惡結果である事は識者の等



しく認めて居る所である。青年の思想が日に／＼殺伐粗暴となり、社會を呪ひ人を怨むに至る事は一方に於ては今日の就職難の然らしむる所であつて實に同情すべきであるが、他方に於ては今日迄の教育者が人間以上のものの存在を若い頭に植ゑ付ける事に努力を惜んだ爲である。

しかし今、職業的宗教家を學校に招いて説教してもらふ事は大して効果があらうとは思はれぬ。學生達は夫等の宗教家によつて説かれる宗教的眞理よりも、其話の間に出る非科學的の言葉によつて却つて宗教から遠かる危険さへある。此點に於て必要なものは宗教によつて人間を造り上げた學校教師である。一言の説教はせずとも其信仰によつて、知らず／＼日常の言行の上に溢れ出る何物かが感受性に富む若い學生に感化を與へずには置かぬ。

經濟的に行詰つたデンマルクを今日の盛大にしたものは國民高等學校の力である事は明白な事實ではあるが、其國民高等學校の制度や組織がデンマルクをして今日あらしめた原因ではない。教會の副牧師を兼ねて居る各國民高等學校長の燃ゆる様な宗教的の熱情が一人一人の學生の心を捕へた事によつてデンマルクが救はれたのであると云ふ事を忘れてはならぬ。

天を恐れて人を恐れぬ青年こそ我國難の祖國を負つて立ち得べきものである。斯る青年を造り出す事こそ眞の教育である。

最後に一言書き添へ度い事は教師も學生も今少し感謝報恩の心を養ふ事である。昔の人々は朝毎にお日様に對し柏手を打つて拜禮しお日様の有難さを感謝したものだ。今の若い人々は「何だ太陽なんか高熱の瓦斯體ぢやないか。勝手に光つて居るのだから何も感謝する理由はない」と云ふだらう。しかしこれは科學の學び方が悪いのである。半可通だからそんな事を云ひ出すのである。吾々生物は太陽無しでは暫時も生きて行けぬものである。例へば吾々の生活のエネルギーは食物から來て居る。其食物は直接間接植物から取られる。其食物の主成分たる澱粉は植物が太陽の光によつて合成したものである。すると又云ふだらう「植物は太陽の光がなくとも電燈の下でも炭素同化作用をする」と。しかし今少し考へて見やう。其電燈をつける爲めの發電はどうするか。若し石炭を燃したとすれば、これは太古に於て太陽の光により植物が合成した炭水化物から來て居るのであつて、石炭を燃した時に生じたエネルギーは正に太陽のエネルギーである。水力で發電したとすれば其水の落差はどうして出来たか。太陽が海水を蒸發して高い山の上に雨を降らせた事によるのではないか。従つて水力タービンは正に太陽が廻して居るのである。斯様に考を進めると吾々の生活の全部は正に太陽の恩恵によるもので吾々は毎朝太陽を三拜九拜すべきではないか。

今日の若い人々に食事の時、飯の一粒々々が農夫の汗の結晶であると考へて感謝する人が何人ある



か。毎日登校の途上自分と同年輩の労働者を見るにつけ、勉強に日を送り得る自己の幸福を思ひ、両親に感謝する人が何人あるか。「何だ百姓は商賣で米を作るのだ。両親は子供を教育する義務があるのだ」等と云ひ出す。感謝すべき太陽を有難く思はぬ心持が斯様に四方八方へ飛び出すのである。

若い人々をして斯く物事の有難さを忘れしめたのは其責任の大部分が教師にある。教師其人に物事の有難さを認め得る生きた眼と謙遜な心持とがあるならば、同じ科學の眞理を説くにしても其云ひ表し方に何處か違つた所があらねばならぬ。

兎に角吾々お互は妙な拗ねた眼で物事を見ないで、もつと素直に見やう。然うすれば日常の總てが感謝に満される様になる。有難いと云ふ心持はやがて夫れが報恩の心となり、奉仕の精神ともなるのである。

## 顧れ祖國日本を

愛知縣岡崎市立商業學校教諭 經濟學士

西澤喜洋芽

私はいつも青年に對して、自分の踏みしめてゐる大地をもう一度しっかりと見直せと申してゐます。

私たちの立つてゐる、この日本をしっかりと認識せよと云つてゐます。その踏みしめてゐる大地をしっかりと研究し、自分の立つてゐるところが安全であると云ふことが認め得られてはじめて、その大地の上で起るいろいろな現象を正確に、究めることが出来るのであります。私達の立つてゐるこの日本を間違なく理解し得て、はじめて現在起つてゐる各種の問題に對して、正しい判断が下しうるのであります。現在の青年のうちには、依然として歐米崇拜の思想が流れてゐて一にも歐米二にも歐米と云ふやうに、歐米のものならば事の善惡を判断せず、盲目的にこれを信仰してゐるやうに思はれます。そこから幾多の危険な問題が産れるのであらうと思ひます。この思想が蔓延してゐればこそ、伸びべき日本も伸びることが出来なかつのであります。この思想のために日本の受けた損害は測ることが出来ないほど大きいものであらうと思ひます。今こそ、この有害無益の思想を根こそぎ青年の頭から取り除き去らねばならぬ時だと信じます。勿論かうした思想を青年ばかりが、もつてゐると云ふのはありません。老人達の頭の中にも相當根強く、こびりついてゐます。けれども老人はもうすでに過去の人々であります。日本の將來を擔つて立つにはあまりに傷々しく見えます。どうしても青年に望みを寄せねばなりません。それ故に私は特に青年に云ふのであります。青年達が今にしてこの迷夢より醒めなかつたならば、各方面に於て行き詰りを唱へられてゐる私達の最も愛すべき祖國日本は或は何



人も豫期しなかつたであらうやうな悲しむべき道程を辿らないと誰が斷言出来ませう。醒めよ青年。立てよ青年。御身の血脈に流れてゐる若々しい血潮を祖國日本のために湧き立たしめよ。そして祖國日本の過去及び現状をしっかりと見詰めよ。そこに諸君はいとも華やかな、併しながら神々しき我が日本文化の精髓を認めうるでありませう。この文化の精髓こそ、「花より明るくみ吉野の春の曙見渡せばもろこし人も高麗人も大和心になりぬべき」ものであり、「敷島の和心を人間はば朝日に匂ふ山櫻花」であると思ふのであります。私はこの優れた日本文化を他の何れの國民に對しても誇りうる光榮をもつてゐます。青年は何を好んで異國の文化に憧れる必要がありません。自ら悔つて而して後之人之を侮るとか申します。よく心すべきことであります。かやうにして日本をしっかりと理解しうれば山積してゐる總ての問題は朝日に霜のとけるやうに忽ちにして解決し得られるであります。何故なれば眞の日本を知り得たならば、總ての人々は、そこに各々のなすべき當然の務めを見出しうるからであります。その結果都鄙の青年は皆實質剛健の精神を抱きカフエー行きは絶え都會に憧れて農村を捨てるものは一人もなくなるであります。男も女も各々それ〴〵示された道を愉快に進むことが出来るのでありませう。私は青年が、この難局に直面してゐる我が大日本帝國の將來を擔つて立つ力あることを確く信ずるものであります。それ故に私は安心して、この青年に日本の將來を託したいと思ひ

ます。私は明治維新の大業が、日本文化の精髓を高唱した吉田松陰先生によつて、教へられた青年の力によるものが、大きかつたことを知つてゐるからであります。かく信じてゐればこそ、私は青年に云ふのであります。もう一度日本を顧れよと、私は青年達が私達に「あなた方わすいぶんお疲れのやうです。だからもう休んで下さい。日本の將來は私達の手により今よりも一層よきものたらしめますから」と云つて貰ふことを何よりも望んでゐます。青年よ、健在なれ。青年よ、自分の足元をしつかりと見詰めよ。

## 部隊直行進の精神

兵庫縣立伊丹中學校長

森 田 勝 平

今日の青年學徒は體操や教練に於て部隊の直行進を習ひ又は習ひつゝあるであらう。部隊を構成せる各人は同一地位にあるが如きも部隊長の下に兩翼嚮導あり、前列後列あり、左右前後の伍僚ありて各個に各自の任務を有し、少しも勝手や怠慢を許さず、豪快壯烈なる意氣を以て夫々最善の力を竭し固き一團となりて正しき目標に向つて勇往邁進し如何なる困難障礙をも物ともせず、一舉に之を撃破



せんず勢を以て堂々大地を蹴つて、驀地に濶歩する所に部隊直行進の價値も美も存するのである。

予は元氣横溢せる若人たちが黎明の鐘に目覺めて、夫々の眞の使命を自覺し高く正しき目標を視つめて、相結東して勇敢なる直行進をなし以て百難を蹂躪し人生の難行路を縦斷せん事を切望するのである。自己を生かし家族を生かし町村を救ひ國家を救ふは正にこの部隊直行進の精神であると惟ふ。強く正しく且つ朗かに生きる青年學徒に榮光あれ!!

## 思想問題所感

和歌山縣古座高等女學校教諭

宮 協 信 敬

大凡、現今我が日本帝國が直面して居る難問題は一言にして盡せば、對非常時策といふことに歸するが、その中には曰く思想問題、曰く外交問題、曰く經濟問題、曰く何々と數多く存する。而して今や學校生活は社會と獨立して存在することは出來ず、より密接にその關聯の度を加へて來て居る。それと共に、如上諸問題を如何にして青少年に指導すべきやに付ては教育家の齊しく心を悩ます所である。經濟問題に關しては充分なる職業指導と卒業後に於ける就職指導に、將又經濟價値問題に付き正

しき理解を與ふることを要し、外交問題に付ては、近時滿洲國問題よりしての聯盟との關係を明らかに認知せしめねばならない。

更に思想問題に關しては特に注意を要すべく、予は此處に是の點に關し、青年男女を如何に指導すべきかに付き、卑見を陳べて大方の指教を待つのである。

一體、今迄の教育は餘りにも消極的に墮し過ぎたかの觀がある。勿論予は如上の諸問題の原因を凡てこの消極的教育の弊に罪しようとするのではないが、少くともその一斑は是に歸するを要する。思想問題に於て、先づ然りとす。近時、學生思想問題の起つたことに付ては、種々その原因があり、是等一々に付ては此處には究めないが、社會問題の存在、即ち資本主義の發展に伴隨する勞働問題、小作問題の發生の如き、マルキシズムを生せしめたる第一の原因であらねばならない。或は又種々の瀆職事件の如き、一々數へ擧げるの煩に堪へない。而して是等はマルキシズムを中心とする左傾思想を生せしめたる根本因の一であるが、是等によりマルキシズムが入り來りたる時に於る我教育界の状態は如何であつたか。果して是に對抗し得るだけの準備が出來て居たか。若しも對抗し得るだけのものが存して居たならば、決してかく迄擴らなかつたことは容易に考へられやう。然るに我國に於ては未だ是に對し得るだけの哲學もなく思想もない。従つてマルキシズムを批判し得ることは不可能事であ



る。而も一方、我國教育制度の不完全よりして、青少年に徹底せる思考力、批判力を與へることが出來ず尙且つ、肝心の是等青少年指導者にして、思想能力の不充分なりしことが大缺陷であつた。

一體、是等思想を與へ、批判力を養ふ學科目は、主として修身科、歴史科、其他語學方面であるが今迄の所、是等諸科目の教育が充分行はれて居たとは考へられない。一例を挙げれば、修身科の如き舊道德のみを説き、新道德の如き、見ぬ前から毛嫌ひをし、「君子危きに近寄らず」と豪語して、常にかゝる問題に對しては逃げ腰になつて居たのである。誠、國家の教育としてはさることあらんも、是がそも／＼の誤である。一體、道德思想と云ふものは、その當時に於る社會組織に依て、自ら推移し變化して行くべきが當然であり、従つて道德そのものと道德思想との間には、自らリツプス氏の云へる如く相異がなくてはならない。然るに、我國從來の修身教育はかゝる點に於て、大いに缺くる所があり、而も深き人生觀、乃至は社會觀なり、宇宙觀なりを與へるには餘りにも遠ざかつて居たのである。換言すれば、今迄の修身教育なるものは、往々消極的君子を作るにのみ汲々として居た觀がある。然るに、之は活氣あり、延びんとする潑刺たる青年期の心理には非常なる隔りがある。現今、中等學校上級の生徒にして、此思想問題に對し、何等かの興味を有しない者は殆んど無い。従つて先づ修身科に於ては、人生觀を與へると共に、新思想に對する批判力を養ふことに注意すべきであり、而してそ

の批判力を養ふに當つては、修身科に關係深き歴史科に於て大いになすべきである。

而して、在來の我國思想を養ふには、歴史乃至は國語に依てなすべきであらう。さもめれ、歴史書は古へ、之を鑑と云ひ、四鏡即ち是であり、更に思想書であり、道德書であり、政治書であつたことは、春秋、乃至は資治通鑑などに依りても知ることが出来る。然るに、是等の學科目の從來の活用は又前述修身科の轍と一班である。即ち歴史は唯事件、年代の暗記、羅列に、語學にありては、訓詁の學に傾き勝であり、従つて何等の批判力も思想も與へなかつたのである。勿論、それには配當時間の不足と云ふことにも考慮すべき所があらう。

更に、教育の一大缺陷は個性教育實施の不可能と云ふことである。即ち我國の如く、多數の生徒を一教室に入れて教へ、而も生徒と教師との間には個人的接觸機會が少いと云つた様では、到底この方面の効果は望まれない。此點に關しては充分考慮すべきであらう。是には勿論教師、生徒何れにも批難すべき點があつた。即ち、何れも自ら進んで接觸の機會を求めると云ふことをしなかつたのである。お互に人格の接觸に依て、言葉には表はせぬ點に觸れ合ふのである。教師はそれに依て、生徒の個性を觀察し、それと共に、その生徒の一身上に關することに付き、充分指導すべきであり、そのためには生徒が何等の秘密なく、教師に話し得べき機會を與へてやらねばならない。此の點教師にも生徒に



も缺けて居たように思はれるのである。生徒には、このために常に無邪氣さを保たしめることが必要であり、それは運動を盛んになさしめることに依て可能である。特に、此點青年女子に於て然りとす。かくて、人格接觸を以て進むことが肝要である。尙自治的訓練方面に於ても注意を拂ふことは此種指導には好結果を考へることは明らかであるが、今は此處には述べない。

要するに思想方面に關しては如上に擧げたる諸缺點に注意することに依て、幾分たりとも正道に導き得ようと考へる。徒らに、退嬰的、消極的であることは、青年の心理には決して合するものではない。青年の心理として、稍もすれば革命的なる所があることを忘れてはならない。自主的態度のない所、自己の思想的背景の無い所に、右傾思想乃至は左傾思想が入り來るからして、何等批判することなくそれに突入して了ふのである。先づ自己の確固たる人生觀を把持し、而して如何なる新思想をもとり入れるだけの寛容と、更にそれを批判するだけの能力とを與へておくことが現今學生生徒の思想問題への鍵である。

附記 豫定の紙數に達したため是で打ち切るが、尙修身、歴史等に關しては修身教育十月號、教育論叢五月號、教育時論三月號、を一讀されし。

## 現代中學教育の努力方向

熊本縣立御船中學校長 古賀重利

皇國は今や眞に各方面未曾有の非常時に直面し、徒らに議論の時ではない。青年教導の第一線に立つ吾人は此難局打開のための教育道に驀進せねばならぬ秋である。今吾人中學教育の任にある者の決意と努力方向の概要とを記さう。

### 一、教育者の自覺深化

教育の事に教育者に俟つべきは論を要せず、自己を教育し得る者良く他を教育し得。非常時に於ける教育者自ら自己の使命を深く省察し期する所がなければならぬ。物質偏重、拜金思想乃至は地獄の沙汰も金次第の思想より離れ、感覺的享樂氣分を去り、物質に恵まれざる教育者たる事を恥ぢる卑屈なる心根を打ちすて、難局を打開し新時代を建設すべき重要使命を帯ぶる皇國の教育者を以て自任し、大道を濶歩するまでの自信と勇氣とをもたねばならぬ。

己の理想念願を神前に誓ふ前に先づ生徒に公言し生徒に誓へ。生徒に誓ふの勇氣と意氣とを缺かば



己に誓ひ不言實行せよ。然し非常時は言行一致を第一となすの理を銘記せよ。出逢ふ國難にひるむな  
苦痛を快樂と變ずる力は己の裡に存し己の積極的精神態度如何にある旨を記せよ。憂き事のなほ此上  
に積れかしとは眞に日本精神の精髓を語るではないか。自殺の多い事よ、心中のもてはやさるゝ時代  
よ、斯る消極的態度は日本精神の正道ではない。

從來の教育者はあまりに物質に頭を下げて居た、爲めに卑屈根性に墮した。教育者が餘りに社會の  
風潮に氣がけ、一般社會に引き込まれて居る、覺醒の時機は今である。此迷夢より醒めんには教育者  
は反動的にも質實剛健の氣骨を振起し社會に毅然たる所あるべきである。往昔の社會を率ゐた塾長の  
氣概を學ばねばならぬ。

質實剛健の實を擧げんため全國の教育者起つて統一的教職員制服を制定せよ。少くとも中學校職員  
だけにても制定せよ。軍人が軍服を着る時軍人精神横溢し、鐵道官吏が制服をきる時職分精神緊張する  
が如く、教育者の教育精神を緊張さすべく教職員制服を着用せよ。而して自ら教育者なる事を外に示  
し内に深く教育精神を培へ。教育者は軍人の如く死線に立たず、鐵道官吏の如く生命を預らぬといふ  
者あらば教育者の使命を深く洞察自覺しない者だ。生理的生命のみが尊いのではない。躍動する尊き  
精神的生命を預つて居るのだ。さきに熊本縣が教職員のため標準服並に帽子を制定したのは故ありと

らふべきに、廣く天下の教育者が統一ある制服によつて内精神を改造すべきである。

教育者は身も心も生徒になげ出す教育愛に燃え、抵身奉公の純情に生きねばならぬ。ベスタロッツチ  
の墓碑銘には、*Alles für Andere, für sich Nichts.* (凡て他の爲にし、何物も己の爲にせず)との一句があ  
る。吾人教育者の堅く誓ふべき言ではないか。教職員服にきがねの意識ある教師には知識教育は出來  
ても時代創造の基礎を造るべき精神教育は出來ない。

## 二、日本精神の陶冶と人格教育の徹底

日本精神の淵源は我國體にあり。皇室中心、天皇中心の精神を信仰にまで陶冶せよ。盡忠勤王の精  
神を鼓吹し、勤王志士の純情を生徒に蘇らせよ。功利的思想を排し理想主義的日本精神の特色を徹底  
把握せしめよ。修身科の教授のみでは知識的修得である。日行行事、作業其他あらゆる訓練に於て日  
本精神主義背景のもとに行動する様指導する様特に留意すべきである、犠牲的行爲や奉仕作業の奨  
勵、賞讃は此の精神を助長するに相違ない。

滿洲は我生命線なり故に確保するの功利主義的思想傾向をさけ、人類愛に燃え、東洋平和維持のた  
めに我大和民族精神の正義の憤激なる所以を語れ、生命線の確保は附隨的のものなり。我國民道德の  
特色は此理想主義的特色にある事を十二分に體得せしめよ。斯くして君國に奉ずる青年を育成し人格



教育を行ふを得ん。毎朝會の訓話、時々行ふ講堂訓話や式日の式辭等は我等の熱意以て訴ふべきである、必ず青年は正義正道に走る。國語、漢文、國史其他の精神科學教科は勿論武道教練科等は日本精神の信仰家を育成する良好の教科でなくてはならぬ。

### 三、勤勞教育の強調と校規振肅

作業科設定の眞義を考へ勤勞精神を生徒に躍動せしめよ。打ち込む一鍬にも、振り上ぐる鐵鎚にも報國的、社會奉仕的意義を感得せしめ眞劍なる勤勞精神を涵養せしめよ。校内に空地はないか、校地に雜草はないか、校地の荒れたるは吾等の修道場の汚れ、吾等の精神の曇りだ。校舎、校具の破損は吾等の劍の瑕瑾、吾等の劍に一點の汚點をでかしてなるものか、校舎校具は生徒自ら修理しやう、工作科無二の教材だ。自力更生は先づ學校より、宣傳議論より實踐、難局打開の金剛心は自らに培はれ、湧かん。教師先づ先頭に立て、青年は勇み進まん。斯くて實行主義の精神力と體力とは養はれ、青年は著實なる性格となる。

生徒に強いて經濟國難、個人經濟を説くに及ばぬ。校規を振肅し服裝其他學用品を嚴選し經濟的に規定せよ。徒らに金錢を要する行事を排せよ。學校にありては校命に服せしめ、家庭と連絡し奢侈品購入を取締らしめ、以て生徒の經濟國難に處する道を實踐せしむればよろしい。但し第一種課程を採

用せる中學校に於ては次の問題が考へられねばならぬ。

### 四、實業教育の尊重と職業指導

高等遊民、浮浪の青年を作るは吾等の恥辱、第一種制を採用し得る中學校はよろしく之を採用せよ。實業科教育の成績を挙げ、職業尊重の精神を培へ。卒業生に對しては特に卒業後の學校選定の指導は勿論眞に生徒の相談相手となつて職業指導を能ふ限りに於てなせ。迎へては送る停車場式の中學校は過去のものである。心より生徒の將來を考へ教育し、眞に生徒の將來を計つてやる事が教育者の使命である教師の教育愛に抱かれて人格の向上せぬ生徒は居らぬ筈だ、人格教育に於ける徳育の徹底は教室内の教授のみで完うさるゝものではない。教育者は生徒を我一生の同伴として教へ、愛し導かう、之が非常時に處す教育者の役割である。

### 五、公民教育の徹底

現代は政治非常時である。政治道徳が地に墮ちた。明治維新當時の政治家の政治理想が影を没して居る。然し吾等の相手は未來の政治家や被治者である。政治道徳の理想を説き理想政治を説け、我國法や我社會組織に顯現されたる國體の精華を充分諒解せしめ思想の根柢を日本的に深く培へ、法規其ものより寧ろ法規の根柢に流るゝ日本精神を味得せしめよ。彼等は今直に政治に參與しないが、彼等



が政治に關する權利を施行する場合必ず彼等の魂を奥深き所より支配するに相違ない。

公民科に於て我國の特殊性、我社會、我家庭の特異點を明瞭にせよ。我特殊なる文化は我歴史の所産であり、特異なる日本精神の顯現である。外交ばかりが獨往自主ではまだ物足りない。我文化其ものも採長補短はあつても其中樞は獨往自主の日本精神でなければならぬ。斯くてこそ我大和民族の世界人類に負ふ使命を完了し得るであらう。

我等は公民科に充分の生氣と生命をあらしめ、國家の斯科に期待する所に應へしめねばならぬ。

#### 六、結 び

紙數に制限ありて充分に我意を盡さざる所あるも止むを得ない。然し余の衷心信ずる所は「教育は教育者にあり」といふ事であり、「一ニ師表タルモノ、徳化ニ俟ツ」の御聖旨に應へ奉らんとして慎重自らを教育しつゝ化せずばやまずの教育愛を以て進まんとするのみ。

## ○ 教育の更生

埼玉縣立川越高等女學校長

逸 見 宮 吉

教育の更生は現時の緊急事である。總ての事業は時代と共に推移しなければならぬ。教育觀にせよ教育の方針、方法にせよ時代に副はねばならぬことはいふ迄もないが、現今の時局は到底教育の事業を其推移にのみ任せては置けぬことを物語つて居る。吾々任に教育に在る者が自ら先頭に立て教育更生の道に邁進しなければならぬ。教育は夙に人生の文飾でなくなつたことは誰しも認める所である。教育なくして人生なしといつても過言ではない。

教育即生活でなければならぬ。教育は將來に於ける獨立生活の準備であるなど、暢氣に考へて居ることは、今日の教育には許されない。教育の一、一、一歩一歩が生活其物でなければならぬ。どんな科目もどんな教訓も將來生活の準備といふ様な空想的なものではない、現實に於ける生活に即したものでなければならぬ。さりとして勿論教育は人生々活を先行する燈明である、兒童の經驗の範圍に限るものではない。其精神生活と物質生活との再生活に互つて、現實の人生に即して始めて教育が血となり



肉となるべきものである。近來頻に教育の實際化が高唱せられるやうになつたが、これこそ教育當然の歸結でなければならぬ。今日迄の教育は徒らに道德の理論を説き、實際には即せぬ知識の詰込に汲々たる有様であつた。故に其教へた知識も、養ひ得たと考へた徳操も、其人のものとはならぬ浮いた空虚な統一のない結果に墮した憾が多かつた。教育本來の使命からいつても教育は生活であり實際でなければならぬ。教育の實際化などいふことは寧ろ本末顛倒で、教育は實際から出發して之を歸納して根柢ある知識は人生と結合し、生活其物となつて血となり肉となり強い力となるのである。從來教育は人生の準備と考へたから、總ての準備を或限定せられた歳月に教ふることは出来ないから、教育では共通の原則である知識さへ教へて置けば、之を總ての生活に應用利用し得るものであり、人格もこれによつて修養せられるものであると考へ且實行して來た。其結果が偏知主義となり、知識と人格とが相離れ、知識が實際生活と疎くなつた。人格は知情意の統一である。生活を離れ實際に遠ざかつて人格の修養があるものでない。況んや知のみを以て人格の向上がはかれるものではない。教育が實際に立脚した生活其物であつて、茲に確乎たる知識が構成せられるものである。此點を匡正して始めて教育の更生ができると思ふ。公民科、作業科の教授も此の點を領得しなければ結局失敗の道程を辿ることゝならう。人生の實際生活に目覺めて信念の教育に力を入れることになる。吾々の精神も肉

體も信念の魂に宿つて生々發展の光輝を放つのである。知識も徳操も堅き信念の上に築かれて力ともなり熱ともなるのである。必ずしも宗教といはず、國體觀念に對しても、國民の本務についても、家族友人に對しても、有らゆる學問についても強き信念が育まなければならぬ。吾等の生活は實際の體驗にふれて深き信念となる。信念の教育も實際の教育によつて培はれるものであると思ふ。信念の教育は精神方面の更生教育の根本となり、公民教育が個々の生活の規準を示して、公民たるの實生活に眞に必要な事項を整理選擇し、統合安排して實際に即した僅少の科目を體驗せしめるやうな新たな工夫が教育に加へられたならば、教育の効果は増大するであらう。尙今日の教育に於て甚だ省みられない憾のあるのは經濟の上に立つ教育である。勿論學校は經濟の上に立ち、學校の種類によつては經濟を教授して居り教師も生徒も經濟上の浮沈はあるが、生徒を經濟の中に浸し入れて教育することはして居らぬ。尤も或種の學校、實業學校などで近來この方面に考慮を加へて、自給自足をはかつたり、或種の収入を考へて學校經營を助けては居るが、もつと學校を作業化し、國民皆勞主義を取入れ、勤勞經濟を生徒に體驗せしめながら、生活と人格とを並進せしめるやうな新教育の工夫はないであらうか。時局は今や多難、國民の更生極めて緊要なるの時、暴見を述べて獻策とする。



## 自力更生策

福島縣女子師範學校長

前田恒治

今や我が國は、來年度豫算に於て二十二億三千萬圓といふ空前の多額の支出を要し、然かもその半額は國債によつて充填せねばならぬ状態であり、それ等のために茲數年を出ずして、國債は百億に達することは明かであるといふことである。中小商工業者の救済も、農村の匡救も、現下の状態では已むを得ぬ事であるが、それ等に要する巨額の経費も結局は國民自らがこれを負擔せねばならぬものである。國債増加し借金が殖えるばかりで、これを返す見込みが立たねば、自然財政の破綻を來たし、國運の衰滅を覺悟せねばならぬことは言ふまでも無からう。然しながら、我々はこんな状態の來ることを唯座して待つて居ることは出來ない。どうしても我々はこの苦境難關から脱出更生しなければならぬ。他力本願ではなく、各自の力でこれを打開せねばならぬのである。政府などの救済を受けて一時的に凌ぐことは出來ても、結局は又國民自らの負擔を一層大にするものになるからである。そこで今日の非常時に最も肝要な事は、各自が各自の立場に於て、その生活の基礎を確立することであり、

建直すことである。即ち我が家の生活の基礎を固めることであり、又その町村の經濟を安固ならしめることである。國家の基礎をなす、家並に町村の經濟が整ふならば、國家の經濟も又、更生する譯である。「天は自ら助くる者を助ける」である。先づ自らを助け生かすことが大切である。自力更生も中々容易の事ではないが、「我がものと思へば輕し笠の雪」である。爲さねばならぬことであるなら、必ず爲し遂げることが出來ると信ずる。

各自の生活の基礎を確立し、經濟の建て直しをするには、次に述べるやうなことが必要と思ふ。第一には、計劃的經濟生活である。計劃の代りに豫算といふ言葉にしてもよいのである。先づ職業に於て計劃的豫算的にやることである。從來は農業をなすにしても一向無方針無計劃で、唯傳統因襲に従つて居たやうである。その日その日の事以上には餘り考へなかつたやうである。もつと利害得失について廣く遠く考へて計劃を建て、而してそれを目標として動くやうにすることが必要である。特に家庭内の消費生活を計劃的にやることは肝要である。我が國の家庭の消費生活には中々無駄、不用のことが多く行はれ、合理的には行はれて居ないことが多い。生活を切り詰め、唯支出の經費を少くしたからとて良い譯でない。生活の内容が價值あるものでなければならぬ。食物の如きはこれを切り詰めて榮養不良を來たすやうなことがあつては本末轉倒である。かういふ方面の事は多く婦人がその責任



を持つのであるから、特に婦人に對して、工夫研究をこらすことを望むのである。豫算を立て計劃の下に消費をして、「入るを計りて出づる制して、消費の節約を合理的に行ふやうにありたい。兎に角無計劃で、その日暮しの生活をやつてゐては、到底經濟更生を爲すことは出来ぬ。計劃があり、目標があるならば、自ら眞劍味も加はり、希望を以て働くことが出来、その効果も著しいものがあると思ふ。

第二には、共濟協力である。今日の經濟更生、生活確立には個人の力のみでは到底十分に行はれない。必ず、團體協力の力に據ることが必要である。社會的生活の複雑なる今日に於ては一層この事が必要である。經濟更生には一村、一地方といふやうな處を一單位として、申合とか組合を組織して、協同の力によつて改善進歩を計ることが、最も有力に効果を擧げることが出来る。かういふことは今日は幾らもある。或は申合せて禁酒するとか、結婚の經費を減少するとか、或は多忙な時に共同炊事をするとか、色々の改善をやつて居る處もある。特に産業方面では産業組合の組織である。これが經濟的にも共同心を養ふ上からも非常に大切なものであることは今更言ふを要しない處である。これが甘く行くなれば必ず、その處の經濟状態は復活更生すると思ふ。その利益のある事は知つて居ても、それが行はれないやうなことがあるならば、それは公共心、協同心の缺乏に基くものである。協同のためには我利ばかりでは成り立つものでない。むしろ犠牲を拂ふことが先きであらねばならぬ。

取らんとすれば先づ與へねばならぬ。協同共力の如き新しい社會的の組織は、古い時代の個人的利己的の社會制度の中に生長して來たものには、新しい方法に訓練される事は困難である。そこで將來の社會を經營する青年男女諸君に大に望みを囑せねばならぬのである。新しい時代は個人に代るに團體を以て基礎とせねばならぬ。部落とか村とか町とか地域を以て區劃されるもの、團體が社會組織の基礎となるべきであると思ふ。それでなければ力強い活動が出来ないと信ずる。新しい時代を形成すべき青年諸君は特にこの共濟協力のためには先頭に立つて活動せられんことを望む。これが今日の經濟難を打開する最良策と考へる。

第三に擧げたいことは、實踐力行である。色々の施設も計劃もこれを實行しなければ何の用も爲さぬことは言を俟たぬ所である。今日の最も大きな缺陷は、色々の方案を立て、種々の説を聞いても之を實行して見ないことであらうと思ふ。徒に批評のみ多く、あれもいけぬ、是も面白くないといふ有様で、一向手を着けず、遠くから景色を眺めて居て、そこに足を運んで行かうとしないのと同様である。他のどんな模範的の施設經營でも、それが其の儘自分の家や村に直に實行して効果があるとは限らない。それにはそれ／＼特殊の事情が存するものであるから、それに應じたやうな方法を立てねばピッタリと合ふやうなものがある筈がない。それ故に實行には、その處に應じた工夫を凝すことが重



要である。尙實行といふことは、何事に於ても決して容易なものでないといふことを考へねばならぬ。他人の爲したことや、成功を見て、直に自分がやつても同様に出来、容易に成功するものであると考ふるならば大なる失望を來たすであらう。實行には困難や障害は付きものである。これを恐れては實踐實行は出来ない。困難障害は覺悟の前で、努力奮闘を要する。これはその事が大切重要なこと程多くの力行を要する。特に今日のやうな非常時の人間生活の大問題に對しては尙更である。實行には又繼續といふ事が大切である。辛抱強く繼續せねば効果があがるものでない、今日の經濟復興の如き問題はさう俄かに、短時日の間に効果があがらない、一を積んで二とし、二を積んで三とするやうに漸次に、小を積んで大とする計劃に立たねばならぬ。實行、努力、繼續をすれば恐らくは如何なることも出来ぬことは無いと思はれる。

私は、今日は、我が國民は空前の國難に面して居ると思ふ。外交問題も重要問題であるけれども、それよりも目前に迫つて居る生きる問題である、これが救済を待たねば立ち行かぬといふ、これ程重大な問題が他にあらうかと思ふ。是は外から來る敵を追ひ拂ふて濟むやうな問題でなく、國民各自に課せられ、國民一人一人が解決せねばならぬ問題であり、他に任かせて解決の出來る事ではないのである。よつて以上私は自力更生の打開策數項を述べたのであるが、この難關を突破することは我國民

に與へられたる試練であると思ふのである。私は特に我が青年男女諸君に右の對策を實現實行せられることを切望する次第である。

## 青年男女指導の根本要諦

千葉縣立安房高等女學校長

鴫 矢 忠 部

私達人間には二つの眼がある。一つは顔に付いて居る肉眼、一つは魂の中心に光つて居る心眼です。肉眼では物質の世界だけしか見えません。魂の世界靈の世界は心眼を開かなくては見る事が出来ません。所が今の世の多くの人々は眼といへば肉眼だけだと心得て居る、心眼を開いて靈の世界を見ることを知らないからその見る所は物質の世界だけです。そこに現代世相惡化の幾多の禍根が伏在して居るのです。

物質を代表するものは黄金ですから心眼の開けて居ない人は黄金萬能となる。物質崇拜、黄金萬能はやがて個人主義となり享樂主義となり、果ては政界の腐敗、思想の混亂、道德の頹廢ともなるのです。元より人間が生身の體を持つて居る以上物質生活を輕んずる事は出来ませんし、又或程度までは



黄金の必要缺くべからざるものであることにも決して異議を挿むものではありません。然し其の物質と雖私達が心眼を開いて深く本體を意味すれば、其の内面には生き／＼した生命の躍動して居ることはつきりと認めることが出来ます。凡そ天地間一切のものには生命があり魂があるのです。家も國家もそれ自身一大生命であり、人間に生命があるのは勿論一寸の絲、一枚の紙、一掬の水、一塊の土にも魂が宿つて居るのです。物質に眼の眩んで居る人、肉眼のみで物を見ようとする人にはそれが見えないだけです。

扱て生命あるものは皆生きたいのであり、私達の魂の欲求は一切のものを生かしたいのです。世の中に何か慘酷だといつて生きたいものゝ生命を奪ふ程慘酷なことではなく、何か有難いといつて死地にあるものを救ひ、その生命を完うさせてやる程有難いことはありません。そして其の一切のものを生かし一切の生命を救ふ所のものはお互に持合せて居る魂の力です、換言すれば愛の力です。今の世の中が不景氣であり、物騒であり、人心が荒み、道義が衰へ、何となく暗く、冷く、濁つて居る様に思はれるのは要するに此の力が足らないからです。魂の眼を閉ぢて殺し合ひの生活をして居るからです。其の他にも様々の原因はありませうが根本の禍根はそこにあるのです。

之を救済する爲には經濟機構の改善も必要でありませう。政治組織の更新も必要でありませう、國

家が救済事業を起すことも、國民が自力更生で奮ひ立つことも元より必要には相違ないが、然し如何なる施設にしても此の根本を忘れ、此の要諦を失つては決して救済の實を擧げ得られるものではありません。假令は自力更生の一案として緊縮とか節約とかいふことを高唱するとしても、それが單に物質の末に走り、形の上の消極に止まるならばそれが徹底すればする程體も心も萎縮してしまつて所期の目的を達成することが出来ないのみか、元氣ある青年などは反抗心さへ起す様になりませう。同じ緊縮節約でもそれがもつと根本的な深い源泉から流れて來るものでなくてはなりません。一粒の米でも、一寸の絲でも、一坪の土地でも、一挺の鋤でも、其の物の持つて居る生命を尊び十分にそれを生かすといふ所に眞の節約が出来るのです。こうした節約は人間の最高理想と一致し天地の公道に合體するからそれが徹底すればする程體も心も伸び／＼とし所謂心廣く體胖かになつて來ます。此の眞の節約があつて始めてそこに黄金の花も咲き不景氣も永遠に救はれるのです。私達が眞に己を生かす事に努力すれば長壽も得られ精神も快活に生々として來ます。お互に他を生かさうといふ心さへあれば世の中は必ず平和に圓滿に治まります。仕事を生かせば能率は高まり生産は増し、境遇を生かせば悲觀も不平の必要もなくなり、九千萬國民の一人／＼が一身を國家に繋げて其の大生命を生かす心掛さへあれば國運は隆々と發展して參ります。思想國難も經濟國難も此の一切を生かす魂の力を外にして



之を救ふの道はなく、不景氣な物騒な暗いじめ／＼した世の中を明るく清く平和に住心地よくするの  
も、要するにすべての人が心眼を開いて一致協力本來具有の此の力を十分に發揮すればよろしいので  
す。

私は此の信念に基き去る昭和四年十一月微力ながら「生かさう會」と稱する教化機關を主唱し左の  
實踐要目の徹底を期し奮闘して居る次第です。

一、一切の物を生かませう。

物の生命を尊び之を大切にし無駄を省いて。

二、一切の人を生かませう。

誠實を旨とし同情と親切の心で。

三、自分の身體を生かませう。

攝生を重んじ鍛練を怠らずに。

四、自分の精神を生かませう。

信念を固くし情慾に打克ち心を快活にして。

五、自分の仕事を生かませう。

手落なく考へ氣持よく忠實に働いて。

六、自分の境遇を生かませう。

順境に驕らず逆境に悲しまず。

七、私達の國家を生かませう。

國家の現状と之に對する使命とを自覺して。

尙私は時局に鑑み左のお藥を製造發賣致して居りますから、一人でも多くの方々に御服用を願ひま  
す。

家庭 みるな錠  
要藥

一、處 法

一、おこるな 三、三〇

一、おごるな 三、三〇

一、おこたるな 三、三〇

右一日分二錠とし一回一錠づゝ當分連用のこと。



## 二、用法

一日二回朝食前及就寝前、「おこるな、おこるな、おこたるな」と三度唱へ、よくかみくだいて後服膺のこと（家族一同合唱して服膺すれば一層効果が著しう）

始めは多少飲みにくいが馴れると何ともいへない良い風味が出て来る。

## 三、効能

怒り病、不平病、奢侈病、虚榮病、なまけ病及不景氣風一切、其他之に類似の病一切に特効あり。

本劑を引續き服用すれば以上の諸病を根絶し、家庭が圓滿になり、お金が出来、願事すべて成就すること請合です。

## 四、備考

本劑の原料は何れも神様より授けられた貴重なものです、社會奉仕の爲當分の間無代で差上げます。どうか一般へ御吹聴下さい。

## 青年男女の思想觀念經濟觀念の指導に就て

兵庫縣立上郡高等女學校校長

三 浦 林 平

凡そ國家には理想なかる可からず、滿蒙三千萬の民衆を東北軍憲の桎梏より開放し、樂土滿洲國の成立に絶大の援助を惜まざる我帝國の行爲こそ、人類解放史上特筆せらる可きものたるに拘らず、却つて多數をたのみ、帝國の理想を妨げんとする列國の態度實に憎む可き限りなりと謂はざる可からずかゝる國家重大の秋に當つては、須く國民全般嚴正なる思想を有し一致團結帝國の理想の實現に努力せざる可からず。然るに、一部の人士にして今尙赤化思想を有し祖國愛の精神の缺如せるものあるは實に遺憾なり。

茲に於てか、青年男女に對する堅實なる思想の養成は、宗教家並に教育家の重要なる義務なりと謂はざるべからず。而も從來の偏知的教育が失敗の歴史に終りたるに鑑みて、一般教育家は今後作業教育、情操教育を加味したる中正なる教育方針を採つて全人的陶冶に重きを置き、自主獨立の精神を養ひ勤勞精神の涵養に努むべきなり、併せて職業指導をなして卒業後の就職の機會を多からしむべし。



これ即ち衣食足つて禮節を知り、倉廩満ちて榮辱を知るとは、古今の眞理なればなり。尙誤れる平等觀を止めて差別ある平等を説き、英雄崇拜の思想を棄て、愛郷愛國の思想の青年男女に對する徹底を計り、國史教授を重んじて、國家觀念の明徴を期すべきものとす、我が國民は一般に國民經濟の思想に乏しく、國家の經濟的發展に對して頗る盲目的なり。かくの如き状態に於て國家の富強を望むは、恰も百年河清を待つゝの憾みなしとせず。又我が國民は自力蹶起するの精神に乏しく、徒らに他力に依頼せんとするを以て、現下の財界に處して堅實なる恢復を計らんとするも、實に至難なりとせざる可からず。

されば青年男女に對する經濟觀念の養成に就ては、教育家たる者は特に努力し、苟くも忽諸に附すが如きは、最早時代に適する教育なりと謂ふ可からず。從來に於ては、教育家にして經濟觀念に暗きを以て、却つて教育家らしきものとして、自己も社會も之を認めたるが如き傾向なきにしもあらず。かゝる態度は、今後絶對にとるべからざるものにして、今後の教育家は、須く國民經濟の思想に目覺むる事を以て第一の要件とすべし。青年男女に對する經濟觀念の養成に就いては、個人主義的立場を重んぜず、國民經濟の立場を以て第一とすべく、黄金萬能主義は極度に排斥せざるべからず。黄金萬能主義の如何に國民を誤り風教を害したるかは、思ひ半ばに過ぐるものなきにあらずや。

抑も個人主義的經濟思想は、かのアダムスミスが唱導するや世は翕然として是に向ひ、工場制工業の勃興となり生産は進歩し、各國經濟界の發達誠に驚くべきものあり、人類福祉の増進未曾有のものありと雖も、今や其の經濟思想はその幾部分を是正せざるべからざるに至れるは、あまねく世人の認むる所なり、今日統制經濟等の叫びあるは是が爲に他ならず、而も一步を誤れば、マルクス、エンゲルス等の怖るべき社會主義的經濟思想の出現となるべきを以て、教育家たる者は穩健中和なる經濟思想を以て、國民經濟を基礎としての個人經濟を説くべきものにして、國民經濟と個人經濟との調和こそ今後の經濟思想の核心をなすべきものなる事を斷言して憚らず、青年男女の經濟思想の指導には教育家たる者細心の注意を以てせずんば、所謂角を矯めて牛を殺すの愚をなすべし。豈三思せざるべけんや。

## 大なる幻を凝視めよ

熊本縣立商業學校教諭 手島郁郎

巍然として雲表高く聳へ、全ヨーロッパの水を東と西とに別つアルプスの高嶺に今しも飛び疲れか

大なる幻を凝視めよ



その羽を休めて一羽の小鳥が岩角に憩ふてゐる。一天遽かにかき曇り、ぼつり／＼と雨が降り出した。その雨滴は小鳥の羽を濡らしては足許近くの岩角に當りては、或は東へ或は西と碎け飛ぶ。水は低きに從て流れる。岩をも透して流れる。西に飛むだ雨滴は流れ／＼て遂に美るはしき傳説と多くの絶景とに富むあの清きラインの河とはなり、又遂には大西洋に注ぐ、その流域は薔薇と葡萄の花薫る豊穰なる沃野にして、近代文明の榮を競ふ幾多の都市は河畔にそ／＼り立つ。然れども東に流れ始めし雨水は流れては遂に混濁せるあのダニュープの河とはなり、而も遂に名の如く、うす汚くもどす黒き黒海へと注ぐ。附近は不毛の地、荊とおどろの蔓る處、紛亂絶え間なき土人の住み家に過ぎない。ヨーロッパの癌バルカンとは此處をか云ふ。かく一羽の小鳥の羽上に落ちた雨滴がかくも數千里を隔るに至るとは！

人生も亦斯くの如し！

同じ一の教場で而も一人の教師について日々學びつゝある諸君にして、將來何故或る少數の者は實に眞摯な高潔な有爲な人物とはなつて行くのに又多くの者は多分だらしくも凡々たるロクデナシ否其以下とさへなつてへたばつて了ふのであらうか、そは又何故か。この譬話は教へる、そはその人の生涯の勝敗は一にかゝつて、その行くべき方向、目標即ち理想を如何に決定し、如何に追求して行く

かにかゝる、と。實に青年にして持つべきは崇高なる理想と其を追求して已まざる確乎たる精神とである。只其だけでよい。例へ君にして一飯の食に窮して餓に泣き、又身體虛弱、幾度か咯血に苦惱する事あり、亦君にして屢々輕舉妄動する事ありて人、君を不良少年と叫び、又君學業不良、爲めに人君を低脳兒なりと稱するとも、尙君にして其胸に君にもあらざる一の清き理想を有せんか。私は云ふ人生の勝利は既に君のものであると。

求めよ高き目的を、憧れよ聖き理想に、而して常に追求して已まざれ。荆棘は君の途をよく遮ぐとも、失敗々々、然れども望を失ひて理想を放棄することある勿れ。

理想は遙か彼方にある、君はそれを目指して進む。進めどもいつ到達すべくも見えない。理想は永久に現實と合致するを拒む。こゝに於てか、君は遂に理想に絶望して現實と情死するに至る。然れども、再考せよ。理想は譬ば購はれたる鑛山の如くにして、既に君のものとなつてゐる筈ではないか、君は先づ多くの金を積み富者となつて後、之を獲得したのではない。却つて今の貧窮の身其儘にして既に富める人であるのである。故に富者らしく日々、その鑛山を採掘して、遂に純金を獲得するの目を待てばよいのである。採掘は涉らない、障碍また障碍、身は何時までも貧窮の身を脱しない。それにも拘らず、鑛山は既に購はれてあるが故に、理想は既に君の有であるが故に、君は現實の貧窮



を知らざるもの、如くに、只一途に望みに望み、忍び乍ら其日を待ち望めば可いのである。而して未  
來の或る日、君その蹈み來りし足跡を見返る時に、感慨無量なるものあるであらう。

君をして偉大ならしめるものは只燃ゆる様な理想への憧憬、只それだけである。

然れど其理想とは如何なるものでもあつてよきか、只單なる雲を把む様な抽象的概念を望めよと云  
ふのか、否、決して然らず、眞の確かなる實在——神——を信せよと私は云ふのだ。

私は幼い時は實に氣のこせくした心の怯へた少年であつた。而も人からは常に侮蔑冷眼視され、  
學業性行共に極端に不良、身體は虚弱、何一つとして取柄とても無き者であつた。爲めに如何程己が  
身の不幸を果敢み、いかほど小さい胸は悲しみ悶えたか。或る夜遂に死を決して鐵道線路に死場所を  
求めて踏み迷つた事すらあつた。その事を思ふては今更ぞつと身震ひさへする。宇宙、人生、其は  
幼き私に取つては墓場の様な淋しい姿を示してゐた。然るに十六歳の或る日始めて基督教に接した。  
私は聞かされた。全宇宙を支配する神は愛である、空飛ぶ可憐な小鳥をも人間の如くに種を播いた  
り、刈つたり、貯蓄したりせざるにも拘らず、神は之を養ひ育て給ふ。又野邊に咲く百合の花も神  
に飾られては聚樂の榮華も及びもつかぬ美を装ふてゐる。然ればまして萬物の靈長たる人間をやと。  
神は實に慈愛深き夫の父にて在まし給ふ。彼を信じて仰ぎ望むものには豊かなる力を與へ給ふ。而し

て遂には神の完全なるが如く、私自身も完全なる装ひを爲し得るの日ある事を悟つた。爾來私は私の  
方向を神に向けた。神の愛が解つて來ると共に全く私自身が生れ變つた様な氣持になり、而して神か  
ら示される聖なる幻は理想は、私を遂に導いて新しい境涯を辿らしめるに至つた。私の親類、私の仲  
間には随分放蕩者が續出してゐるが、何故にか、あの不良少年の私が、その卷き添へを喰はないで今  
日までに至つてゐるのかと考へては、私は全く感慨なきを得ない。而して現在に至るまで種々なる誘  
惑、失敗、誤解、窮乏、苦難に忍びつゝ、打勝つて來たその力は實に私自身には全然無い、その力は只  
と高き實在者の裡にある。私の爲し得る事は、只その神を凝めることのみ、苦惱のどん底にありて只  
私の爲し得る事は、泣き乍らもたゞ上を仰ぎ瞻るのみ。然れどその度に勝れて大なる天來の力は奇し  
くも彼より出で來りて私を動かすを知れ。私の過去の全生涯を通じて學び得たる最も大なる事實は、  
只之のみである。又私の小さい生涯を顧みて身を以て若き諸君に叫び得る眞理は、唯之のみである。  
私は云ふ若き日に人の持つべき唯一のものは大なる幻であり、いと高き實在者に自身を結び付ける  
事である。

Hith your wheel to the star! (Emerson) 「汝の車を天上の星に繋げ」である。

惟に此の事は個人に就てのみならず、國民全體に就ても然りである。古のヘブライの詩人は斯く詠



つた。

「幻なき民は亡ぶ」

と。理想を見失つた民族は亡ぶ。その預言の如くに、先づヘブライの國は亡びて今や無し。然のみならず、歴史は示す幾百の國々の興亡の跡を。

然らば果して祖國日本は、櫻咲く大和島根の民は、大なる幻を凝視めつゝありや！

## 現代の世局に直面して

大阪府天王寺師範學校長

淺賀辰次郎

今や我が國は、滿洲問題で、壽府の國際聯盟會議の俎上に載せられて、思ひもせぬ腹を探られて居る。何たる迷惑の事であるか。十九ヶ國の會議とか、第十五條の適用とか謂つて、如何にも我が國の滿洲で採つて來た處置に對して、猜疑の眼を向けて居るやうである。距離が隔たつたり、平素利害の關係の少い地方の事は、兎角認識は不足するものだが、それを悪用して、支那は、虚構の話を偽造して、誠しやかに、之を宣傳するから一犬虚を吠えて、萬犬實を傳ふる姿となつて居るやうだ。滿洲國

は既に本年三月に國家の形を備へて、國際の舞臺に乗り出したのであつて、此の事實は何の國も、それを否定する譯には行かない。支那の謂ひ分は、それは日本が乗り出して造らした者で、滿洲民衆の意志ではなく、依然として支那の領土主權の配下にある者だと主張して居るが、それは歴史を無視し、事實を曲げた暴舉であつて、斷然そんな主張は撤回せしめねばならぬ。支那は領土は廣いが、その主權は確立して居ないのは事實だ。本部の十八省すら北、中、南の三つに分立して、殆んど國家たる職能を行つて居ない。群雄割據して各々が私利を恣にして、民衆の利害を蔑視して居るのが真相ではないか。況んや邊境は、地圖では支那の領土主權内にあるやうだが、殆んどその事實はない。殊に滿洲の如きは、支那の化外の地であつた。加ふるに日露戰爭前には、ロシアのなすが儘に放任してしまつてあつた。

之をロシアの手から奪還して、支那に與へたのは誰がしたか。よもや、それは、恩を感じない支那人でも、忘れはしまいと思ふ。此の滿洲を支那に還附した上に、我が國は滿洲地方に放資した金額も相當に上り、同胞の移住高も三十萬人に上つて居る。滿洲には匪賊の横行はあるが、少康を得て居るから、日露戦後約三十年間に、支那本部からの移民の數は、年百萬人に上り、今日では三千萬の民衆が滿洲を墳墓の地として、移住して居るではないか。此丈の姿になつたのは、誰の力であるかを反



省して見たならば、多少は我が國の眞意もわかるべき筈である。張作霖と謂ひ、その子の張學良と謂ひ、我が國に對して感謝を捧ぐべきであつた。我が國は國を賭して露と戦つた。夫は決して野心を持つてたのではない。東洋の平安の爲めであり、世界の幸福の爲めであつた。殊に我が國の生命線擁護の爲めであつた。

それが、三十年間に次第に蠶食せられて、少しも實行されなかつた。隱忍に隱忍を重ねて今日に來た。此以上は逆も忍べない極限まで堪忍をして來た。昨年九月十八日の柳條溝の事件を、最後として、舉國一致、國民は滿洲問題に對して、支那に酬ふべき方策を決したのだ。爾來茲に一年半の間に我が國民の輿論も、思想も、大なる變化をしつゝある。

世界は今有機的の連鎖體となつた。米國で起つた波紋は、忽ち世界にその波動を及ぼすのだ。レーマン湖畔の空氣が、ラヂオを通じて世界に一喜一憂を與ふる時代となつた。で經濟問題や、思想問題の如きも世界から超越して、我が國丈が超然たり得ない時代となつた。

滿洲問題に對して、世界の誰がどう謂はうと、そんな事に驚く日本人でない事は事實である。八千萬の我が同胞の腹は、疾くにきまつて居る。壽府の國際聯盟の五十三が、滿場一致できめても、その五十三に對する一が、それに首肯しなかつたならば、その決議は何の効力がないとまで、國民の腹は

きまつた。今日此頃は、ラヂオや、新聞で、その聯盟の模様が手に取るやうにわかる。此が爲めに國民は一喜一憂を重ねては居るが、最後の腹がきまつて居るから、さうは驚かない。全權の方々に激勵の電報を送る者が引きも切れない。小國民までが、慰藉の手紙や、激勵の電報を飛ばして居る現状である。

こうなると、私共は色々と考えさせらるゝ。經濟國難、政治國難、思想國難の聲は高い。非常時だとの警鐘は亂打されて居る。然し滿洲問題のやうな、國を擧げて、世界からその最後の審判を受くるやうな嚴肅にして重大性を帶ぶる問題はないと思ふ。家柩れで孝子出で、國亂れて忠臣出づとは眞である。我が國民は今年の九月頃から、思想に對する態度も一變して來たし、政治に對する考も變はつて來たやうだ。不景氣が深刻になり、農村、山村、漁村の隅々までが、その生活に非常な脅威を受くるに至つて見れば、個人的利己的態度では、到底現状の救済が不可能である事が、判然として來たやうである。各地方が深刻に現時の世局に直面して、自力更生を絶叫し、各國部落、各國町村が、協同一致して、部落是、町村是を確立する機運が熟して來たと謂ふ事で、窮すれば通ずると謂ふ諺があるが、漸く覺醒の曙光が全國的に瀾臺して來た事を歡びたいと思ふ。滿洲問題に對しては世界がどう謂はうと、我は焦土となるまで、今日の覺悟で猛進させやうと内田外相が絶叫せられたのは、舉國を